

資料 1

原発のないふるさとを

鳥取県気高郡連合婦人会講演記録・資料

昭和60年(1985)発行の「原発のない
ふるさと」(第3版)を一部更訂し掲載する。

これら講演、資料の中に今日からみると差別的表現ととられる箇所がありますが、次代背景と資料価値に鑑み、修正、削除は行わず原文のままの表記といたしました。

はじめに

発刊のことば

いま子孫に何を遺すか

気高郡連合婦人会会長 村 上 小 枝

〃青谷町・長尾鼻が、原子力発電所の候補地に、地元紙日本海新聞に、ショッキングな記事を見たのは、4年前1979年6月のことでした。その年の3月に、スリーマイル島で、世界を震撼させた原発事故が起こった直後でした。

折しも、県立博物館で開かれた『私たちは原子力発電と共存できるのか』をテーマにした講演会（1979・6・16）に、会長、副会長ら役員4人で参加しました。講師の京都大学原子炉実験所、小出裕章氏は、まず「原発は人類と共存し得ない」と結論を述べてから、原発が抱える数々の危険性を指摘し、さらに、弱者にしわよせる原子力産業の差別構造は許せないと訴えました。

聴き終えたその時、私たちはこの問題に取り組む決意をかためたのでした。

「いのちとくらしとふるさとを守る」を、一貫した活動目標に掲げてきた気高郡連合婦人会が、この問題を避けて通ったなら、後日後悔する時が来るかもしれない、と直感したからでした。

その年の秋、小出氏を講師に『私たちは次代に何を遺すべきか』をテーマに、青谷の地で郡連合婦人会の大会を開きました。そして「私たちはきれいな農水産物がとれる豊かな自然を子孫に遺そう。自分たちの物質的繁栄のために、地球上の資源を使い切って、何十万年も毒性が消えぬ核廃物や、荒廃した環境をのこしてはならないのだ」と申し合わせました。

以来、私たちは「原発」「エネルギー」問題や、全国各地の原発立地点や候補地の攻防の状況などの関係書物を、仲間で情報交換し、つぎつぎ購読して学習を深めながら、できる限り運動の輪を広げるために、地域住民に参加を呼びかけて、共同学習の会を重ねました。

また一方で、講演の記録を、県連合婦人会の機関紙『鳥取県婦人新聞』に掲載する広報活動に、力をそそぎました。

電力会社の宣伝や、金の力に惑わされて、ウカウカと郷土を売り渡すことのないよう、正しい選択をするには、まず正しく識ることが大切です。そんな気高の婦人会の願いを込めて、この講演・記録集をまとめました。このささやかな小冊子を出版することが、原発を郷土に寄せつけぬ防波堤の1つになり、一人でも多くの人に読んで頂くことが、防波堤をより強くすることになると信じます。

一度狙ったら、決して諦めないという、巨大な力をむこうに、今後何年も続くであろう息の長い闘いの中で、講演・記録集の3人の講師、久米・小出・平井先生が、いつも私たちに話しかけ、力になって下さることでしょう。

発刊を祝して

生命とくらしを守るために

鳥取県連合婦人会会長 近 藤 久 子

『原発のないふるさとを』の発刊を心からおよこび申し上げます。

原発建設候補地に長尾鼻が、という情報が伝わるとただちに気高郡連合婦人会では原発の安全性、経済性等をめぐって極めて精力的な学習活動を展開されました。その内容は克明に私たちの機関紙『鳥取県婦人新聞』に載せられ、他郡市の会員もどれだけ啓発されたかしれません。せっかくの貴重な記録、散逸しないようにぜひまとめて出版し、広く学習や運動の資料に役立てることができれば、と願っていましたところ、このたびその夢が実現され、まことに嬉しく存じます。

万一、事故がおこれば、他の災害とことなり、その被害は極めて広範囲に及び、しかもその残忍な爪あとは遠い未来にまで及ぶ、まことに惨酷な害をもたらすのですけれど、とかくうわべの豊かさだけに心を奪われ、面倒なことはよけて通りたがる人びとが多く、さらに偏見が先行し、その厚い力場で真実がさえぎられがちな中で、この種の問題を主体的にうけとめ、生命とくらしを守るために、学習を基礎に、組織的に運動するまでに意識を高められたことは並大抵な努力ではなかったはずです。住みよい社会をめざしてくらしをめぐるさまざまな問題に早くから積極的にとりくみ、健康を守るための総合的地区診断や公害工場の進出阻止等、数々の成果をあげてこられた輝しい活動の歴史にあらためて深く敬意を表します。

島根につぐ原発候補地として長尾鼻が浮上しながら、電力会社がとりあえずあきらめざるを得なかったのも、気高郡連合婦人会の方々の手になるぼう大な反対署名の積み上げがあったからこそと思われます。

このたびの出版を契機に、いっそう学習を深め、連たいを強め、運動推進につとめられることを祈ってやみません。

昭和58（1983）年10月

大会申し合わせ

◎私たちは、次の世代のために、地球上に限りある資源、エネルギーを節約するため

- (1) 物を大切にする家庭教育と実践に努めよう
- (2) くらしのムダを再検討し、付き合いの合理化と改革をはかろう
- (3) 買わされる消費者から脱皮し、主体性を持った消費者になろう
- (4) 税金のムダ使いを監視し、自主的な選挙で、政治家を選出しよう
- (5) 人類が殺しあうために、ぼう大な資源と予算を使う核兵器を、廃絶させる運動を続けよう

◎私たちは、次の世代に、きれいな環境を残すため

- (1) 俗悪なテレビ番組やCM、悪書自動販売機を組織の力で排除する運動を続け、積極的に、良い文化環境を育てる努力をしよう
- (2) 合成洗剤や、安全性に疑いのある食品添加物を、使わない運動の輪をひろげよう
- (3) 安全性に問題のある原子力発電所建設に反対しよう

◎私たちは、次の世代のために、女性差別や同和問題など、差別のない社会をつくりあげる努力をしよう

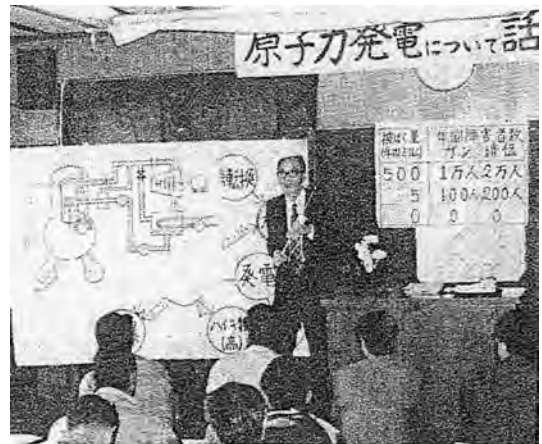
1979年11月25日

気高郡連合婦人会 大会





青谷原子力発電所 予定地
鳥取県鳥取市青谷町 長尾鼻岬（当時）



原子力発電を考える

大阪大学理学部 久 米 三四郎

1. 山陰の地との関わり	243	・ 自然放射線と推進派のトリック	253
2. 原爆と原発		・ このサカナどここのサカナや？	254
・ 原子力発電は火力発電	243	・ 電力会社のもう1つのゴマカシ	255
・ ウランが「燃える」	244	・ 検診のレントゲンにも注意	255
・ 原子爆弾の仕組み	244	5. 死の灰はもれる	
・ 爆発時間10万分の1秒	245	・ 死の灰は無毒にできない	256
・ 原発も結局は湯わかし	245	・ 毒性減るのに24万年	256
・ 制御棒を上げたり下げたり	246	・ 放射能は目に見えない	258
・ 原発1日で原爆3発分	247	・ 放射能は必ずもれる	258
3. 死の灰のこわさ		・ エントツは死の灰の捨て場	259
・ やっかいな死の灰	247	・ 政府公認でタレ流し	259
・ 原爆も原発も死の灰は同じ	248	6. 事故の危険性	
・ 耳カキ1杯で肺ガン100万人	248	・ 原発の事故とは	260
・ 放射能と放射線	248	・ 逃げる間もない暴走事故	260
・ 放射線の急性障害	249	・ カラダき事故と水素爆発	261
・ 晩発性のガンと遺伝	249	・ まだ続くスリーマイル事故	261
・ 見分けつかぬ放射線障害	250	・ パイプのヒビ割れから大事故	262
・ 遺伝の危険性と社会差別	251	・ 鳥取県は地震が一番問題	262
・ 突然変異は微量でも起きる	251	・ 「大事故は1億年に1回」のウソ	262
4. 許容量の考え方		・ 役に立たない避難計画	263
・ 許容量とはしんぼう量	252	7. 結び	
・ 利益は一方、被害も一方	252	・ 原発の危険手当33億円	263
・ 500ミリレムでガン1万人	252	・ カネかいのちか——住民の選択	264
・ 引き下げられた許容量	253		

1. 山陰の地との関わり

私が原発にかかわった動機ですが、兵庫県と鳥取県の境にある香住、あそこに13年から14年ほど前ですが関西電力がはじめて原発を置こうとしまして、あの頃は民宿が登場しはじめた頃でして、その民宿の方々というか住民の方が大学の研究室へ来られて、「放射能の話をしてほしい」と依頼がありました。

いまはすっかりさま変りいたしました、当時は違まして、原子力発電バンザイの時でございます。「原爆は悪いけど原発はいいものだ」という風潮が強い時代でございます、大学の先生がたが皆、「非常にいいものだ」と。それで「こんな田舎へもってくるのはしばらくの間で、あと少しすると大阪湾や東京湾にズラッと並ぶから心配せんでええ」(笑)。

香住の方々が「どうも話の調子がよすぎる」と研究室へ来られまして、それが私がこうして住民の方々とお話するようになったきっかけでございます。

それから次に浜坂にも「原発の」話が出て参りまして、そこの方々とも一緒にかなり長い間やってきました。鳥取県には3年ほど前だったと思いますが、鳥取市でもお話をしました。そしてだんだん西へ来まして、今日は青谷・気高の皆さんとお話することになりました。そういう

意味ではこの山陰両県は非常に印象深い地になっております。

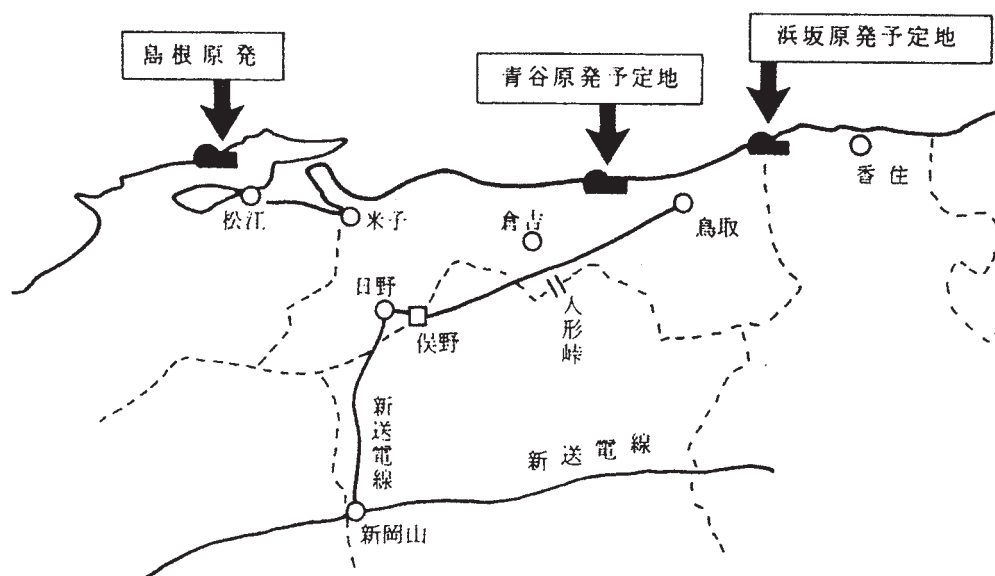
最近では原子力発電をめぐるいろんな問題、つまり、戦争との関係もございますし、また世界中で反原発の運動が盛んになってきております。そういうふうには世界中で原発をめぐるどんな事が起こってるか、というような事を、お話ししたいと思います。そして今後皆さんが原子力発電を考えたり、議論されるには、どうしてもしっかりしたとっかかりが必要だと思いますので。

青谷や気高の人が何を一番心配なさっているか、ということは大体察しはつきますが、やはり、原発とは一体どういうものかということ、そのやっかいさはどうして出てくるのか、それはどの程度のものか、最後にそのやっかいなものをどうして無理に進めようとするのか、をお話したい。その合間に、推進派と反対派とどういう具合に意見が違っているかを折りまぜながら話していきたいと思います。

2. 原爆と原発

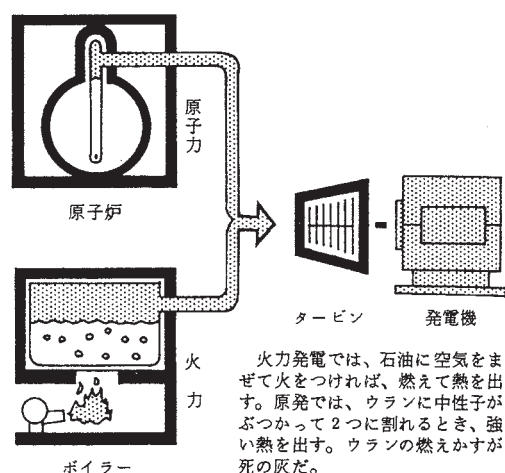
原子力発電は火力発電

原子力発電所というのは火力発電でございます。火をたいて、それによって蒸気をつくりま



して、その蒸気の力で発電機を回す。こういう仕組みになっているのを火力発電と申します。原子力発電がほかの火力発電——石炭や石油と違いますのは、その火力の火、これを原子の火をつかってお湯を沸かす。ここが違うわけでございます。

原子の火というのは独特な燃料がございまして、それを「核燃料」と呼んでいます。その核燃料を燃やして原子の火をつくり出すのでございます。



ウランが「燃える」。

核燃料とはどういうものか。核燃料には現在のところウランというものを使っております。それと、現在はまだ使われていませんけれどもプルトニウム、そういうものもあります。

これらは特別な性質をもっていて、ウランとかプルトニウムは、あるきまった量——大体ドッジボールくらいの大きさと考えていいのですが——を一緒にしますと、人間が手を加えなくても燃えてまっ赤になって参ります。そして熱を出す。そういう性質がございまして、これを原子の火と呼んでいます。

核燃料というのはマッチで火をつけようとしてもあかんのです。そうじゃなくてある量以上を集めてやると自然に火がつく。ですから「燃

える、といってもメラメラと焰をあげて燃えるのではない。原発でいえば棒がちょうど焼け火ばしのようにまっ赤になっている。それが原子の火の燃えている状況、とそういうふうを考えて下さい。

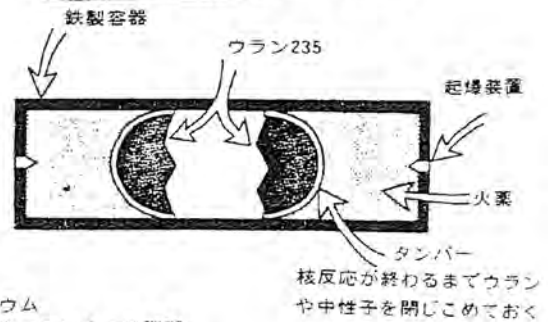
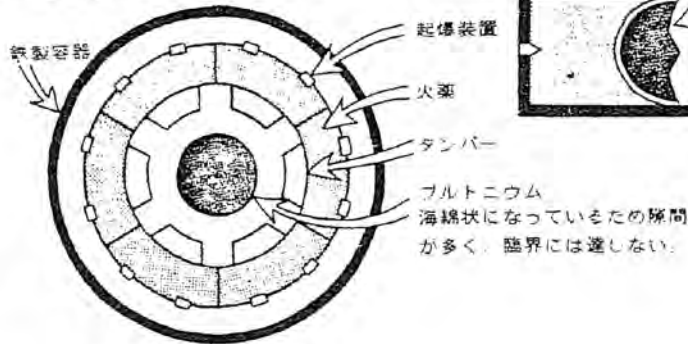
原子爆弾の仕組み

原子爆弾が初めて私たちの目の前に登場したのが、日本人にとって忘れられない、ヒロシマ・ナガサキだったのでございます。

原爆のカラクリを申します。右にあるのが原爆の図でございまして、右が広島に落とされた爆弾、「広島原爆」でございまして、左が長崎に落とされたものです。形が一寸違ひまして、長崎の方は形がずんぐりしてまして、英語で「脂肪太りのおやっさん」というあだ名がついています。広島は細っそりしているので「リトルボーイ」(少年)というあだ名がついております。

で、この中に核爆薬が入っております。原子力発電所の場合は核燃料と呼びますが、こちらは人殺しが目的ですから核爆薬と呼びます。ただしモノは同じでして、広島に使った爆薬がウラン。現在原子力発電所に使っているものと同じものでございます。長崎のは、これがもう一つのプルトニウム。広島原爆をウラン爆弾、長崎原爆をプルトニウム爆弾ということもございまして。

原爆とはどういうものかという、さきほど言ったようにウランやプルトニウムは一つにかたまるとまっ赤に燃える。その性質を利用して、はじめは爆弾の中で爆発したらいいから、仕切りをいれて二つに分けておきます。そしてお尻に普通の火薬を入れておいて、まずそれを爆発させます。まわりにはこの、普通の火薬が爆発したくらいでは壊れない、丈夫な鉄の容れものを使ってあります。で、これが爆発しても容れものは壊れないで、こちらのウランの塊まりをもう一つの塊まりの方にドーン



と押す。そうすると分けてあったウランが一体になりますから、人間が手を加えなくても全体が真っ赤になって原子の火が燃えます。そしてそのエネルギーで今度は容れものが保たなくなりまして、次の瞬間、ピカ！ドン！と爆発したわけですね。広島の上空6,000メートルでこれが爆発しました。ピカというのは真っ赤にやけたその熱線で、大勢の人を焼き殺しましたし、ドンというのは爆風で、大勢の人をなぎ倒して殺したわけです。

ですが、これはスイカの切りみのように、二つじゃなく沢山に分けておいて、そのまわりに火薬を仕かけてその火薬を爆発させます。そうすると核爆薬がみんな、まん中へむいて走ってきて、一つの塊りとなる。そして真っ赤になって次の瞬間に爆発する。こういうことをご紹介します。

原子爆弾というのは非常に簡単だということがおわかりになると思います。アメリカでもこのあいだ、ある学者が、『誰でも作れる原爆の本』というのを書いたそうでございます。

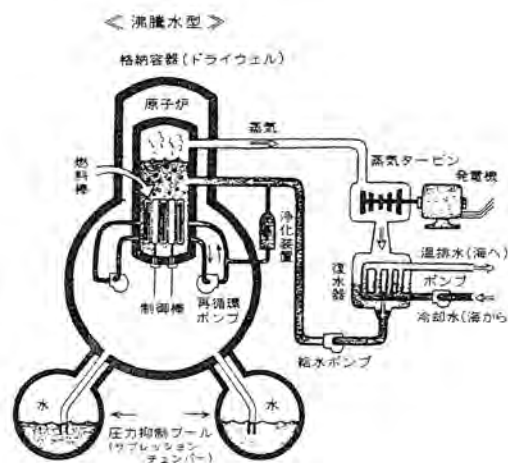
爆発時間10万分の1秒

原子力発電所も同じものを使います。爆弾の時には、これが火の玉の用に真っ赤になるまでにどれくらいの時間がかかるかというと、10万分の1秒。ですから普通の火薬が爆発してウランとかプルトニウムという核爆薬が一体になったと思ったら、まばたきも出来ない間に真っ赤になって、次の瞬間に全体が爆発してる。ですから実際には、普通の火薬が爆発するほとんど同時に原爆そのものが爆発する。そういうことになっています。

ごく短い時間に、原子の火のエネルギーを一挙に出してしまう。そして人を殺す。原子力発電は人を殺すのが目的ではありませんから、もっとゆっくりそれをやろう、というわけです。

原発も結局は湯わかし

ここに原発の絵がありますが（図参照）、中国電力がいま使っているのも、こないだ敦賀で事故を起こした原子力発電もこのタイプで「沸騰水型」。お湯が沸騰する、というあの字の原発でございます。もう一つ、こちらはもっぱら



関西にきている型のものございまして、何れもアメリカ生れの原発です。

図の両方に、丸いところが見えますね。ここで蒸気をつくります。ポイラーです。ポイラーでお湯が沸いて蒸気ができる。その蒸気がこちらへ来て、ここにあるのはタービンといいまして、扇風機のような大きな羽根が何枚もついておりますが、こちらから来た蒸気が勢いよく当たるとグルグル回ります。回ると、発電機の、ここについてる磁石が回って電気が出ていく、とこういう仕組みでございます。

それから『むつ』のような原子力船はどうなっているか、ついでに言うと、発電機のところにスクリューがついてる。タービンの羽根がグルグル回るとスクリューも回って、艦が進んだり後退したりすることになっております。ここに発電機がついてるかスクリューがついてるか、です。原子力発電に戻りまして、このお湯を沸かすところは普通の火ではポイラーと呼んでいますが、これは原子の火ですから原子炉と呼んでおります。原子の火のポイラーという意味であります。普通のポイラーは、窯の底から石油や石炭でたいているのですから、家庭の釜とおんなじです。原子の火は違ひまして、火が水の中、さっきも言ったように焼け火ばしのようなものですから水の中に入れておいてやる。

そうすると水が熱くなる。その方がずっと効率がよい。外から見ると火の気は全然みえません。

しかし結局は湯沸しでして、原子力発電という皆さんにか、ウランを採ってきて魔法の箱みたいなものにいれて、スイッチを押すと殺人光線が出て電気になる——と、これはマンガの見過ぎでありまして（笑い）、この湯沸しに使ってる、それだけのものであります。

制御棒を上げたり下げたり

その燃料、皆さんの絵には太い線で3、4本描いてありますが、実際はもっと沢山あるので、さっきの原爆の絵と核爆薬と同じものであります。

爆弾の時には間があけてありましたが、原子力発電の時にはこの燃料の間に棒がつつ込んであります。その棒のことを制御棒と呼んでいます。島根原発の制御棒がさかさまに入っとった、とか、抜けた、とか新聞に出たあの制御棒です。

で、これは何をするかというと、これが燃料と燃料の間につつ込んでありますと邪魔になって火が点かない。何本も何本もいれてございます。

で、燃やしたい時には下の方に装置がついていて、棒が下がるようになっています。邪魔ものの棒を、ゆっくりゆっくり慎重に抜いていくとどっかで、ぎりぎりのところで、ちょうど燃え始めるところがある。そして特別な線——中性子が出てくるわけです。

皆さんは、中性子爆弾というのを新聞でたびたび見えていますし、『むつ』が太平洋に出た時に、「中性子がもれた」、そして、「ストッキングにご飯粒をつめて一生懸命防いだ」、そんな話を覚えておられると思いますが、あの時出てきたヤツですね。ですから、『むつ』から中性子がもれたのは、制御棒を抜いた、そして原子

の火が燃え始めた、そういう事を意味しますね。

そうやってここへ中性子を感じる装置を置いて、実際に原発を運転するには危険で中へは入れませんから、外に運転室があってそこへ線をひいて、メーターに出るようにしてあります。そうしておいてゆっくりゆっくり制御棒を抜いていくと、どっかで、一寸、メーターに触れはじめます。「あっ、これは燃え始めた」、と外にいてわかるようにしてあります。

そうなるとその段階で引き抜くのをやめてほんとに、燃えるか燃えないか、という程度で燃やしていく。そしてこれが焼け火ばしのようになってお湯が沸いて、蒸気になって、電気をおこす。これが原子力発電所です。

今度は、原子の火を消したいなあと思ったら、制御棒を上げてやればよいわけですね。そうすると邪魔ものが入りますから、焼け火ばしのようなものが冷めてもとの色に還る。ですから、実際はもう少し複雑ですけど、制御棒を上げたり下げたり、これが原子力発電を運転する事になるわけです。この時は爆弾と違いまして、何べんも燃したり、消したり、燃料がもえつきるまで、できます。

原発1日で原爆3発分

広島原爆は10万分の1秒で爆発しましたが、その同じウランが燃えるのにこちら（原発）では約8時間かかります。ここでいま、青谷・気高をねらってる原発ですと大型になります。100万キロワット以上のものが必ずやって参ります。

島根のヤツはまだ小そうございますけれども、あんなものではもうけにならん、というので大きなものになって参ります。

100万キロワットという大きなものになりますと、この中で8時間かかって、広島原爆1発分が燃えてる。ですから24時間、つまり1日かかって原爆3発分を燃やしている、と覚えて

おいて下さい。

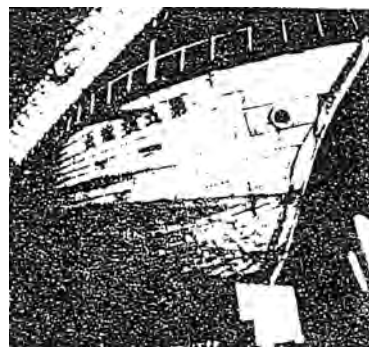
3. 死の灰のこわさ

やっかいな死の灰

原子力発電は制御棒を上げ下げするという非常に簡単なことで、皆さんにもやれそう、フロにも使えそうですけど、フロに使えんのは、原子の火が燃えると、ほかのものに変わっていくからでございます。それは「死の灰」といわれているもので、広島・長崎で死の灰のためにものすごく現在も苦しんでいる人が多いのは、皆さんもご存知のとおりです。それからビキニ。マグロー・カツオを採っておった『第五福竜丸』という船が死の灰を被って、亡くなったり大ケガをされているわけです。そういうものが（原発でも）実はできて参ります。

それは、燃え方を原爆のように激しく燃すか、原発の火のようにゆっくり燃すか、に関係なくて、ウランやプルトニウムというのは燃えさえすれば、燃やした量に応じて、後に死の灰が出てきます。燃えた時間に関係なく、どれだけの量が燃えたかです。

もうわかりですね。広島原爆の3発分が1日に燃えてるわけですから、青谷・気高原発が1日燃やしますと、広島にまき散らした死の灰3発分がたまってくる。1発でもあんな事になったんですから、3発分という大変なこと



第五福竜丸

です。そのために、それが外へ出てこないようにするために大変な装置をつくる。

皆さんのフロで使えんというのはそういう事でありまして、原発というのは非常に簡単で便利なのでありますけれども、その時できる死の灰が非常にやっかいなために、いつまでも反対をうける。皆さんが集まってこうして必配なざるのも、そこが大もとになっている。

原爆も原発も死の灰は同じ

死の灰には区別がございまして、広島でできた死の灰も、長崎でできた死の灰も、原子力発電所でできた死の灰も、全く同じものである、という事ははっきり覚えといて下さい。

問題は、どれだけウランを燃やしたかですから、1日3発分だと1年に大体、1000発分の死の灰が原発のおなかいっぱいに出てくる。とんでもない危険なものだという事になります。

もう1つ、いやらしい事があります。こうしてウランを燃やしていると、死の灰だけではなくて実は、もっとやっかいなものが出る。それが長崎爆弾に使われた、プルトニウムというものでございます。

ウランは山にも海水にも残っています。しかしプルトニウムは、地球上には全然残っていない。長崎の爆弾はですからどうしたかということ、いまの原子力発電と同じようなものを作ってウランを燃やしました。そうすると次々にプルトニウムができてくるという、そういう性質を利用して長崎の爆弾をつくりました。ですから、原子力発電やっていると、1つは死の灰、もう1つはプルトニウムができる。

耳カキ1杯で肺ガン100万人

プルトニウムがなぜいやらしいかというと、第1に、そういう爆弾の材料になるということです。イラクの原子炉がなぜ爆撃されたかということ、原子炉ができると必ずそこに原爆の材料が

できる。これでイスラエルを攻撃する原爆が作られたら、というのでイスラエルが先制攻撃をかけて爆破してしまった。そういう戦争につながるものが出る、という事がひとつ。

もう1つはこれが非常に猛毒で、耳カキ1杯分——大体1グラムですが——をそのまま飲んでも効果は薄いんですが、煙のように、こう、細かいチリにして、大勢の人に吸わせますと、100万人の人を肺ガンで殺すことができるという、人間が創り出したものの中では、最も猛毒だといわれているものでございます。発ガン物質ですね。

それがどれくらいできるかというと、やはり100万キロワットぐらいの大型の原発になると、なんと1年に300キログラムです。1グラムで100万人殺せるわけですから、300キログラムで何人殺せるかは、後で計算して下さい。

地球上の人を何べんも殺せるようなものが、1年で死の灰（原爆の）1000発分と、プルトニウム300キログラムが、これはもう、放っておいても、原発を運転している間に出来る。これが、処理でも設備にも、原子力発電に最後までつきまとう大きな問題でございます。

電力会社のパンフレットなど見ますと、「原発の中には確かにやっかいなものができる」と非常に簡単に書いてありますが、どれくらいやっかいなものが、どれくらい出来るかという事は書かないのが、ああいうパンフレットの特徴でありまして、皆さんもそこをしっかり押さえておきませんと、「何かまあヤイヤイ言ってるけど大した事やないな」と思ってしまう。

放射能と放射線

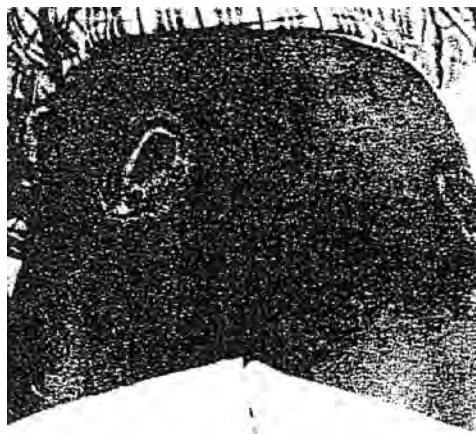
死の灰やプルトニウムを総括して「放射能、と呼んでおります。放射能とは放射線を出す力そのものを言っておったんですが、この頃では放射線を出す力をもった物質も放射能と、専門家の人もそう呼んでおります。

放射線というのは目に見えない光線です。この部屋に出ているのは目に見える光線ですね。だが、エネルギーがもっと高くなると段々目に見えなくなる。こういうものを放射線と呼んでいます。

皆さんの身近にあるのはレントゲンとかX線。いまでも病院ではX線科と書いてございますが、両方ともこれは、放射線という言葉とおなじです。ただ、病院では、お医者さんが「息をとめて」と言う時だけジーンとスイッチが



〔例1〕
エックス線の発見者レントゲン博士の助手の手。
ひどい放射線障害で指がぐねぐね曲がっている。



被ばく後53日、尻の放射線皮ふ炎

〔例2〕10年近く前、千葉の造船所で起きた放射線障害。検査用のイリジウムという放射能を知らずにひろった労働者がズボンのポケットに入れていたら、手や尻が放射性皮ふ炎でひどくたれた。

入って、後は放射線が出ない様に消してあるからいいんですけども、放射能というのはスイッチなんかついたらんですから、四六時中、放射線を出している。

放射線の急性障害

放射線というのは、お医者さんでも使うから役に立つ、と思っておいでかもしれませんが、実はお医者さんのものでも当たるとまず害が出てくる。非常にやっかいなものでございます。で、それを放射線によってひき起こされる病気、というので放射線障害と呼んでいます。

放射線障害は大きく分けて、急性、の障害と、後から、忘れた頃に出てくるという意味で、晩発性、の障害というのと、2つございます。

急性というヤツは読んで字の如くに大体、放射線を浴びてから2週間ほどの間に勝負がつく。亡くなる人は亡くなってしまうし、生き残る人でもケロイドなんかになって表へ出てくる。具体的には、髪の毛が抜ける、皮ふがボロボロになって、血を吐いて死ぬ。そういうので、これは私たちの体をつくってる細胞が死んでしまって、潰瘍状態なんですね。皮ふや内臓なんかの細胞がぐじゃぐじゃに崩れて血を吐いたりして死ぬ。こういう病気でございます。よく、皆さんが広島・長崎の写真をごらんになって目にされるのがこちらでございます。

晩発性のガンと遺伝

もう一つ、さらにやっかいなのに晩発性というのがありまして、放射線を浴びてから忘れた頃に出てくる。晩発性の害にも二つありまして、一つはガン。もう一つは遺伝的障害。すなわち、親が放射線を浴びたために、子供や孫に、困ったいろいろの障害がひきつがれていく、というこの二つがございます。

ガンと遺伝の障害の二つは、これはまるっきり違うようではございますけれども、この10年ほどの間

にいろいろ調べられて、もとは一緒だ、ということになりました。それは、私たちの体をつくっている細胞は大きく分けて2種類ありまして、体をつくっている、胃だとか腸だとか肺だとか、そういう体をつくっている体細胞。それから、男の人も女の人も、子供をつくる上だけ役に立つ生殖細胞。男の人では精子になりますし、女の人では卵子になる。そういうものになるもとの細胞を生殖細胞というんです。

その2種類がございますが、これが放射線にあたって死んでしまえば、それはもう、さっき言った急性障害ですが、そうじゃなくて、死なない程度に浴びると、細胞は生き残るんです。けれども変化してしまう。それを「突然変異」といいます。

これは添加物の問題なんかで気高郡の婦人会さんは随分やってこられてご存知ですけども、その突然変異した細胞がもとになって、体細胞の場合はガンになって増殖して参ります。生殖細胞の場合は増殖はしませんけれども変化した細胞はそのまま、子供にひき継がれていく、ということになって、突然変異した、困った性質が、子供・孫・またその子供という風に受けつがれていく。

要するに、ガンも遺伝の問題も、放射線にあたって突然変異するという点が、両方が共通し

ていることがはっきりしてきた。ですから、放射線のやっかいなのは、発ガンと遺伝毒性ということが中心問題となってくるわけでございます。

見分けつかぬ放射線障害

そのあらわれ方で非常にやっかいなことは、放射線でできたガンと、例えばタバコを喫ってできたガンとは区別がつかんのですねえ。全然つきません。それから、放射線を浴びてからずうっと後の、忘れた頃に出てきますからこれも大変困る。

縁起でもない事言うようですが、いま青谷に原発ができたとします。そうするとエントツから放射能が出てくるわけですから、それで皆さんがガンになったとして中国電力へ行ったとしても、「証拠もってこい」というわけですから、原発の放射線でガンになったというその証拠は全然ない。そこが一番問題なわけです。

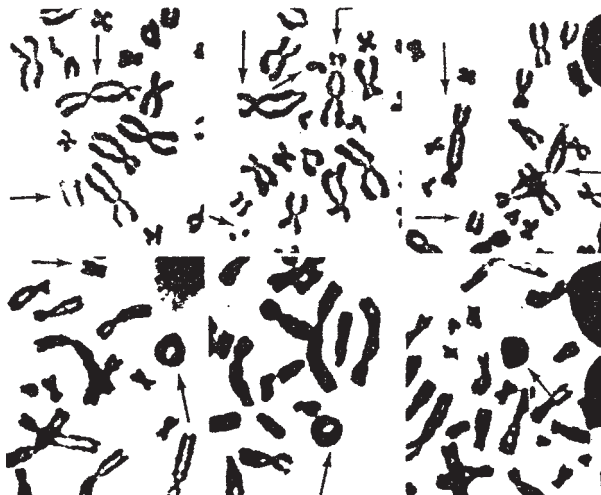
どうやったらわかるかということ、疫学調査というのをやります。原発ができますねえ。そして気高・青谷の発ガン率というのを年々調べていってると、10年ぐらい経った頃からだんだん増えてくる。どうもガンで死ぬ人が増えていく、ということで、どうやらこれは原子力発電所ができたせいじゃないか、となる。

子孫の影響となると、これはチョットやソットではわかりません。皆さんが死んでしまったはるか先になってわかるわけで、こりゃもう、どうしようもありませんが、ガンの場合は数十年ぐらいの間にそれが出てまいります。

しかし、そうやって何となく、青谷や気高の人に、また鳥取県の人にガンが出てくるといっても、そのガンになった人の中で、誰がエントツから出た放射能でガンになったか、は金輪際、証明できません。

因果関係がはっきりしないままに残る。この所が一番やっかいな問題ですから、放射線障





リンパ球（細胞）中の染色体異常を示す顕微鏡写真
被ばく後400日
矢印が変形を起している染色体



害のことをいう場合に、急性障害はもちろん大変なことですけれども、晩発性障害の方が問題にされるわけです。

ですから、これは浴びてしまったら一巻の終り。ですから、その前にできるだけ浴びることをくいとめよう、と世界中が一致しているのはそのことでございます。この点をぜひ、皆さんは理解していただきたい。

遺伝の危険性と社会差別

この間、福井県の大飯町で原発が増設されるというので住民が反対したのですけれども、とうとう町が押し切ったという事がありました。その時、あるお医者さんが個人名でこういうピラを流されました。最近、福井県の若狭地方にガン患者が増えてきた、という事が書いてございます。これは、その先生だけでなくこの地方の何人かのお医者さんが同じことを言っておられて、「どうもガンの発生率が高くなってきた」と。

しかし誰が原子力発電所の灰にやられたかは解らないのですね。そして、こういう言い方をしては福井県の人には悪いですが、結局は、あとへは社会的な差別として全住民へのしかかってくるのです。

発電所の附近の人にガンが出るということはまた、遺伝的な欠陥もある場合がある、ということです。発ガン率が高くなったということは、当然、遺伝的な影響も受けている。そうすると、原発附近の人には結婚問題という形で非常に深刻な社会差別が出てくる。これは何と考えても、言葉でうち消しても、そういう問題だけはその地方の人に重くのしかかってくる。

実際にガンになられた方もならない人も、悲惨な、陰惨な形で放射能の影響というのが出てくる。特に遺伝毒であるという事があるために、一層、その陰惨さが増してくる。

突然変異は微量でも起きる

このガンや遺伝の問題で、もひとつやっかいなのは、急性障害というのはある程度以上の放射線を浴びないと、細胞がぐじゃぐじゃにやられるという、広島・長崎に多く見られたような障害は起こりませんが、ガンや遺伝障害の原因である突然変異は、どんなに少い放射線をあびた場合も、必ず、私たちの体の中につくられていく。ただ、私たちの体には何億という細胞がありますから、1つや2つやられてもガンになって出てくる率は減る。こういうことになるのですね。

皆さんの中にも煙草好きの方がおられたら申し訳ありませんが、「煙草喫うたらいかん。肺ガンと関係ある」という事ははっきりしてるのに、「死んでもええ」というて喫うておられる方がある（笑い）。そういう人に限ってなかなか肺ガンにならん（大笑い）。

あれとおんなじで、発ガンの機構とかそういう確率の点ではクジやアテモノと一緒に、運の悪い人は一発でもやられるし、運のええ人はお尻から煙が出るほど喫うても肺ガンでは死なん（大笑い）。

でも、1日に50本喫う人でも、1本しか喫わん人でも、体内で肺ガンの原因が作られる、という点では同じです。だから体に対して絶体安全だという量はない、という事になってくる。この点は非常に大事なところでございます。

4. 許容量の考え方

許容量とはしんぼう量

ところが世の中には「許容量」というものが出てきます。

この10月26日（1981年）の新聞に政府が出しましたし、たぶん電力会社も出すと思いますが、大きな紙面を買い切って、「原発から出る放射能など問題にならん」と、そういう図が出ております。ああいう図がでてくるのは許容量というものがあるからです。

どうして許容量というかというと、本当は体に対して安全な量というのは絶対にないのですけれども、原発をつくと電気が出てくるのでうおう、と。だから少々事はあってもしんぼうしよう、と。そのしんぼう量というものを許容量というわけです。体が許す、という量じゃなくて、人間が許す、そういう量であるわけです。この点を間違えないように。

しかしこれには1つ、おとし穴があるんですね。

利益は一方、被害も一方

国会かなんかで議論する時は、日本全土で利益と損害が重なるように議論します。しかし、実際には原発を作って利益を得る人と、それから死の灰を残される人とは社会的に分かれてしまうんですね。被害は一方だけ、利益は一方だけ、となる。それを全体をつつ込んで国全体で、バランスがとれてる、と。たとえそうであつたとしても、非常にそこに問題が出てまいります。

本当に電気を使う山陽側で原発をやるんでしたら話はわかるのですけれども、電気は表（山陽）で使って原発は裏（山陰）へもってくる、というんでは、便利さとやっかいさを受ける者がそこで分れてくる。そうすると、「しんぼうしよう」というのは「する方はしんぼうだけしよう」という事になってくるので、各地で問題が出てくる。

500ミリレムでガン1万人

1年間にどれだけ放射線を浴びたか、というその「どれだけ」という量をミリレムという言葉で表わします。ここでもう、皆さん、いままで1回も聞いたことない言葉だということで、「もうアカン」（大笑い）とこうなってしまうんですが、そんな事ないんで、1メートルの1000分の1をミリメートルと言いますね。そんなもんです。

ただこれは、長さの単位でなくて、どれだけ体に悪い線を浴びたか、の単位なんです。それ

放射線障害の発生数

被ばく量 (年間・ミリレム)	年間障害者数 (人口1億人につき)	
	ガン	遺伝的障害
500	10000人	20000人
5	100人	200人
0	0人	0人

をちょうどメートルのように、体に対する放射線の影響を表わす単位としてレムというのがあって、それでは大き過ぎるので1000分の1＝ミリレムというわけです。

そういう単位で表わしまして、1年間にいくら浴びせてもよろしいか、というように決まるのです。1年間に500ミリレムという量が出てくるわけです。ところが、いまも言ったように、放射線は体にとってどんなに少くとも無害ではありません。で、1年間、500ミリレムという量を1億の人にずっと浴びせ続けたら、国民の間にどれだけガンや遺伝の問題が発生するか、というのがこの表です。(表参照)

これは私たち反対派がデッチあげた数字ではなくて、1972年にアメリカの一流の遺伝学者・医学者・生物学者20人ほどを集めて政府が計算させた結果でございまして、もしもこんな量を1億の人たち全部に浴びせ続けますと、1年間でガンで死ぬ人が1万人できるし、重大な遺伝的欠陥——外から見てわかるような欠陥、それから厄介な病気の中の幾つかは遺伝病である事が判っていますが——そういう重大な遺伝障害をもった赤ちゃんが2万人生まれてくる。こういう計算になってるわけでして、とても安全量とはいえないわけです。

なんでこんなものを認めているか、というと、日本は国会を通さないで、科学技術庁や通産省の告示という形で、皆さんの知らん間にずっと作ってるんですけれども、日本の国民全体がこんな放射線を受けることはまずない、だから表のようにはならんと、それだけでありまして、放射線のやっかいさというのは全然否定できない。

引き下げられた許容量

アメリカでは、1969年の頃に非常に住民運動が盛んになりまして、「500ミリレムなんてとてもしんぼうできない」というので反対運動

をした結果、アメリカ政府はその100分の1の5ミリレムというのを、法律の方は下げるわけにはいかないけれども、原発をつくる時の目安としては一応5ミリレムを守るように、という基準を1970年代につくりました。

で、日本の電力会社は猛烈にそれに抵抗しましたが、結局は3年おくれて、そういうことになりました。10月26日の新聞をもっておられる方は見て下さい。その一番下のところに5ミリレムという数字の出ているのは、こういうところから出ている。

いま自慢そうに、100分の1に減らした、と言ってる人＝電力会社は、陰で猛烈に反対したのであります。日本はアメリカのようにはともやれん、これでええ。といって随分反対したことを、全然、表に出さずに、いまのこれを自慢そうに示しているのであります。

100分の1の5ミリレムとなると、ガンも1万人の100分の1の100人、遺伝障害は2万人の100分の1の200人、とこうなります。原子力発電でこれくらいの死の灰を浴びても、出てくるガンは1年にこれくらいだから、遺伝に害のある赤ちゃんはこれくらいだから、原発は便利なものだからしんぼうしよう、とこういう事になっておるわけです。が、「わしはそんなイヤだ。ゼロにしよう」となると原発をつけないようにするしかない。

これでおわかりのように、許容量というのはそれを受ける人たちの考え方で決まってくる。ですから、国によってその値（あたい）が違ってくるわけで、住民意識の強いところはアメリカのように下がるし、そうでないところはいままでの値の使われるところもある。ぜひ、この許容量というものを考えていただきたい。

自然放射線と推進派のトリック

推進派は「放射線は自然の中にも100ミリレムぐらいあるんだ。それに比べると原発の5

ミリレムというのは問題にならん」と。「自然の100ミリレムの中で人間がこれまで生きてきて、どうってことないじゃないか。だからそれよりずっと低いだから問題にならん」と。その論調が1つです。これは大きなトリックがあります。

「自然、というのは、宇宙線という、どこか分らん所からとんでくるものが3分の1ぐらい。それから壁の中、あるいは泥の中にウランが入っていてそれが出てくる。野菜の中にもあるカリ、あの中にも放射能はございます。そういうもので体の外からも内からも照らされます。

こいつは地球上に住んでる限りは、いまのところ避けようがありませんし、そういう環境の中でずっといままで生きてきたわけです。それはどういう事かという、100ミリレム浴びてると、日本は1年に大体20万人ぐらいガンで亡くなっているのですが、その中の2000人ぐらいは自然の放射線で亡くなっていることになります。

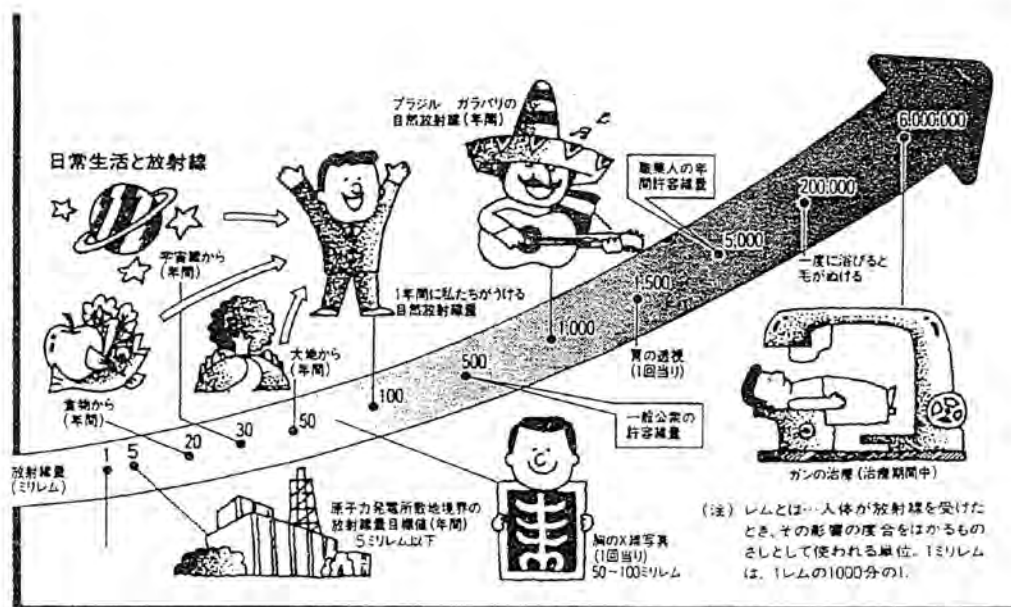
遺伝的の障害をもった赤ちゃんも生れてきま

すが、その中の4000人ほどは自然の放射線を浴びたために生れたのだ、と。それがバランスがとれた状態ですすんでいるために見かけ上は何もないように見えますけれども、実際は、自然といえども、そういう害をちゃんとつくり出している。

それを「自然にあるから」というと、皆さんは「安全なものだ」と思われて、さらに「それよりずっと低いから問題にならん」と、こういうふうに言ってるというトリックを知って下さい。

このサカナどこのサカナや？

もう一つの論調は、自然にも100ミリレムあるのだから、その100分の5の、5ミリレムは大したことはない、と。竹村健一さんという人が『私も原子力が恐かった』という本を書いて、「自然の（放射線）はカワラが頭に落ちたくらいだが、原発から出るのはハエが一寸とまった。そんなもんやのに住民がワイワイ騒いどる」、とこういう書き方をしてるんだそうです



『日本海新聞』（1982年3月7日）に掲載された中国電力の原発推進の広告『今、なぜ原子力か』より。

が、そのインチキはこうです。

5ミリレムというのは確かに影響は少い、という事はわかりますね。しかし当たった人はガンになる。あるいは、その子供さんに不幸な結果が出てくる。当たらんかった人は「助かった!」。こういう事になる。ですから、当たった人は全体だから、全体が皆、こう、ハエがとまってチョット痛い、というのでなくて、やられる人は確実に殺される。クジ引きみたいなもんですね。

「大丈夫や」言うエライ先生に限ってその晩民宿へ泊ると、「このサカナ、どこのサカナや?」(大笑い)。それは何でかいうと、一寸かすったかすり傷というようなわけにはいかんです。その先生が食べる、あるいは土産に持って帰って子供に食べさせると、ひょっとしてガンになるかも知れんです、それは。そういう意味で、確率で低い、という事で、それを頭にハエがとまって払うようなもんや、とごまかしているのです。

だから例えば、死の灰が入ってない魚と、5ミリレム程度やけど入ってる魚を目の前に置いて、竹村さんも子供にどっち食べさせようかというたら、入ってない方を必ず食べさせます。これは親がやる当然の行為です。いくら少くても、うっかり引いたらその子にとって将来、不幸になるというヤツは食わさんのです。そこをごまかしてる。

放射線によるガンや遺伝というのはどうして出てくるのか。結局、最後は突然変異でどんなに少い線を浴びても突然変異は確実に起こる。ただ、起こり方が多いか少いかの違いという、そこをしっかりとつかまえておいて下さると、怪しげな理屈にだまされずにすむ。

電力会社のもう一つのゴマカシ

もう一つのゴマカシは電力会社のパンフレットや新聞広告に出ているもので、左下から

ズーッと右上に線が上ってる絵がかいてあって、左下の方には原子力発電所、右上にはガンの人が寝て放射線当ててる絵がある。そこへ何万という数が書いてあって、それと5ミリレム(原発の)とは比べものにならん、とこう書いてあります。

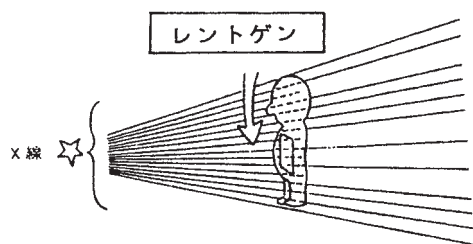
あれももの凄くインチキで、大体ガンの治療に当てる放射線というのは、ガンでもう後2~3ヶ月で死ぬかもしれん。けど、それを一寸でも延ばしたいというんで、他をやられることを覚悟してるんで、いまのガンをやっつけるために、10年先、20年先のガンをあきらめよう、とそういう事をやってるわけです。

ご婦人の方で乳ガンで放射線当てて、数年後にそこからまた別のガンが出来る、という例が幾つもあります。そんな、もう、のるかそるかの時に当てる線量と5ミリレムを比べて、同じ図にのせて「問題にならん」、という。こんなものを皆さんの税金で国の名前で新聞に載せるというのは、許し難い行為やと思います。

同じ載せるならもっと身近なものをのせる。レントゲンの場合も100ミリレムですから、それをずっとやってると、ちょうど自然のものと同じで、1枚撮る毎に年々2000人はガンで亡くなってる。それから当てたその子供さん、当てた子供の子供から4000人ほど、欠陥をもった赤ちゃんが生れているわけです。にもかかわらず、これまで何でそんな事してたか、というと、肺結核で死ぬ人が多かったからです。で、早く発見して治療して救おう、ガンで後で死ぬ人より結核で死ぬ人が多い時にはそれをやろう、という事だったわけです。

検診のレントゲンにも注意

最近、肺結核がだんだん治るようになって、レントゲンは小学校で1回、中学校で1回になっています。それ以上は浴びせない。特に子供には影響が非常に大きいですから、そういう



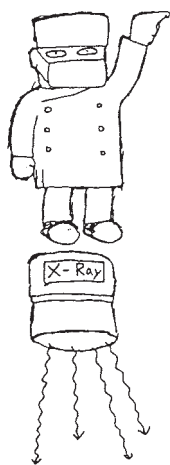
細胞にやたら当てる事はよくない。少々結核の発見が遅れても、小・中学校で1回ずつとなってる。ですからあんなとこへ100ミリレムと無神経に書くより、その100でさえ出来るだけ浴びせないようにしてるんだ、という注意をいれて、初めて政府が出すべきものなんです。

それから胃ガン検診。私もおととい受けてきましたけど、40才過ぎると公務員は強制的にやらないかん。なんで40過ぎてからやるかという、あれはもう、1000ミリレム近く浴びせるわけです。そうすると、40ですからガンは出たとしても大体20年あと、60から65才で出ますから、ま、その頃はもうあとあんまり残りがなければいけぬから（大笑い）。

若い人にはなぜやらんかという、若い人のガンは怖い。30代の人のはアツという間に死んでしまいます。若い人にどんどん検診で放射線当てると、ほんとのガンより浴びせて出来る

ガンの方が多くなるからです。で、平均寿命がだんだん延びて、公務員もいま45才からになってる。45才から強制的にやって25年経ってガンが出ても70才で、大てい平均寿命と一緒にやから、ま、よからう（大笑い）——と、こうなってる。

みんなそういう均合いを保って医療業務をやってるわけで、無害だからやってるん



でなくて、やむにやまれずやってる。それを原子力発電所のこんな数と比較している。ぜひとも皆さん、このところはよく討論しておいて下さい。そうするといろんなインチキにだまされずにすむ。

5. 死の灰はもれる

死の灰は無毒にできない

それから死の灰やプルトニウムのやっかひさはまだあります。1つは、死の灰はそれを無毒にする手段をもっておればいいんですね。放射線にあたって病気になるわけですから、放射線が出てこないようなものに変えてやればよろしい。ところがそれが実は、私たちもそういう方法はないかと思って一生懸命やったんですけど、現在までのところ世界中でまだ、そういう原理が見つかっていない。

放射線を出すものは、こんな（原発）装置で割合、簡単に作られるようになりましてけど、作ったものを放射線が出ないようにするという手段はないんです。あれば原子力発電のやっかひさはずいぶん減るわけですけども、どんなにお金をかけてもいまのところそれを消す方法がない。で、どうするかという、それはコンクリートの中へ閉じこめて、みんなの所へ出てこないようにする。

毒性減るのに24万年

幸か不幸か、放射能には寿命がございます。ちょうど、買って来た電球が寿命があるのと同じで、安物の蛍光灯ははよ暗うなるし、上等のは長うもつのと一緒で、蛍光灯の明るさがもとの半分の暗さになった時の時間を——放射能の時もおんなじです。死の灰をもってきて置いとくと、初めは勢いよく放射線が出ています。それが、時間が経つともとの強さの半分に減る。その期間を「半減期」と呼んでいます。放射能

《放射能の半減期の1例》

アルゴン 40 (空気にまざっている)	2 時間
ヨウ素 131 (甲状腺のガンに)	8 日
クリプトン 85 (生殖腺の近くに蓄積)	10.7 年
ストロンチウム 90 (白血病を引き起こす)	28 年
セシウム 137 (生殖細胞を破壊)	30 年
プルトニウム 239 (ごく微量で肺ガンに)	2 万 4,000 年
ヨウ素 129 (甲状腺を侵す)	1,600 万年

には半減期がみなございまして例を3つあげておきます。

短いヤツから、一つはヨウ素といいまして、これはスリーマイル島の時にも飛び出してきまして、周辺で赤ちゃんの死亡率が増えた、という話を聞いておられると思いますが、その原因はどうやら、事故でこのヨウ素が飛び出して、それをお母さんが吸って、それをお腹の赤ちゃんが吸って、発育不良になって死んでいった、という説がいま言い出されています。そういうヨウ素。やっかいですが、しかし、これは8日

間で半分に減り、次の8日間でまたその半分に減る。ですから、いまスリーマイル島へ行っても、ヨウ素はもうほとんど残っていません。ですが、事故の直後は盛んに出ておったんですね。

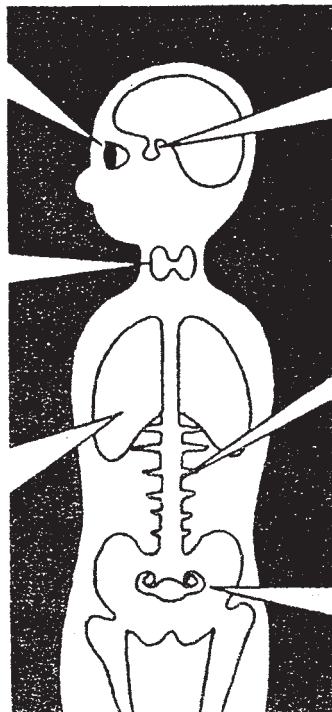
それからストロンチウム。これもスリーマイルでも出ましたけどあんまり出ていない。むしろ、核実験で米・ソがボーンとやったのが、成層圏にいまでもいっぱいあって地球に降ってくる。1961年から66年ぐらいの間にお母さんのお乳吸ってたり、ミルクをのんでたりしてた方には、ストロンチウムが骨へちゃんと入ってるわけです。ストロンチウムというのはカルシウムと似てまして、骨をつくる時入ってくる。大人の場合は骨ができてますから入らないんですけども、赤ん坊や子供の場合はどんどん取り込まれていく。で若い方の骨には、だからずいぶん入ってるんですけども、このストロンチウムは30年で半分。ですから墓場まで行って

身体に入った放射能は各器官にとどまり、
長い間まわりの細胞を破壊しつづける。

水晶体
水晶体は細胞分裂をしないので、放射線による障害は蓄積していく。白内障になる。

甲状腺
ヨウ素131〔半減期8日〕がたまる。甲状腺ガンなどをひきおこす。

肺
プルトニウム239〔半減期2万4千年〕などの微粒子が付着する。肺ガンをひきおこす。



脳下垂体
イットリウム90〔半減期62時間〕がたまる。胎児に呼吸器障害をひきおこす。

骨髄
ストロンチウム90〔半減期28年〕などがたまっていく。白血病をひきおこす。

生殖腺
セシウム137〔半減期30年〕などがたまる。不妊、ホルモン障害、遺伝子突然変異などをひきおこす。

も仲々減らん。それから、初めにも言った、猛毒のプルトニウム。これは半分に減るのに何と、2万4000年ですから、1000分の1になるには24万年かかる。ちょうど類人猿がワアワア言いだしたのがいまから24万年前の頃ですから、いまつくったプルトニウムもそのくらい置いといてやっと毒がうんと減る、ということになる。その間、毒が外へ出ないように閉じこめて置く、ということしかない。

だから、寿命の短いヤツは割合によろしいのですけれども、永いヤツは、本当に、何千年、何百万年という間、外に出ないように置いとかなければならない。それが非常にやっかいな点でございます。

放射能は目に見えない

もう一つやっかいなのは、そういう死の灰やプルトニウムが、お茶碗で食べるくらいパクパクたべないと害がない、というのではなくて、超微量、目に見えない程度の量でガンや遺伝障害が起こる。その一番ごついのがさきほどのプルトニウムでございまして、耳カキ1杯で100万人の人を殺すことができる。皆さんが掃除される時の、キラッと光るチリ、あれ1粒ぐらいが入ると肺ガンに確実になる。そういう極微量。皆さんのまわりに原子力発電所からやってくるのはもちろん目に見えません。

放射線というのは見えないわけですから、何か特別の道具をもってないと、どれくらいやられたか、というのは分らない。スリーマイル島周辺で、住民は浴びたに違いない。あの時変な臭いがした、味がした、と言いに行くんですけども、「イヤ、うちのメーターにはそんな出てへんかった」という事でつき放されているのであります。青谷・気高でもそういうことになっていく。

以上のやっかいな点をしっかり討論したり勉強していただきたい。でないと、忘れた頃に出

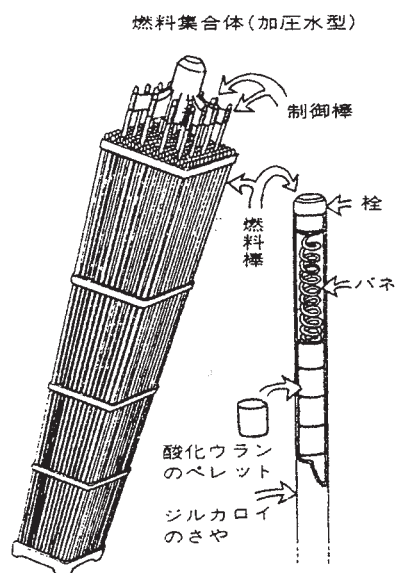
てくる障害ですから、つつい宣伝にだまされてしまいます。

放射能は必ずもれる

では、どうして、推進派といわれる人たちはこういうやっかいなものが出てくる原子力発電を使おうとするのか、といいますと、その人たちは外へ出てこないように技術で押しこめる事ができる、だから心配しないでいいんだ、とこう言っているんですが、私たち批判派はそうではなくて、完全に閉じこめるのはムリだ。

しかも炉にできてる量はペラ棒に多い量ですから、一寸もれても大変なことになる。だから大勢の人の目の前で使うことは出来ないというので反対しているのでございます。で、どういう風にもれてくるか、というと原発でのめり方には、日頃運転している時と、事故の時とに分れると思います。

運転している時のことから言いますと、下の方に、燃料棒というものの絵がございまして。これは差し渡しが1センチで長さ4メートルございます。太さ鉛筆ぐらいで、非常にヒョロ長いものでしてそれが炉の中に入っています。外か



ら光って見える覆いの中に、ペレットという錠剤のようなものをウランで作って、そのサヤの中に200個ほど詰めて、出てこないようにサヤの上下を溶接で封じてございます。

そういう棒を、この青谷をねらっている原発ですと5万本ほど中に入れるわけです。1ぺんに入ると倒れますから、200本宛を傘立てのようなものにさまして、そういうものをまた数百個並べる。そして忘れんように制御棒を突っ込んでおく。原子力発電の火のところはそうなる。

ウランが燃えるということはペレットが燃えてまっ赤になる事です。そして、後に死の灰とブルトニウムがたまっていきますから、この燃料棒から外に出ないはずなのですが、実際はそうはいきませんで、運転中に燃料棒に穴があいてきます。これはいまの技術ではどうしようもないんで、これは事故とは申しません。

そして、穴からお湯の中へ死の灰がもれて、お湯と一緒にグルグル回る。この時、お湯が回るだけならいいんですが、ポンプやバルブの所からどうしてももれてくる。

エントツは死の灰の捨て場

死の灰には、ガス状の死の灰と、ガスにならない死の灰と2つ混じっています。で、ガス状の死の灰は原発の中にいっぱいになると危険ですから、それをポンプで引張って、エントツから外へ捨ててるわけです。

島根原発へ見学に行かれた方は、ダンダラのエントツをご覧になったと思いますが、原発というのは煙を出さんのに、なんでエントツがいるかということ、それがガスの死の灰の捨て場所になっているわけです。これからも見学へ行かれたら尋ねてみて下さい。「原子の火には煙は出んのに、どうしてあんな高いエントツがいるんだ」と。どういう答が返ってくるか。これは非常に大事な質問です。大阪大学のあの男から

の入れ知恵だ（大笑い）、という事になっとるそうですけど……。

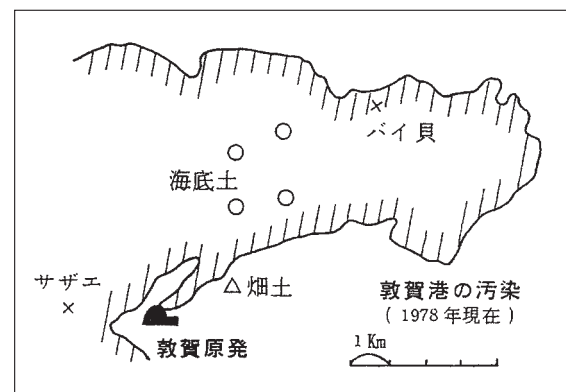
それから、煙にならん部分を集めて、煮つめて、ナベの底へ残ったものはドラムカンへ詰める。これが太平洋へ捨てに行こうとしているドラムカンです。そのドラムカンが、1年に大体3000本ぐらい出来る、とされています。

今年の3月までに、日本全国の原発にドラムカンが24万本、たまりにたまってのわけです。それを来年ぐらいから太平洋に捨てに行こうとして、もの凄く現地から反対受けゆきづまっている。

そうやっても取り切れなかった分、ドラムカンへ入れた後も、どうやってもいろんなものが残ります。それは水で薄めて、パイプでひいて、海へ流れていく温排水の口にタレ流す。もちろん皆さんが見学へ行っても、見えんように、奥の方へ作ってあります。

政府公認でタレ流し

下の絵は何かというと、この間、事故を起こした敦賀の絵ですが、こうして日頃から正々堂々とタレ流しているのが湾が何となく汚れている、というので、海底の泥を採った時に放射能が見つかった、というしるしです。これは貝から見つかった、というしるしです。そうやって、周囲10キロくらいは何となく湾が汚れてくる。この辺に民宿がありますから、エラそう



な事を言う先生ほど、ここへ来ると「この魚どこのや？」と聞く事になるのでございます。

それから畑に——これは海から上ったのでなくて、エントツから出たのが流れていくうちに落ちた放射能が見つかる。

どうしてこんなこと許してるかという、さっき言うた5ミリレムというヤツ。許容量があるからでございます。それ以下だからいいのだという事で、政府公認で捨ててる。

ですけど、敦賀の民宿へ行ってもあまりそういう事は言いたがりませんけれども、一寸親しくなっているいろいろ聞くと、敦賀の人たちは「この魚はたべない、ということになっております。

6. 事故の危険性

原発の事故とは

それから、事故の時はどうかというと、あの燃料棒からドツと放射能が出てくる、ということが事故です。

これは青谷の会場でもちょっと言いましたけれども、電力会社の人は、反対している住民に対して、「お前間違うとる。原子力発電所が爆発する、と言うて原爆と間違うてる」と言います。

これにまともに答えられませんか、その程度の反対か、とバカにする例が沢山ございますのでちょっと言うと、原子力発電に使ってる燃料は、原子爆弾に使ってる同じウランなんですけれども、原発には燃えが悪いウランを使っています。

ですから、もし間違って、制御棒をグツと抜きすぎるような事があっても、全体が原爆のように大爆発をおこすことはまずない、とされています。小爆発にとどまる、というのは事実です。これを知りませんと、原爆と感違いしている、とバカにしますので、皆さんも注意して下

さい。

そしたら、原発にとって一体、`事故とは何か、という、それまでにすでに原爆の時のように、原子力発電のおなかいっぱい死の灰、1000発分の死の灰ができていますから、それが一挙に、どっと外へ出てくる、ということ、これを大事故と呼んでいます。

逃げる間もない暴走事故

その出方を大きく分けて2つありまして、一つは暴走事故。

具体的には、制御棒を、ほんとはゆっくり抜いていかないとすけれども、機械の調子が悪かった、あるいは運転する人がぼんやりしとった、という事で、ガーッと勢いよく抜いてしまう。そういうことが起こった時どうなるかというと、急に火が燃え上りますから、格納容器まで噴きとばすほどの爆発は十分起こります。天上も吹っとびますから、死の灰が一挙に、ドーンと外へ噴き出す。これが一番やっかいで、アポロ事故と呼んでいます。

アポロの打ち上げとおんなじで、ドーンと死の灰も打ち上げられてくる。事故と同時に死の灰が飛んで参りますから逃げる間もないので、これは世界でも実験の段階ではおこっていませんけれども、実物ではまだ起こっていません。



カラダキ事故と水素爆発

もう一つの形はどうかというと、カラダキ事故でして、皆さんの家でも水の入ってないフロをがんだんと、いっぺんに釜に穴があいてしまう。あれとおんなじです。

原子炉に入れてある水が何かの具合で抜けてしまう。そうすると釜の温度がどんどん上りまして燃料と蒸気とが一緒になって、猛烈に燃え上るというやっかいなことが起こります。その結果、燃料がグジャグジャに潰れて死の灰がどっと出ます。

同時に、水素ガスといういやらしいものが出てきます。これがスリーマイルの時、世界中がテレビの前でヒヤヒヤした、水素のあの大きな泡でございます。水素というのは軽いものですから原子炉のアタマへ上って行って、いっぱいになる。そしてもし爆発すれば全部ふきとんで大変なことになる。この爆発は、水素の爆発です。

同時に、死の灰が吹きとんで周囲に襲いかかる。そういう事になればこれは大変だ、というので世界中がヒヤヒヤした。あの水素というのは炉心から発生したのだという事を、しっかり覚えといて下さい。

青谷の長尾鼻に運悪く原発ができて、ある日水素が出た、というようなことを聞いたら一目散に、出来るだけ遠くへ逃げる。水素が出



ガス爆発

たというのは、中で大変な事が起こってるわけですから。しかし、暴走事故の時と違って、スリーマイルの時でも水素が出始めてから放射能が外へ出てくるまでに、大体、半日かかっていますから、その間に逃げる。ひたすら逃げるのです（笑い）。

そういう意味では水素が出たというのは、原子力発電にとって致命的な事故が起こったことを意味します。水素はカラダキになって温度が上って、燃料棒が崩れて出てきたという事をしっかりと覚えといて下さい。

まだ続くスリーマイル事故

カラダキはどうして起こったか。スリーマイルは沸騰水型とは型が違いますけれど、要するにバルブがございまして、本来なら閉じてなきゃいかん。皆さんとこの圧力釜の上にも弁がついてますね。たきすぎるとシューッと噴いて、ポンと落ちるあれ。あれがシューッと噴いたまんま止まってしまったんです。

で、閉まらんものですからそこから湯気がブーッと出た。ところが運転室では「閉まった、という風にメーターで見えてたんです。で、開きっ放しになってるのを知らんでジャンジャンやったものですから、ドーッと湯気が出てカラダキになって、ああいう事になってしまったんです。

実際には、燃料棒がグジャグジャになってお湯の中へ溶けて、そのお湯が噴き出てしまったものですから——現在、この中（格納容器）には3000トンもの水がいっぱい詰まってるんです。その中へ燃料棒にたまってた死の灰がドッと出てきている。皆さんはスリーマイル事故はもう終わってると思われてるかもしれませんが、目下、事故は進行中でありまして、一寸のぞいてはすぐ飛び出す。決死隊が入って写真撮ってはまた飛び出す、という事をやって中の状況を監視しながら送っている。

発電会社はこの水を始末して、川へ流したいんですけど、住民が「絶対に流させない」といって、周りにピケを張ってがんばっているのので捨てられない。で、この中の機械が水の中ですのでだんだん腐ってきてる、という大変な状況になってきてるわけです。まだ、スリーマイルのあの時より、もっと大きな被害が出るかもしれないと心配されてまして、いったん燃料棒が崩れると大変なことになる。現在もスリーマイル島事故は続いている、という事をぜひ忘れないでいただきたい。

パイプのヒビ割れから大事故

それ以外にカラダきはどうやって起こるかという、パイプが折れてしまう。ヒビが入っているのを知らずに運転しておって、ポキッと折れる。そうするとそこからドーンと噴き出てカラダきになる。ヒビ割れができた、というところと新聞に大きな記事になるのはそういう事です。

「なんや、ヒビ割れぐらい」と皆さん思われるかも知れませんが、それは大事故の隣り合せの、大変なことです。ある日それがポーンと折れたら一ぺんにカラダきになってしまう。

鳥取県は地震が一番問題

それから地震です。鳥取県は地震が一番問題ですから、私は鳥取県へは来ないやろと思うていたら、その鳥取へもってくるという。

地震がなぜ怖いかというと、地震でパイプが折れる、これが怖いんですね。建物は丈夫に作るというのはいまの建築学で十分できるんですけど、こういうモノとモノをつないでるパイプは弱いわけですから、一寸の衝撃でポキッと折れる。どの程度の地震で折れるかは、実はまだわかっていない。

本当は——みんなそうですね。例えば橋を造って、地震でつぶれる。そしたらもって丈夫

グラグラ



にせないかん、とこうなるんです。そうやって建築学というのは進んできたんですが、幸か不幸か、原発ができてから大地震に遭った、ということが世界中でまだないんです。それで日本のような地震国は、世界中がたぶん、一回起こってくれたらええのになあ（笑）、と思うて待ってるのかも知れません。

地震が起こってももつと、「なるほど、いまの設計でよかった」。もたんかったら、「これからもっと丈夫にせないかん」とそういう事で、そのために日本でも、よりに選んで地震のない所へもって行く。鳥取は特に地震の多発地帯で、ただでさえ地震でやっかいなところへ、ポキッと折れて上からバースと放射能かぶせられたらたまりません。電力会社では、どうせ地震で家がつぶれるんだからええやろ、とそんなアホなこと言う人がありますけど、地震で倒れた上に死の灰が襲いかかるという事をぜひ皆さん考えていただきたい。

「大事故は1億年に1回」のウソ

そういうことに対し推進派や電力会社の人びとは、「そんなこと起こらん」と。「カラダきになって死の灰が出てくるようなことは、自分ら

の計算によると1億年に1ぺんくらいしか起こらん。せいぜい30年の寿命（原子炉が）の間にそんな事は起こらん」と言いまくってきたわけです。

しかし2年ほど前のああいふこと「スリーマイル島原発事故」が起こって、その論拠は完全に崩れてしまった。いわゆる「安全神話」はつぶれてしまった。いまでは、大事故は絶対大丈夫、絶対安全、なんて言えなくなりました。なるべく起こらんように努力する、という風にしか言えなくなったんですね。



役に立たない避難計画

これまでは原発の周辺では、必ず防災計画というものができて、避難計画というものを作りました。けれども、それにはなんにも書いてなかったんです。

それが、スリーマイル島以降は、原発から10キロの範囲は特別区域に指定されて、その住民はもしもの時にはどこのクルマをどこへ集めて、どっち向いて逃げないかん、という事が書かれることになっています。でもそんな事書いても実際には実行できないんです。

なぜかという、原発から出てきた死の灰はずっと目に見えない雲になって流れるわけです。大体、7度か8度の（分度器の）開き角をとって、予定地（原発の）と皆さんの家の方角とを結んでみて下さい。どっちの方向へ風が吹いてきたら逃げないかんか、ということになるのですが、そういうひらき角ですから、遠くへいくほどひらいてくるわけです。

その範囲に死の灰がやってくる。風向きが変わると別の方にいく。スリーマイル島の時は3日間、出続けたわけですから、大体まんべんなくずーっと（笑）その辺に配給した、という形に

なっています。それも地上から見ていても全然わからん。

政府が出した避難計画の手引きをみますと、だから風下へ逃げるのは必ずしもよくない。つつ切って逃げるか、横に向いて逃げろ、と書いてあるんですが、その雲は目に見えんわけですから事故の時はどっち向いて逃げていいか（笑）。それに、こんな土地ですと風上は大体海ですから、海に飛び込んで（笑）逃げるかしんないといかん。要は、目に見えん、臭いもしないものですから、どっちをどう向いて逃げればいいのか分からない。

それに事故の時はパニックが起こりますからとてもそんな防災計画は役に立たん。

そういう事は判っているんですけど、でもスリーマイル事故までは、全くそんなもんいらん、となっとったのが、いまでは各地方自治体ともかなり真剣に、そういうものを考えるようになってきた。ということは、大事故は絶対起こらん、というのは崩れ去ってるということでございます。

7. 結び

原発の危険手当33億円

以上、言いましたように、いろんなところで問題が出てきております。それに対して、一方は「許容量で大丈夫」「そんな事故は起こらん」とやっておるわけですし、私たちは「そんな事はない。少量だといっても長い間それが降り積れば大変なことになる」という事を主張しているのでございます。

最後は、なぜそんなやっかいなものを、どうしてやろうとしているのかという事ですが、結論だけ申しますと、まず、原子力発電をもちこんでこうとしている側は政府と電力会社でございますが、どういうことが口実となっているかというと、「石油がなくなる。石油がなくな

るとエネルギーはどうする?」「当分は原子力しかないじゃないか」という、これでやってきているわけでありまして。しかし、これはウソでありまして、決して原子力は石油の代替にはならない。そういう事がおいおいとはっきりしてきております。

受けいれる側、主として、気高や青谷の地方自治体をあずかっている町長さんや町議会でございますが——100万キロワットの原子力発電が1基まいりますと、大体33億円というお金が地方自治体へ交付金という形で入ります。その用途は原子力発電がくる周りに安全施設をつくとか、公民館をつくとか、電気料金を割引くとか、その他いろんな使い途がありまして、ことしの10月の値段で合計33億円配られます。ですから、200万キロワットもってくるとその倍ですね。これがたとえば青谷にできると青谷にそれだけ入る。

期間は、建設を始めてから運転開始の5年までの間。その間にそれを使わないかんですけど、年々割ってでもええし、一ぺんでもええし、それが出る。それから、青谷の周りの市町村には、市町村全部あわせてやっぱり33億円出ることになっている。

カネかいのちか——住民の選択

大体、原子力発電所というのは2基が最低で、電力会社の予定では4基ぐらい置きたい。4基だと大体、150億円ぐらい入る。この魅力に地方自治体が耐えられないということが、一番大きな問題でございます。ですから各地とも、原発が安全かどうか、という議論はほとんど問題にならない。

そんなの（安全問題）は、国がやるから国へまかしとけ。とにかく金をやるというから金を取らんことには、赤字財政でどうにもやっていけん。原発がイヤだと言うんなら代りにどんなええもんがあるか言うてみい——と、こういう

事を言って、反対派の人がたじろいでいる間に、原発が入ってくるというのが、最近の顕著な傾向です。

10年ほど前にはもっと気概に満ちとったんですがねえ。これからの花形は原子力や、と。いまはもう、どんな事いうても誰も信じないわけですから、どうせ危険手当や、と割切って、金をとるためには危険は覚悟せな取れん。それが30億に相当するか、60億円に相当するか。そういう生臭い議論で進んでいるという状況で、たぶん、こちらでもそういう事じゃないかと思います。

ですから、結局は、町民の皆さん方が、そういうもん（交付金）に頼らんでも自分たちでやっていくんだ、という事をはっきりさせるか、それとも少々のは害はあってもしょうがない、金の方をもらう事にする、ということにされるか、そういう事が恐らく最後には一番大きな問題点になろうかと思います。

1981年11月15日

気高郡連合婦人会学習会講演より

（記録 小泉 澄子）





原子力発電の安全性

京都大学原子炉実験所 小 出 裕 章

1. 原発は危険だ

- ・ 危険だから大都会には建てない 268
- ・ 危険と引き替えにバラまかれる金 268
- ・ 青谷原発 1 日で広島原爆 6 発分 268
- ・ 死の灰は閉じ込められぬ 269
- ・ 3つのルートで死の灰が環境に… 269
- ・ エントツから空にバラまく 269
- ・ 温排水に薄めて海にタレ流す 270
- ・ 原発の敷地にこつ然と現われる大河 270
- ・ 平常運転でも死の灰は必ず出る 270

2. 必ず起きる事故

- ・ 起こる時には起こってしまう 271
- ・ スリーマイルで実証された原発事故 271
- ・ 非常にズサンな日本の安全審査 271
- ・ 敦賀事故に見る現実とタテマエ 271
- ・ まだ序の口の原発の重大事故 272
- ・ 国がひっくり返るケタ違いの重大事故も 272
- ・ 一度も試されぬ緊急炉心冷却装置 272
- ・ 死の灰は作れても無毒にはできない 273
- ・ 死の灰の管理20万年から100万年 274
- ・ 解明されていない死の灰の管理法 274

3. エネルギーの浪費

- ・ 石油より先にウランがなくなる 274
- ・ 原発は石油の 1 割しか代替できぬ 275
- ・ 原発は大量の石油を浪費する 275
- ・ 引き合わない原発のエネルギー収支 275
- ・ 生み出すよりつぎ込むエネルギーが大 276
- ・ エネルギーは無制限に使えない 276
- ・ 環境自体が持たなくなる 277
- ・ 西暦2000年には温排水で漁業全滅 277
- ・ 低い食糧自給率とエネルギー浪費反省 277

4. 弱者を踏み台に

- ・ 差別の上に立つ世界のエネルギー構造 277
- ・ ウラン採掘の蔭に原住民の犠牲と汚染 278
- ・ 被曝要員の下請け労働者 278
- ・ 被曝基準にも下請け差別が 279
- ・ モノ言わぬ子孫へおそろしいツケを 279
- ・ 悪い電力会社、踏んだりけったりの住民 279

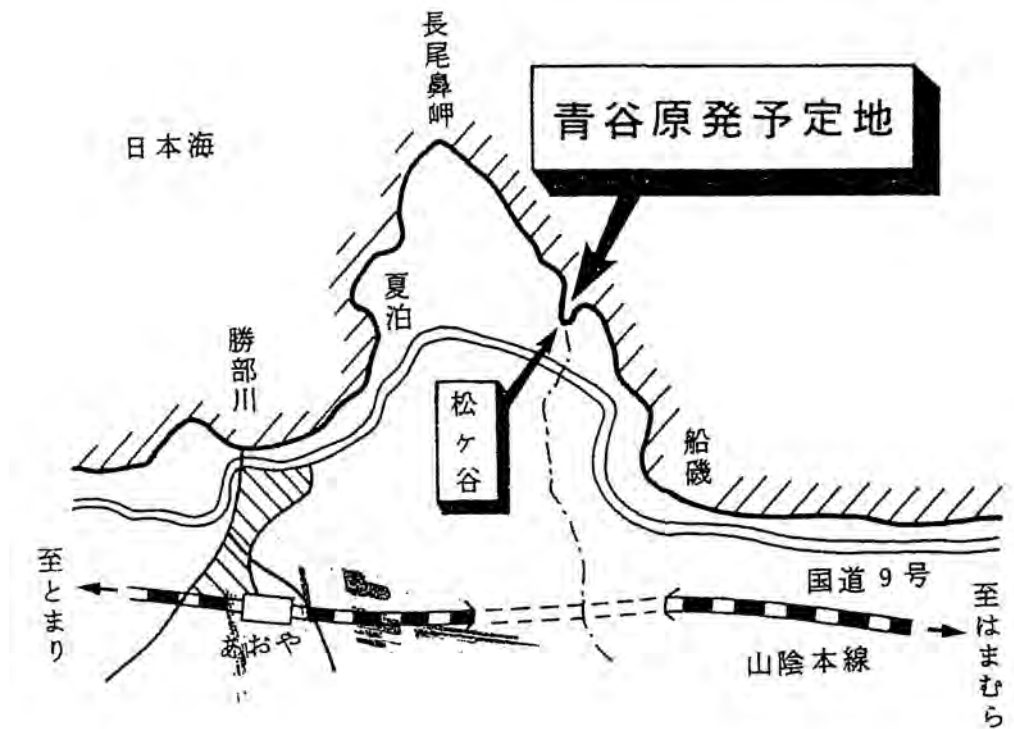
5. 結び

- ・ 「お国のために」 谷中村の教訓 280
- ・ やがては国も地球も滅びる 280

青谷の原発の話が大分進んできたということで、またうかがったのですが、鳥取の県議会で、青谷の原発が問題になっている。随分早く話が出てきたんだなあと、驚いているわけですが、実は昨日、青谷の現地を見せていただいて、新聞で県議会の記事を見た以上にびっくりしました。国道のつけ替え工事の話も、進められてい

る。

皆さんが全然知らないところで、話はどんどん進められている。皆さんも早く行動を起こさないと、知らない内にやられてしまうということになりますので、ぜひ注意をしていただきたい。



1. 原発は危険だ

危険だから大都会には建てない

今日は、原子力発電所がどういうものかというお話をするのですが、私は、原子力発電所が危険だということは、もうお話する必要はないのではないかと考えています。

私は、原発は危険だということは、ずっと言ってきましたけど、原子力発電を推進している人も、原発は危険だということは、知っているわけです。

それは、なぜ分るかというと、原子力発電というのは、都会には絶対建たない。電気を一番よく使う東京や大阪には、原発はない。日本全国を見ても、都会に建っている原発は、1つもない。すべて、過疎地といわれる非常に貧しいところに建っている。

それは、とりも直さず、原子力発電所を建てようとしている人たちが、原発は非常に危険だということを、知りながらやっているということの、一番いい証明だと思います。

最近、『東京に原発を』という本が出ました。非常に皮肉な題ですが、「本当に電気が必要なら、東京に建てろ」と、東京に住んでいる人自身が言っている。その人は、そういうことを通じて、原発というのは、非常に危険なんだということを訴えている。

危険と引き替えにバラまかれる金

原発が危険であるということの第2の理由は、原発を建てられる時に、いろんな形でお金がバラまかれます。

一つは、電源三法という法律があります。電源開発促進法という名前の法律がある。そういう法律を土台にして、原発を建てるところに、危険と引き替えに、国のお金をやる。

また、土地の所有者が土地を売る、漁民が漁業権を売れば、お金が使われる。あるいは、原発に賛成すれば、金をやるという買収の形や、



昔の宰相「貧乏人は麦を食え」
今の宰相「過疎地には原発を」

原発の視察に連れていくための大名旅行をするなど……。要するに、非常に貧しいところに、お金を沢山バラまく。

私は、お金がバラまかれること自体が、原発が非常に危険であることの証拠だと思う。

青谷原発1日で広島原爆6発分

では、なぜ原発は危険なのか。原子力発電所の目的は、電気を得るためですけれど、原子力発電が動く限り、死の灰ができる。それは絶対に避けられない。それが、危険なのです。

では、どれぐらい危険なのかといえば、その青谷に計画されている原子力発電は、110万キロワットといわれています。110万キロワットの原子炉が、3基か4基というふうにいわれています。

110万キロワットの原子炉が1日動けば、3.3



広島原爆 爆発の瞬間

キログラムのウランが燃えて、3.3キログラムの死の灰ができる。ヒロシマの原子爆弾は、600グラムのウランから、600グラムの死の灰が出た。ところが、青谷に計画されている原発が動くと、ヒロシマの原爆の6発分、非常に膨大な死の灰が出る。

万一それが、皆さんの住んでいるところに放出された場合には、非常に大きな被害が出ることになります。

（注）アメリカの国防省の当時の発表では、ウラン1キロ燃えて死の灰1キロ（広島原爆3発分）だったが、この講演時点では600グラム（6発分）、現在は750グラム（4発分）とさらに修正している。

死の灰は閉じ込められぬ

では一体、私みたいな「原発は怖い」という人間と、「原発はやらざるを得ないんだ。何んとかなるだろう」といっている人たちと、どこが問題になっているかといいますと、このように膨大にできる死の灰を、閉じ込めることができるか、環境にバラ撒かないですむかが、私たち専門家の間で、論争を起こしている点なのです。

本当に閉じ込めておけるならば、それほど危険はないが、本当に閉じ込めておけるのだろうかという点です。原子力を推進している人たちは、本当に閉じ込めておけると考えておられる。

皆さんは、中国電力からお話をおききになったことがあるかどうか分かりませんが、電力会社の人は、はじめは「死の灰は絶対だしません」。ところが、しばらくして住民が事実を少しずつ知ってくると、「死の灰は、少しは出るが、非常に微量だから、心配ありません」という言い方をする。

恐らく、これから青谷に原子力発電を建てるとすると、中国電力の人が皆さんのところに来て、そういう言い方をするだろうと思う。「少しは出るだろうが、非常に微量だから心配要らない」と。

しかし、そうではないと私は思います。

3つのルートで死の灰が環境に…

死の灰が、皆さんのところに関係してくるのに、3つのルートがあります。

1つは、原発が何のトラブルもなく、非常にいい状態で運転されている時でも、死の灰は降ってくるし、海に流される。

つぎの段階は、何か事故があったらどうするかという心配が常にある。

3番目に、原発が非常に順調に動いて、事故もなかった。ところが、原発は20年ぐらいうると、ダメになってしまう。どの機械でもそうですが、20年、30年経って、原子力発電所が古くなってだめになっても、一度できてしまった死の灰は、なくなる。それが、やがて私たちのところにやってくる。

そういう、3つのルートです。

エントツから空にバラまく

日常的に原子力発電所が、非常に順調に動いている時でも、原発の高いエントツ（決して煙の出ないこのエントツは、排気筒といっている）からは、死の灰を出している。

死の灰は、非常に危険ですから、なるべく高い所から出して、人が住んでいるところに来る時には、薄まってしまうという、それぐらいの

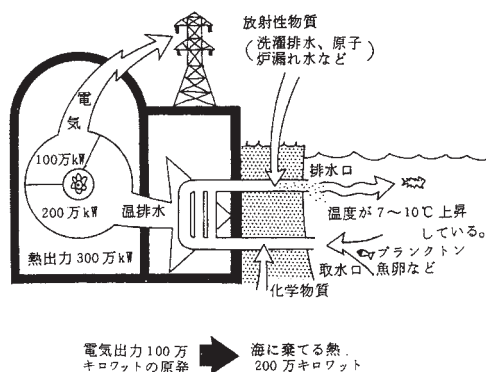


考えですが、一たん出てしまった死の灰は、決してなくなるわけですから、薄まるにしても、どこかで人間のところに来る。

温排水に薄めて海にタレ流す

もう一つは温排水。110万キロワットの原子炉というと、実は、330万キロワット分の熱が、原子炉の中ではできている。その内、電気にできるのは、3分の1の110万キロワットで、残りの3分の2は海に捨てている。

捨てないことには、原発は運転できない。捨てるというのは、海水を原子力発電の中に引き込んできて、海水を温めてまた海に戻すという作業をしている。



原発の敷地にこつ然と現われる大河

110万キロワットの原発ですと、1秒間に80トンの海水が、約7度も温度が上ってまた海に帰る。1秒間に80トンというと、千代川よりもっと大きい河が、原子力発電所ができると、その敷地にこつ然と現われる。

もちろん、原子力発電所というのは、1基で建てられることはなく、青谷の原発計画も、3基から4基といわれていますから、量も3倍から4倍。1秒間に300トン近い、しかも熱い河が原発の敷地にできる。

1秒間に300トンといえば、日本一の大河ですが、もし青谷に原発ができるとなると、日本

一の、しかも熱い河ができてしまう。その河は、ただ熱いというだけでなく、その中に死の灰がある。

平常運転でも死の灰は必ず出る

原子力発電には、避けようがなく、死の灰ができてしまう。その避けようがなくできた死の灰は、原発の中に閉じ込めておくことができず、避けようがなく表にもれる。

それを原発では、捨てなければならない。一部は煙突から、一部は温排水という大きな河に、薄めて流している。

いまの国の法律では、死の灰で非常に汚れた水は、そのまま捨ててはいけませんが、これを水をジャアジャア流しながら薄めてしまえば、捨ててもかまわないことになっている。ですから、原子力発電所には大きな河ができていますから、少しぐらい死の灰がでてきても、皆その河に流してしまえばよい。そういう法律なんですから。

ですから、熱い河というのは、本当は原発の中から出てきた熱の3分の2を捨てるためにあるといいましたが、実は、原子力発電所が停まっている時も、ぐるぐる河は流れている。もちろん、原子炉が停まっているから、河は熱くはありません。熱くはないけど、河だけは流れている。なぜ河を流しているかというと、死の灰を薄めて捨てるために流している。

だから、その河の役目は、明確に二つある。一つは、原子炉の中でできた熱の3分の2を捨てるため、一つは放射能を薄めて流すため。

原子力発電所は、非常にうまく運転されているという時でも、死の灰は、そういう形で皆さんの住んでいるところに出てくる。

2. 必ず起きる事故

起こる時には起こってしまう

きわめて当然の事なんですけれども、この世の中に、絶対事故を起こさないというものは、何一つありません。別に事故を起こそうと思うわけではないけれども、事故というものは起こる。どんな機械でも、大ていはいは何かのハズミで事故を起こす。

原子力発電所については、国が非常に厳重な安全審査というものをやっていて、「国がお墨つきを与えたんだから、大丈夫だ」といっている。しかし、私はだめだと思う。国がいくら厳重に安全審査をしても、事故というものは、起こるときには起こってしまう、というふうなことを前々からいつてきた。

スリーマイルで実証された原発事故

そのことが一番はっきり現れたのは、1979年3月、スリーマイル島で、非常に大きな事故が起こった。

では、アメリカでは、安全審査を何もしなかったかということ、アメリカは非常に厳重に安全審査をやっている。スリーマイル島の原子力発電所も、実は安全だというお墨つきを与えられて動いていた。ところが、思いがけない事故というものは、起こった。

だから、日本の国でいくら厳重に安全審査をやったといっても、事故が起こる時には起こ

る。事故というものは、そういうものなんだということ、あの事故は示したんです。

非常にズサンな日本の安全審査

ところで、日本の安全審査は、そんなに厳重にやっていません。

例えば、アメリカでは、原子力発電所の規制を担当している役所には3000人ぐらいの職員がいて仕事をしている。日本の原子力発電所の規制をしている役所には、約100人しかいません。それぐらい、日本の国の原発のやり方には、いまだに力がこもっていない。

さらに、安全審査のやり方についても、非常にズサンな審査しかされていない。要するに、電力会社が書類を出す。「こうこう、こうするつもりです」という書類を読んで、「アア、こうこう、こうすれば大丈夫だろう」といって、印が押される。

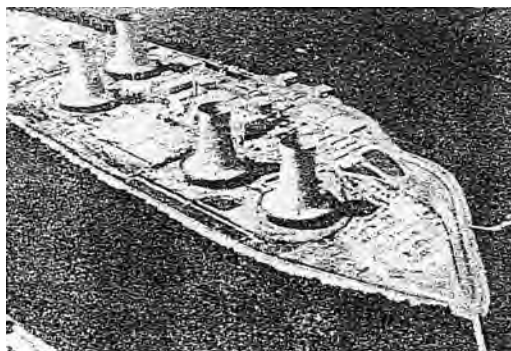
こうこう、こうすれば、という仮定は、事故のときには成り立たない。こうこう、こうするつもりだったけれど、そうならなかったというのが、事故というものなんで、タテマエで安全審査が行われているわけです。

決して、タテマエ通りにいかない時に、事故というものは起こるんで、そんな安全審査、いくらやってもだめなのです。

敦賀事故に見る現実とタテマエ

敦賀の原子力発電所の事故は、ご存知と思います。絶対に死の灰が流れないといっていた普通の排水口から、死の灰が流れて出ていた。

私が先日、敦賀原子力発電所に行った時にもらってきたパンフレットに、「原子力発電所の運転によって生じる気体、液体あるいは固体等の放射性廃棄物は、環境への影響を与えないよう、廃棄物処理装置で、放射能の除去または低減をします。したがって、放出される放射能は、極く少く、常に測定監視して、無害であること



スリーマイル島原発（米国ペンシルバニア州）

を確認しています」とある。

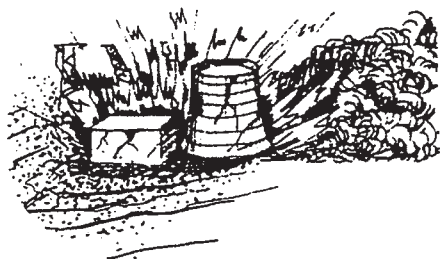
放射能に、無害ということはまずない。「測定しています」というが、そうでないところから、やはり死の灰は、環境に出てくるということに問題がある。

決して、タテマエ通りにいかないというのが、事故なのです。

まだ序の口の前原の大事故

「原子力発電で、事故は起きない」といわれているけれども、原子力発電所にも事故は起こる。事故が起こった時には、非常に大きな被害を生じる。

さいわい、スリーマイル島の事故でも、敦賀の事故でも、いまのところ、それほど大きな事故にはならなかった。じゃあ、原発で起こる事故というものは、せいぜいあの程度のものかという、そうではない。



国がひっくり返るケタ違いの大事故も

もし原発で、本当に大事故が起こったら、どれぐらいの被害が出るか。アメリカの、原子力を推進している役所で、そういう計算をしたことが、何度もあります。一番新しいデータは、5年ぐらい前に出た3000ページぐらいのくわしい報告書です。それによれば、原子力発電所で非常に大きい事故がおこった場合は、次の表のようになります。

10兆円ぐらいというのは、土地の補償金だけで、人間の補償は含まれてはいません。日本の国家予算は、20兆円ですから、それだけでも、

膨大な金額です。

もし、本当に事故がおこったとしたら、非常にケタ違いの、国がひっくり返るぐらいの大事故になる。

即 死	1万3000人ぐらい
すぐ障害を受ける人	18万人ぐらい
晩発性障害 (何十年も経ってガン等で倒れる人)	13万5000人ぐらい
遺伝的障害を受けて生まれてくる人	15万人ぐらい
人が住めなくなる地域	1500平方キロ
放射能を除去して人が住めるように する地域	1万5000平方キロ (中国地方全域 ぐらいの広さ)
その土地の補償などにかかる金	10兆円ぐらい

一度も試されぬ緊急炉心冷却装置

そういう大事故は、非常に起こりにくいとしても、起こった時には取り返えしがつかないから、原発はやめるべきだと私は思う。そういう事故は、いつかはおこるだろうと、私は思っています。

なぜなら、そういう事故にならないようにする安全装置が、原子力発電所にはついている。名前は、緊急炉心冷却装置という。これがあるから、先刻いったような事故は絶対起きないといわれているが、その安全装置が有効に動くかどうか、一度も調べられたことはありません。

実はいま、実験している段階です。青谷原発は、1基で110万キロワット（熱出力では330万キロワット）の原子炉ですが、実験しているのは、5万キロワットの非常に小さな、オモチャみたいな原子炉を使って、いま実験をしている。そういう段階です。

ところが、実際には原子力発電所だけは、どんどん建てられている。ですから、もし事故が起これば、実際の原子力発電所で、その装置の実験をしていることになる。失敗すれば、大きな事故になる。

私は多分、安全装置は動かないだろうと思っ

敦賀原発で放射能漏れ



放射能漏れ事故を起こした日本原子力発電・敦賀発電所

「敦賀原発は日本の安全基準を満たしている」という主張が、この事故で大きく揺らぐ。事故発生後、原子力規制委員会が調査を進めているが、関係者からは「事故の原因は不明」という声も聞かれる。また、事故の影響範囲についても、地元自治体と国の間で意見の相違がある。この事故は、日本の原子力政策に大きな影響を与える可能性がある。

相次ぐズサンな管理 関係者

「事故の原因は不明」という声も聞かれる。また、事故の影響範囲についても、地元自治体と国の間で意見の相違がある。この事故は、日本の原子力政策に大きな影響を与える可能性がある。

一般排水路に流出 海草から平常値10倍

ています。その点に関しては、原子力を推進している人も、本当にうまくいくかどうか自信がない。だからこそ、原子力発電所は都会には建てられない。

さきほど、私が言った原発の重大事故の数字は、アメリカの、人口が非常に少ないところに建てられた原発の事故の被害の数字ですが、もし都会に建てられていたら、その何十倍、何百倍の被害がでる。ですから怖い。

原子力を進めている人も、怖いんです。だから、原子力発電所は都会には建てられない。それが、原子力発電所で起こった事故の怖さです。

死の灰は作れても無毒にはできない

さいわい、事故は起こらなかったとしても、原子力発電所は、20年か30年経てば、古くなって使えなくなります。しかし、死の灰は残る。死の灰は、作ることはできても——いまでもど

んどん作っているわけですが——その死の灰を消すことはできません。

私たち日本人は、かなり悲惨な公害を、いろいろ経験してきました。一番よく知られているのは、水俣病です。それは、有機水銀が人間の体の中に蓄積して、ああいう病気を起こしたのですが、いまの科学の力では、人間の体の中に、水銀が入らないようにすることは、不可能ではありません。やる気になればです。ただ、水俣病の場合は、企業がそういうことをサボったから、ああいう被害が起こったんです。

死の灰の場合は、お金を惜しまずに、死の灰を無毒化しようと考えて、どんなに沢山お金を使ってもダメです。決して死の灰をなくすこともできません。無毒にすることもできません。絶対にです。

死の灰の管理20万年から100万年

ただ、ひとことで「死の灰、とっていますけど、いろんな死の灰がありまして、それぞれ寿命を持っている。すぐに寿命が切れて、なくなってしまう死の灰も、実はありますが、一方、非常に永い寿命を持っていて、なかなかなくなってくれない死の灰もある。

人間の寿命は、せいぜい数十年ですが、死の灰は、数万年とか数十万年とか、そういう永い寿命を持った放射能がいくつもある。

ですから、原子力発電所を使って、20年ぐらい電気を起こしたとしても、できてしまった死の灰は、あるものは何十万年もなくなつてはくれない。確実に危険なのです。

私たちのような仕事をしている者の間では、死の灰は大体20万年から100万年の間、隔離しておかなければならないということになっています。そうでないと、人間に被害がある。

20万年から100万年といっても、想像がつかないほどですが、それぐらい永い間、死の灰を閉じこめておかねばならない。私は、とてもそんなことできないというふうに思います。

解明されていない死の灰の管理法

「これから科学が進歩すれば、なんとかなるんじゃないか」という人がある。死の灰を、な

んとか管理しようということは、何十年間、必死で研究しているわけです。

私は、原子力発電は、これ以上作るべきでないと思っていますが、すでに原子力発電は何基もできていて、死の灰はどんどんできています。その死の灰は、何十万年も管理がいるわけですが、その死の灰を何んとか安全に管理できるようにしなければいけないと強く思っていますが、いまのところ見つかっていません。

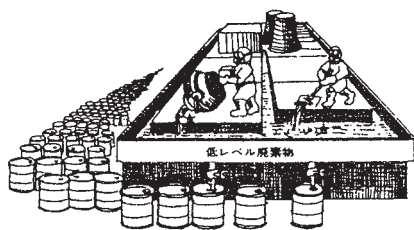
これから、本当にそういう方法が見つかるかどうか、非常に難しい。とにかく、時間の長さがベラ棒ですから、いまの人間が、その時間の長さにわたって、保証を与えることは、恐らくタテマエでそんなことが言えたとしても、現実問題としては困難です。

もし、20万年から100万年の間に、何らかのトラブルが起こった場合、私たちや、もしくは私たちの何十代も後の子孫に、悪い影響を与えることになる。

以上が、原子力発電所の死の灰が、私たちに関わってくる3つのルートですが、そのどれ一つをとってみても、非常に重要な問題ですし、いまの科学技術の段階で、「絶対に大丈夫だ」という保証を与えられない問題なのです。

少なくとも、そういう段階であるならば、私は原子力発電所はやるべきではないと思う。

汚染



3. エネルギーの浪費

石油より先にウランがなくなる

私は、そういう話をあちこちでしているわけです。すると、聴衆の人から「そんな危険なものなら、なんでやるのか」と逆に聞かれます。

推進派の人にいわせれば——推進派の人も、実は（原発が）危険だということは、認めているわけです——しかし、エネルギーが必要だから我慢をする。石油というものは、なくなってしまう。石油がなくなれば、つぎは原子力だ。

原子力は未来のエネルギーだと、推進派の人はいうわけです。が、それはウソです。

原子力のウランは、燃えるウランと燃えないウランがあって、燃えるウランはそのうちの150分の1だけです。地球上にウランは、大体300万トンとか500万トンとかいわれ、燃えるウランはその150分の1。それがどれくらいもつかといえば、いまのまま原子力発電をやっている、せいぜい20年、長くもっても30年。

石油は、後30年といわれています。石油が30年しかもたないというのは、30年前からいわれていた。何とか新しい石油を見つけながら、後30年はもつでしょう。

「石油がなくなったらウラン」なんて……。石油がなくなる前に、ウランの方が先になくなる。

原発は石油の1割しか代替できぬ

大体、日本はものすごく石油を使っているのですが、その中で発電用に使っているのはせいぜい25パーセントぐらい、あとは化学工業用やガソリン等に使っている。

原子力発電所は、停めたり動かしったりという小回りがきかない。火力発電所は、その点停めたり動かしたりできます。その点で、すべての発電所を原子力発電所にしてしまうことはできない。やはり、全体の中で小回りのきく発電所も必要になる。

もしかりに、いまの発電所の50パーセントを、原子力発電所にしたとすれば——たぶん、そんなことはできないでしょうが——現在、石油の25パーセントが発電用に使われているのですから、そのうちの50パーセントが原子力発電所になった場合、発電用石油は半分になって10パーセント。つまり、原子力発電所が石油の代わりになれるとしても、全体のせいぜい1割。

「原子力が石油の代替になる」とよくいわれ

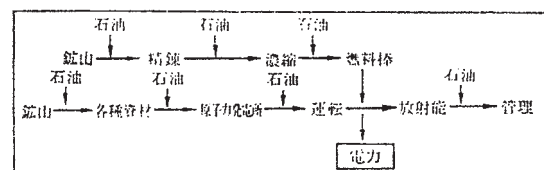
ますが、そんなことはできない。どんなにがんばっても、せいぜい1割ぐらい。あとは、石油なんです。石油がなかったら、やっぱりダメなんです。

原発は大量の石油を浪費する

もっと悪いのは、原子力発電所は非常に石油を浪費しています。

原発1基つくるのに、4000億円とか5000億円とか、膨大なお金を使って鉄やコンクリートのお化けのような建物など、それらの資材をつくるにも、ウランを掘ったり、運搬するのも、石油を使って機械を動かしながらつくっている。ですから、原発をつくるのに要る非常に沢山の資材は、皆石油を使って生み出している。

原子力発電所をつくった後、運転するにも石油が要る。



引き合わない原発のエネルギー収支

さきほど、ウランのうち燃えるウランは150分の1しかないといいましたが、原子力発電所の燃料にするには、燃えるウランの割合を、全体の30分の1ぐらいに高める「濃縮」という操作をしなければならない。

このウランの濃度を高める操作だけで、非常にバカバカしいほど、電力がいる。その上に、出てきた死の灰を、何十万年も管理するのに、非常に沢山の資材がいる。

ですから、原子力発電を使ってエネルギーを生み出すのが、得か損か、実はよく分らないんです。発電すれば電気が出るのは確かだけれど、そのエネルギーを得るために、非常に沢山のエネルギーを使ってしまう。本当に、得にな

るのか損になるのか、いま一所懸命計算をしている。そんな状態です。

前にアメリカで、原発を推進している役所が、そんな計算をしたことがあるんですが、原発が30年間非常に順調に動いたという場合でも、たぶんつぎ込んだエネルギーの約4倍ぐらいいしか、利用できるエネルギーは出ない。それには、何十万年にわたる死の灰の管理に要するエネルギーは、全然計算に入れない、非常に甘い計算になっている。

生み出すよりつぎ込むエネルギーが大

私は自分で計算しましたのですがせいぜい、原子力発電所の寿命は15年。順調にも動かない。最近でも、稼働率の平均は、せいぜい50パーセントぐらい。原子炉は年が経つにしたがって、稼働率が悪くなりますから、耐用年数15年、稼働率40パーセントで計算してみたら、つぎ込んだエネルギーの、倍ぐらいのエネルギーしか生み出せない。それに、死の灰の管理もやるとすれば、たぶん出てくるエネルギーは非常に少ない。

原子力発電所が建つのに5年ぐらいかかります。その間に非常に沢山の資材をつぎ込んで、後15年ぐらいで、少しずつ電気が出るという具合になるのですけれども、いまのように、次から次へと原子力発電所を建てていくと——あとから電気は出てくるわけですが——建てるためにまずモノがいるわけですから、つぎ込むエ

ネルギーの方が、はるかに多いという状態になっている。

私の計算では、いま日本にある22基の原子力発電所が、いままでつくってきた電気よりも、はるかに多いエネルギーを、原子力発電所を建てるために、使ってしまったている。ですから、これからもどんどん原子力発電所を建てていくとすれば、エネルギーを使っちゃう方が、はるかに多いという状態になるのです。

ちゃんと計算してみれば、原子力はエネルギーを生む以上に、石油を浪費している。

エネルギーは無制限に使えない

「エネルギーが必要だから、原子力を推進するんだ」という人には、じゃあ、一体どこまでエネルギーというのは、使えると思っているのかと、私は逆に聞くことにしているんですが、エネルギーを無制限に使うってことは、まずないでしょう。

日本は明治のはじめ頃から、大体この100年間に、200倍ぐらいのエネルギーを使っている。1960年と比べると、僅か20年間に5倍ぐらいのエネルギーを使っている。20年間に5倍というのは、1年間に8パーセントずつ多くなっているということです。

この調子で、エネルギーを前の年より8パーセント多く使い続けていくと、100年後には今の2200倍もエネルギーを使う計算になります。100年後というのは、そう遠いことではない。皆さんの孫の時代ですが、本当に2200倍ものエネルギーを得ることが、可能かといえば、不可能です。

現在、太陽から送ってくる熱（エネルギー）の、200分の1に相当する熱を、石油等を燃して使っている。ところが、もし100年後に今の2200倍になるとしたら、太陽から送ってくる熱の10倍ぐらいのエネルギーを、石油とか原子力を燃して得ようという。石油もそんなにな



い。ウランありませんから、私はとてもそんなことありはしないと思います。

環境自体が持たなくなる

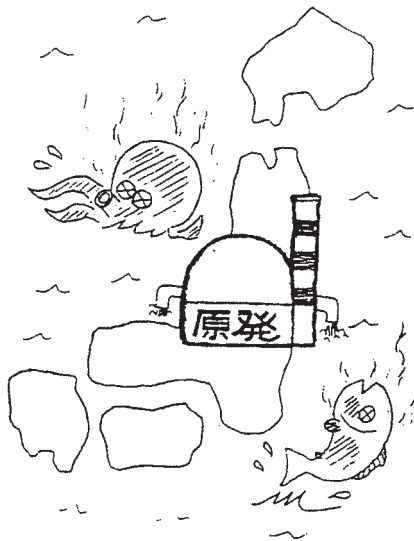
もし資源があるとして、エネルギーを沢山使えとしても、できない。それは、太陽が送ってくる10倍ものエネルギーを、どんどん燃して使おうと思ったら、生きている環境自体がもたない。皆壊れてしまう。

すでに日本の都会は、異状気象になっている。人間の環境は、だんだん変化してきて、おかしいことになってきているのに、そんなになったら、とても人間住むことができません。

だから「エネルギーが足りないから、原子力を進めよう」というようなことでは、もうだめなんです。なんとかこれ以上エネルギーを使わなくても、生きていけるような生活を考えよう、というのが私たちの考えです。

西暦2000年には温排水で漁業全滅

日本では、西暦2000年つまり20年後には、原発で1億キロワットの発電をやろうという計算があるのですが、それが実現するとすれば、大体1年間に1300億トンという温排水が出来ます。



それはどんな量かというと、日本の河川の流量をすべてたすと4000億トン。日本の年間の降水量は60億トン。ところが、原子力発電所が1億キロワットになったら、原発だけで1300億トンの温排水がいる。

火力発電所とか全部あわせると、たぶん6000億トンを越えてしまう、というふうにいられています。つまり、日本に降ってくる雨の量を全部あわせた量より多いぐらいの、熱い河を日本はつくることになる。

最近、日本の近海漁業は、非常に汚されてどんどんだめになってきている。もし今のようなやり方で進めていくと、西暦2000年の頃には、日本中の近海漁業は全部だめになってしまう。

低い食糧自給率とエネルギー浪費反省

エネルギーが足りないというけれど、日本はいまでも食糧の自給率がものすごく低い。エネルギーがないどころか、食い物もない。それをいまエネルギーだけをないないといって、エネルギーだけを作ろうとしている。正気の沙汰ではない。

日本人はエネルギーを浪費しすぎると私は思う。1960年の頃は、いまの5分の1しかエネルギーを使っていなかった。それでは、いまの人はその5倍もしあわせかといえ、別にそうでもない。むしろ、何か大切なものを忘れてきているといえます。

4. 弱者を踏み台に

差別の上に立つ世界のエネルギー構造

地球上にはいま、40億の人が生きている。

その中で、先進国といわれている日本、アメリカ、イギリス、フランス、西ドイツ、この5ヶ国の人口を合わせると5億。全地球の8分の1の人間が、全地球の半分ぐらいのエネルギーを使っている。あとの8分の7の人間が、残りの



半分を使っている。

日本の人口は、1億1000万人。約40分の1ですが、大体8パーセントものエネルギーを使って、ぜいたくにいらしているという情勢です。

私が、原子力を絶対許せないと思うのは、原子力というのは、弱い人間を踏み台にしなければできないということです。沢山の例があります。

ウラン採掘の蔭に原住民の犠牲と汚染

ウラン鉱石は、日本には人形峠等で少し出ますが、ほとんど全部外国から買っている。一番沢山買っているのは、ナミビアという国で、人種差別で有名な、南アフリカという国が、武力で占領している国なんです。

国連の中にナミビアの代表がいて、「いまナミビアから持ち出されているウランは、南アフリカの手で盗んだものだ」と、宣言している。その盗品を、日本は買って原子力発電に使っている。

つぎに多いのが、オーストラリア。オーストラリアという国は、普通白人の国とされていますが、昔から住んでいた原住民を、後から入ってきた白人が武力で占領して、住みやすいところから追い出し、砂漠のようなところに追いやった。ところが最近、原住民が細々とくらしている不毛の地に、ウラン鉱石が見つかる

と、白人はまた原住民を追い出した。そこで採れたものを、日本は買っている。

同じことがアメリカでもある。アメリカは、インディアンの居住地に、ウランが沢山見つかって、そこからウランを採っていますが、最近の調査によると、非常に放射線でインディアンが汚染されている。そんな形で、非常に弱いところから、ウランは奪われている。

被曝要員の下請け労働者

次に、原子力発電所自体が、非常に経済的に弱い過疎地をねらって建設される。

原発にどんな人が働いているかというと、一番数が多いのは、下請け労働者です。危険な作業をするんですね。原子力発電で働く労働者は、死の灰を被曝する。

原発労働者の被曝の実態は、政府や電力会社の発表によると、9割から9.5割が下請け労働者で、残りの1割たらずが電力会社の労働者。私は多分、もっとひどく下請け労働者の人は被曝していると思う。これは、非常にけしからんことだと思います。

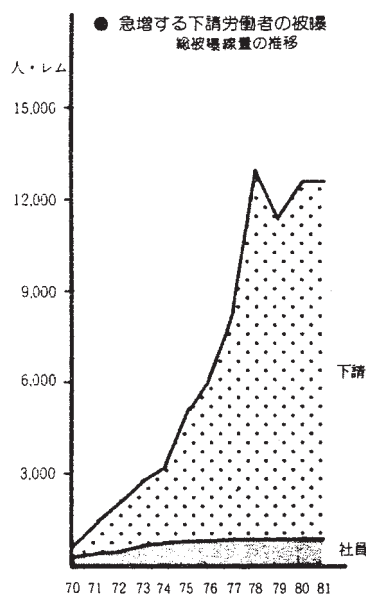
要するに、電力会社の社員は、危険な作業はいやだからなんで「危険な作業は下請けにやらせろ」という要求を、電力会社に行っている。そういう状況の中で、危険な作業はどんどん下請け労働者にやらせている。



被曝基準にも下請け差別が

1年ぐらい前にやっとわかったんですが、被曝基準を、電力会社の社員は1日100ミリレム、下請け労働者は300ミリレムとしている。同じ人間ですよ。同じ人間なのに、下請けは3倍浴びてもいいと。

ところが、原発の中の汚染がひどくなってきて、それだけではすまなくなり、特に危険な作業の時には、下請けは1000ミリレムまで浴びてもよい、という基準を作った。このように、弱い者へのしわ寄せをしている。



モノ言わぬ子孫へおそろしいツケを

それから、これもずいぶんひどい話ですが、私たちは原子力発電を20年か、30年やって、電気をつくっても、死の灰というものは、永遠に管理していかなければならない。管理をサボったら、直ちに被害を受けるから、サボることはできない。私たちの子孫は、永遠に死の灰の管理をしながら、生きていかなければならない。

私たちは原子力を使って電気を作って、ほんの少し繁栄するでしょうが、そのツケは全部子孫の方にいく。ツケを負わされる子孫は、私た

ちが原子力を使用することについて、いま生まれてもいないし、発言力も権限もない。

野坂昭如という作家が、こう書いています。「原子力平時利用は、現在生きているわれわれが、未来の人類の生命財産、人間らしい生き方、人間にふさわしい自然環境を収奪、破壊することで、当面の文明を支えようという企みである」「われわれは、親の脛を噛って育った、そして今、子供の血をすすり、孫の骨をダシにして、繁栄とやらを楽しむ」。

まさに、その通りですね。原子力は、強者が力にまかせて、弱い者を踏み台にしてやっている。弱い者を踏み台にしてやっている、私たち自身を蝕み、人間がだめになる。私は、原子力は危険だという問題以上に、そういう意味で原子力は許してはいけないと思う。

悪い電力会社、踏んだりけったりの住民

青谷がねらわれているわけです。青谷といっても、気高町との境、むしろ気高町に近い。

一度原子力発電所にねらわれたら、非常にしつこい。少しぐらい反対しても、決してあきらめない。私は、各地の事例を知っています。

和歌山県の日高町に、関西電力の原子力発電所を建てる計画がある。一番はじめは、材木屋が土地を買いにきた。「材木工場を建てたい。土地を売ってくれ。建ったら皆さんを雇うから」「決して、他に土地を転売したりしません」ということだった。そこは漁村でした。海がだんだんダメになってきているし、働き場所ができていいだろうというんで、土地を売った。

そしたら、材木会社はその土地を関西電力に売ってしまった。住民は材木会社ができるというので土地を売ったら、原子力発電ができるというのでびっくりして、裁判に持ち込んだ。ところが、裁判では負けてしまいました。「材木会社の社長が言ったのは、口約束だった。契約書も何もないのはダメだ」というんです。結局、

土地は取られてしまった。着々、原子力発電所を建てる計画が進められている。

おまけにもっと悪いことに、材木屋が住民を訴えた。

「住民がイチャモンをつけたから、すぐ売れなかった。何年か停止させられたために、損した分、3億円払え」というのです。住民側は、3億円なんてとても払えませんよ。先の裁判で意気消沈している処へ、今度また裁判で負けたらどうしようと、非常に苦しい時に、関電ができて、「オレが仲に入って裁判を取り下げさせてやるから、原発には協力しろ」ということで、住民は脅かされたあげく、原発に協力させられる状態になった。

それだけではない。漁業協同組合の幹部が、電力会社に言い含められてかどうか知らないが、2億8000万円の不正融資をしてコゲつかせた。そしたら、関電が3億円預金をしました。



漁協はつぶれずに済んだが、関電が預金を引き出すといえ、漁協はつぶれます。いまや、漁協は関電の言いなりという状態です。

土地もだまされる。
海もなくなった。

5. 結び

「お国のために」谷中村の教訓

現在、各地で原子力発電所がムリヤリ建てられています。実は、何も原子力発電所に限ったことではありません。

谷中村というところがあります。足尾銅山鉱毒事件で有名になったこの村は、1907年、なくなっています。日清・日露戦争をするために、栃木県足尾銅山から非常に沢山の銅を掘ったため、川に鉱毒が流れて、下流一帯農作物は全然取れない。つぎつぎ病人が出て死ぬという、大



田中正造翁

変な被害をこうむったことがあります。

そういう被害が見えながら、国は何もしてくれなかった。「お国のためだから、我慢しろ」ということで、結局、最後には谷中村は廃村にさせられた。警官が手先になって、そこに住んでいた住民も、全部追い出されてしまった。ただ、その理由は「お国のため」という。実は、そういうことではなかったのですが――。

実は、谷中村をつぶしたことによって、日本という国自体が「人間らしい国」として、つぶれていった。それは、谷中村をなんとかつぶさないように努力した、田中正造という、私が一番尊敬している人が言った。「谷中を潰すことで、国家は自己の破滅を実行した」。まさに、その通りです。

弱い者を踏み台にして、自己の安泰をはかろうとすれば、必ず自分の方が滅びてしまう。そのことは、多くの人が言っています。

やがては国も地球も滅びる

私が尊敬しているもう1人の人に、宮沢賢治という人がいます。皆さんは「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」という詩で、ご存知と思います。この人の言葉に、

「世界が全体、幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」。

こういうことを、私たちはこれから考えていかないと、やがては私たち自身が滅びてしまう。

宮沢賢治の言葉は、たぶん心が滅びることを言っているのですが、滅びるのは心だけではない。

近い将来、地球という私たちが生きていける

場所が、壊れてしまうということを、心にとめておいてほしいと思います。

1981年5月31日

気高郡連合婦人会学習会講演より

(記録 村上 小枝)



この子らのためにも原発をつくらせてはならない！
(1983年4月29日、長尾鼻で第2回反原発風船あげ)



原子力発電の経済性

九州大学工学部 平 井 孝 治

1. 原発は石油の代替にならない

・ 原子力発電は石油に依存	285
・ 成り立たぬ原子力文明	285
・ 発電は石油の用途の 1 / 4	285
・ 合わないエネルギー収支	286
・ 計算外の核廃棄物の管理費	287
・ ウランの寿命あと20数年	287
・ 原発は借金地獄	288
・ バカげた海のウラン採取	288

2. 電力は余りに余っている

・ 原発40基分も余っている	288
・ デマ宣伝の「電力不足」	289
・ 伸びない電力需要	290
・ 家庭用電力が頭打ち	290
・ 素材型産業も落ち込む	290
・ 電力を使わせる工作	291
・ 「民生用」電力のゴマカシ	291

3. ではなぜ原発をつくるか

・ 原発でもうかる仕掛け	291
・ 核兵器認める日本政府	292
・ 原発から核兵器生産へ	292
・ 資源戦争と死の商人	293
・ 景気刺激の目玉商品	293
・ 高度な管理社会をめざす	293

4. 原発は電気料金を引き上げる

・ 電気料金のしくみ	293
・ 原発つくればもうかる理由	294
・ 核燃料をため込む理由	294
・ ばく大な原発の建設費	295
・ 補償金をめぐる悲劇	296
・ 揚水発電所は原発の受け皿	297
・ 俣野川揚水の3倍の原発が	297
・ 原発でハネ上がる電気料金	298

5. 死に損、の原発災害

・ 大事故起きても補償せず	298
---------------	-----

1. 原発は石油の代替にならない

原子力発電は石油に依存

原発の経済性を中心に、お話ししたいと思います。まず、原発は石油のかわりになり得るかということを考えてみたいと思います。

原発は基本的には、石油依存型の発電です。つまり、いま、かりに原子力発電をやろうとすれば、建物を造らなければいけません、その建物は、原子力で建てているわけではない。例えば、原子炉の機械だとか、いろんなものは、石油エネルギーでつくります。

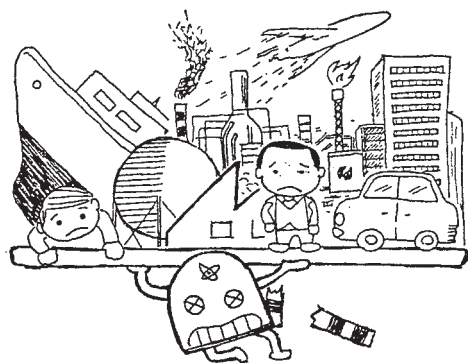
ということは、原子力発電、と言葉では言っているけれど、これは石油がなければできない技術なんです。車一つ動かすのも、原子力発電でやっているんじゃない。

そういう意味で、原子力発電は基本的には、エネルギー、とは、言いがたいところがある。

成り立たぬ原子力文明

石油の場合ですと、石油を掘りだすのに、石油を使って掘りだしているわけです。したがって、掘りだせる石油の方が多ければ、石油生産をどんどん続けるわけです。石油を掘りだすときに、掘りだす石油の方が少くなれば、誰もそんなムダなことしないわけですね。

世界の現在の経済学のレベルでいいますと、



石油でつくられたり動いているものを原発で代替することは不可能だ

「石油は最後の一滴まで使うだろう」となっていますが、そんなバカな話はありません。石油を掘りだすのに必要な石油の量が、掘りだせる石油の量より多ければ、やめちゃうんです。

ところが、とにかく今日、掘りだせる石油の量の方が多いから、石油生産をやっているんです。そういう意味で、石油を使って石油を掘りだすように、ウランを使ってウランを掘りだすわけではない。

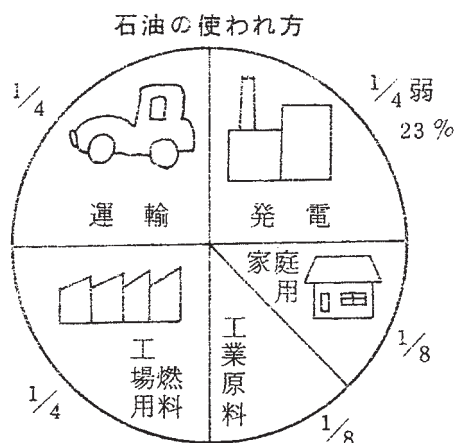
というわけで、原子力発電は、もともと石油依存型の発電である。ですから、文明として考える場合には、そこにおのずから限界があるというわけです。例えば、石油文明という時には、こういう関係で石油が沢山掘りだせるから、文明として成立するんです。石炭文明もそうです。

食糧文明でいえば、例えば、米を生産するのに、米を半年貯蔵しておいて、それをまき、それ以上の米がとれるから、米という農耕文明が成立するんです。ところが、かりに、米を作るのに、作り出せる米より沢山のモミをまかなきゃいけないなら、誰だってそんな生産しないんです。だからそこには、文明は成立しない。米をまいて、まいた量以上に米ができるから、その差額で、農業以外の人の生活を支えることができるんです。

そういう意味で、ウラン文明、原子力文明というのは、もともと成立たない文明なんです。100万キロワット・クラスの原子炉を、15年間稼働させた場合、どれぐらいの石油がいるかといいますと、ドラムカンに換算して、ウランを濃縮するのに750万本。発電所の建設に250万本等、莫大な量が必要です。

発電は石油の用途の1/4

いま、石油の使われ方を調べてみますと、大体、物を運ぶのにおよそ4分の1を使います。工業用原料に8分の1、工業用燃料に4分の1、家庭用燃料に8分の1。発電には大ざっぱ



に言って4分の1、正確にいうと23パーセント使われている。

そこで、発電以外の別の用途を、ウラン・原子力で置き換えられるかを考えてみると、例えば薬品。ウランをどんなふうにも処理しても、アスピリンだとか薬品になるわけがない。石油・石炭なら原料になり得る。

あるいは、家庭用の燃料を、一戸一戸の家庭で原子力発電でやるとか、物を運ぶのに、一台一台原発を積み込んだ運搬車なんて、できっこない。そんな、ナマやさしいものではないし、庶民の手に負えるものではない。

工業用原料になんとか使えないかと、日本、ドイツ、ソ連とかで研究しましたが、これもいろんな技術的な欠陥があって、ダメと分った。というわけで、もし原子力が、石油に代り得るとすれば、23パーセントの発電だけです。

しかも日本政府は、その23パーセントの中の3割、せいぜい7パーセントぐらいを、原子力で置き換えたいといっている。たったそれだけのことで、日本全国、原子力をめぐって、ケンケンガクガク議論をしなければならない状態です。

それでは何故、日本政府はがんばるのかということになるのですけれども、その話は後でしたいと思います。

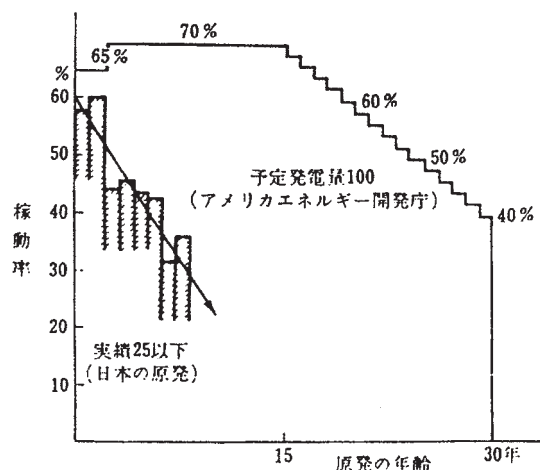
合わないエネルギー収支

アメリカのエネルギー計算では、原子力はつぎのようなエネルギー収支になっています。軽水炉の原発——日本で原発といっているのは皆軽水炉のことです——100のものを作りだすのに、どれぐらいエネルギーを投入しなければならないか、という計算をしています。

昔は原子力というのは、100パーセントエネルギーを調達できると考えていたんですが、実はそうではない。いろんな格好で、エネルギーを投入しなければならないことが、だんだん分ってきた。

ウランを濃縮するためのエネルギー。発電所を建設するために、莫大なエネルギーがいる。そのエネルギーはどのぐらいかというと、100生産するためには、26投入しなければいけないということが分った。

ところが、この計算の前提になっていたのは、耐用年数30年で、稼働率80パーセントだった。経済ペースで動かしている原子炉で、30年なんて動いたためしがない。商業炉は苛酷な使い方をしますから、せいぜい15年ぐらいいか使えない。稼働率の点でも、当初は60～70パーセント確かに動くんですが、年が経つにつ



原発の稼働率は年と共に下がるので、実際にはアメリカのエネルギー計算の1/4しか電気を生まない

れて、だんだん稼働率が落ちてきます。

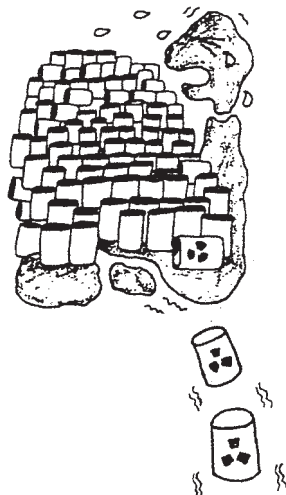
この表は（スライド）、原子力発電の稼働率の変化を示したもので、大部分こうなふうに年が経つと共に落ちてきますから、15年ぐらいでアウトになるだろうといわれている。

ただ1台だけ、イギリスから輸入した優秀ながありますが……。軽水炉ではなく、コールダーホール型といい、稼働率60～70数パーセントと優秀ですが、他の軽水炉は皆落ちている。例えば、福島1号、美浜1号機等は、年間稼働率6～7パーセントという有様です。

というわけで、耐用年数は30年でなく、15年ぐらい。稼働率は80パーセントでなくて、平均40パーセントだということになると、できるエネルギーも半分の半分、トータルで4分の1、25ぐらいだといわれた。26投入して、25ぐらい、せいぜいトントンである。

計算外の核廃棄物の管理費

つまり、エネルギー問題を解決するのには、何の役にも立たない。しかも、実際には、このエネルギー収支計算の中に、いろんな核廃棄物の管理費だとか、廃炉にした後のエネルギーの計算が、全然入っていない。



たまる一方の核のゴミどこにも捨て場がない

人類が、何万年にわたって管理しなければならないエネルギーの計算が算入されていないのは、そのやり方がまだ見つかっていない。どうしていいかわからないので、どのぐらいのエネルギーが必要か計算できない。というわけで、全然入っていない。それを入れなくても、なおかつトントンぐらい。

このことについては、反対派である私たちが言っているだけでなく、推進派の諸君がすでに指摘しています。原発で儲けようとしている人たち原子力産業会議が、「今日の軽水炉は、実証性もないし、経済性もない」と。実証性がないというのは、安全確保に確信がないということ。経済性がないとは、エネルギー収支が合わないということです。

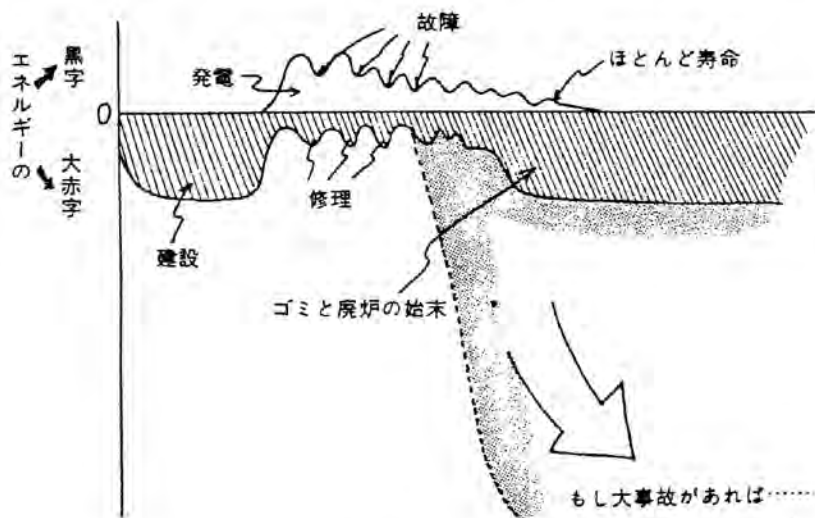
とにかく、今やっている原発は、すでにエネルギー的に見たら、全然役に立たないということが、知られているんです。知らないのは、日本国民だけ。意外に思われるかもしれませんが、これは真実です。残念ながら……。

ウランの寿命あと20数年

原発は、（電力会社にとって）もうかりはします。貨幣価値的にはね。しかし、エネルギー問題の解決になるなんて思ったら、大間違い。少くとも、そんなええ加減なことでは、推進はとてできません。

推進派の人たちは、そんなことちゃんと分っている。「エネルギー問題の解決のためにやるんだ」なんて、外には言いますよ。本心では、そんなこと思っていない。

しかも、燃えるウラン235の推定埋蔵量は、あと20数年ぐらいしかありません。したがって、副産物であるプルトニウムを回収して、何とかしたいと考えているわけです。それで、うまくいくかどうかは、また別問題。私は、ダメだと思っていますけれどもね。



(とくに核のゴミのあと始末が大変だ//)

原発は生み出すエネルギー（電力）より使うエネルギー（主に石油）の方が大きい

原発は借金地獄

さらに原発は、私に言わせれば、ある意味で「借金地獄」だと思っています。

どういう意味かと言いますと、原発が動きまると、核廃棄物ができてきます。これは、数百年から数万年も管理する必要がある。

管理するためには、エネルギーがいる。石油が本当になれば、原子力発電をまたやって、この廃棄物を管理するしかない。

廃物の管理をするために、また廃物が出てくることになる。つまり、廃棄物は非常に早いスピードで、どんどん、どんどん増えざるを得ない。

とにかく、こんなことを続けていては、しょうがないというわけです。

バカげた海のウラン採取

「海水の中にもウランがある。ウラン235がなくなれば、そのウランを取り出せばいい」という話をする人がいる。たしかに、話としては面白そうです。「海水からウランを取り出して、

原子力発電をやろうじゃないか」？。

ところが、そんなつまらないことは、やるべきではありません。なぜかといえば、海水からエネルギーを取り出すのに、莫大なエネルギーが必要です。つまり、いま、かりに取り出したとしても、そのウランでできるエネルギーよりも、海水からウランを取り出すエネルギーの方が多ければ、誰もやってはいけない。やるべきではないんです。

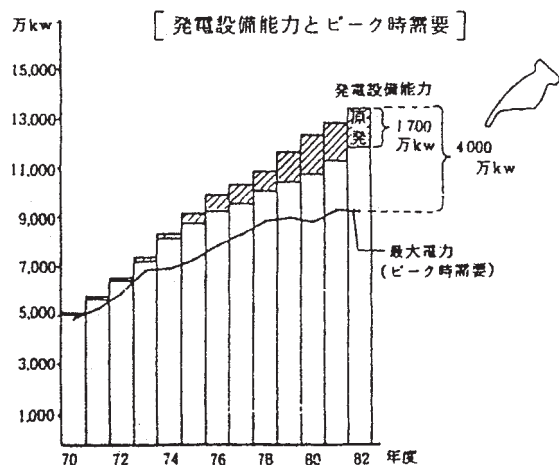
実はそのことは、専門家が計算すればすぐ分る。言葉の上では言いますが、実際にはそんなこと誰もやる人はいない。

2. 電力は余りに余っている

原発40基分も余っている

いま、電力の供給設備が、どうなっているかということをお話したいと思います。

いま、日本は、九電力体制になっていて、北海道電力から九州電力まで、9つの電力会社がある。正確には、もう1つ、沖縄電力という



これだけ電気が余っている原発は1基もいない

のがあります……。九電力体制で考えた場合、設備の利用率。どの程度に発電設備を利用しているか。1970年が69パーセント。それが1980年では46.4パーセントに落ち込んでいる。つまり、70パーセント近く利用していたのが、今日では5割を切っている。この設備利用率は、まだまだ落ちそうです。

そこで、供給能力。どの程度供給する能力があるか。自社分とプラス卸業者、つまり、共同火力とか、公営水力とか、日本原電、電源開発株式会社とか、電力の卸業者、それから自家発（自分のところから発電している大きな会社）から各社は電気を受けている。したがって、自分のところで発電するものプラス受電するものを合せたものが、供給能力ということになる。供給能力は、1970年には4,982万キロワットであったものが、1980年には1億1,706万キロワット、とものすごい増え方をしています。

他方、電力のピークといいますか、一番電気が必要な時、8月の最大値を3つ取って平均したものを、「8月最大3日平均電力」といいますが、1970年が4,845万キロワット、1980年が7,736万キロワットということになっています。したがって、供給能力からピーク電力を引

くと、一番沢山使う時で、どの程度余っているかが分る。それが、遊休能力です。遊休能力は、1970年が137万キロワット、1980年が3,970万キロワット（大型原発40基分）も余っている。これは、今日発電設備なんて、全然新設しないですむぐらい、非常に余っているということがいえる。

ピーク時余裕率は、70年は2.75パーセントしか余っていなかったのに、80年は33.9パーセントつまり、ムチャクチャ余っている。一番使う時ですらですよ。

デマ宣伝の「電力不足」

これはね、皆さん方、電力会社から説明を受けた時、「電力が足らん足らん」といわれているはずなんです。ところが、私は、実はこの道の専門家のつもりなんですけれども、実際調べてみると、そうではない。余りに余っている。

なぜ、こういう説明の仕方をするかといいますと、受電分を削ってしまうんです。実際は、卸業者と毎年契約をしていて、6月は何キロワット、8月は何キロワットと受電の量が決まっているにもかかわらず、削ってしまう。削ると、自社分だけになり、トントンぐらいになって、「電力は余っていませんよ」なんてインチキをやる。実際は、卸業者から受ける電気の量を足さなければいけないのに、その量をは



電気事業連合会の広告

原発推進のため電力危機（停電）をあおるデマ宣伝

ずして、自社分だけを発表する。そうすると、余裕がないように見える。

しかし、電力会社や通産省のいろんなデータを拾いだしますと、なんと3分の1は余っている。ですから、今日では夏場のもっとも電力の必要な時ですら、原発だとか、巨大火電をとめている。とめられるんです。

例えば、島根1号炉は、今年の夏なんか動かないはずです。動かなくなったら、十分やっつけられるんです。それぐらい余っている。にもかかわらず、原発をつくろうという。

伸びない電力需要

今度は、電気を使用する側が、どれぐらい電気を必要としているか。需要電力量を全国計を、昭和30年から5年毎に取って、5年間の平均伸び率を表にあらわしています。30年から35年は、13.53パーセントで増えています。35年から40年は11.26パーセント。40年から45年は13.51パーセント、とものすごい増え方です。

ところが、45年から50年は6.5パーセントに増え方が減ってきた。50年から55年はついに3.96パーセントと4パーセントを割り込みました。この間、電力を使う量が、そんなに増えなくなってきた。つまり、かつて高度成長の時代は、ワットと増えた。例えば、各家庭が冷凍冷蔵庫や、カラーテレビを買い込む時代は、ワットと増える。ところが、今日そういうのがなくなってきた。家庭で使う電力や大口電力の原単位が減りつつある。

電力需要量の 全国計の 平均増加率						
年 度 (5年毎)	30年度	35年	40年	45年	50年	55年度
平均増加率 (5年間)	13.53%	11.26%	13.51%	6.05%	3.96%	

家庭用電力が頭打ち

原単位というのは――。例えば、家庭で使う電力は、いまではほとんど伸びなくなった。

それは、皆さんが節電に努力をしているからではない。そうではなくて、例えば、冷凍冷蔵庫をいったん買う。普及率が100パーセントぐらいになる。日本全国の冷凍冷蔵庫の量は、それ以上増えっこありませんね。1台あればいい。

それを電気が余っているからといって、2台も3台も買う人はいません。例えば、中国電力の会長の山根寛作さんは、私の所得の何十倍もあるでしょう。彼は、私の収入の何十倍もあるからといって、冷凍冷蔵庫を何十台も買うわけではない。家電製品の普及率が100パーセント近くなれば、それ以上器械は増えません。だから、家庭で使う電力はそんなに増えない。

その上、冷凍冷蔵庫でいえば、出始めた時と今日では、1台当たりの消費電力量が半減している。つまり、器械の熱効率が優秀になってきている。だから、節電しようと思わなくても、自動的に節約できている。

電気料金は、単価が高くなっているから、上っていますが、家庭用の使用電力量キロワット時の方は落ちてきている。これが、原単位です。

素材型産業も落ち込む

さらに、大口電力でも、素材型産業――鉄・アルミなど材料をつくる産業の、消費電力量も落ちている。これは、一番電力をくう部門なんです。

例えば、アルミなど巨大な電力をくうものは、最近は統廃合が進んで、日本ではつくらない。石油製品あたりもそうです。つまり、そういう原材料のトン当たりの、消費電力量が落ち込んでいる。

いま、家庭用や大口の使用電力量が減っているにもかかわらず、5年間平均で増えているの

は、二つの要因がある。

一つは、業務用電力。デパート、スーパー、事務所、官庁、つまり、ビルみたいところで使うのが、いぜんとしてもものすごく伸びている。必要以上に冷房をしたりしているのを、皆さんもお気づきと思います。

もう一つは、大口の中でも、自動車産業などの組立て型産業や食品加工など加工型産業が、伸ばしている。

したがって、業務用電力と、組立て・加工型産業に使う電力を、押さえ込むことに成功すれば、これから先、電力は伸びっこありません。

電力を使わせる工作

ただし、いま各電力会社は、自分のところの設備が余って仕方がない。なんとかして使わせようと、努力しています。

例えば、住宅をつくる時には、必ず電気温水器をつけるように指導するとか、あるいは、ビルでは必要ないのに、大きな電力を引き込むよう指導するとか、いろんな工作をしています。つまり、電気が足りないのではなくて、わざわざ使わせるような工作を彼等はしています。

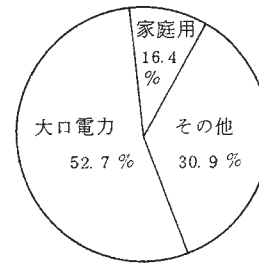
ですから、供給面をみても、需要面をみても、電力危機などという要素は、1つもありません。これはデータが如実に示している。ただし、そのデータは、国民には知らされていないという感じはもちろんあります。

「民生用」電力のゴマカシ

参考までに、家庭用と大口電力の比を見ますと、9電力については、家庭用19.7パーセント、大口が43.8パーセント。それから、自家発電などを含めて、全国の電力については、家庭用が16.4パーセント、大口が52.7パーセント。

最近、電力会社の宣伝に、こんなのがあります。「家庭でものすごく電力を使うから、原発がいるんだ」。これ真っ赤なウソです。電力会

電力の用途



社がいうのは、「民生用電力が増えている」。

昔は「家庭用」といっていたが、最近はゴマカシがきかなくなって「民生用」といっている。民生用といえば、何か家庭で使っているように思うでしょう。ところがそうではないんで、業務用電力も含めていっている。

家庭用電力に限っていえば、全国計で16.4パーセントしかない。ないにもかかわらず、原発等々が必要なのは、まるでわれわれ家庭で使っている人間のゆえだ、といわんばかりの宣伝をしている。そうすると、何となく、「われわれの家庭の電気が停まると困るから、原発に賛成せないかんのかなア」という気になる。その辺をうまく利用している。

3. ではなぜ原発をつくるか

原発でもうかる仕掛け

原発があるというだけで、料金収入が増える仕掛けになっている。そこで、料金が増えた分で、また、原発の建設資金をつくるというふうになる。その建設資金で原発を建てると、また料金収入が増えるようになっていく。

原発を1つのサイクルにして、ドル箱をつくりだすという関係になっています。もっとも、電力会社だけがもうけているのではない。原発をつくることによって、いろんな産業がもうかることになっています。

核兵器認める日本政府

実は国連の、この間ずっと出てきている決議案に、「核兵器の不使用、および核戦争の防止決議案」というのがあります。その全文は非常に簡単で、「核兵器の使用は、国連憲章違反であり、人道に反する犯罪である。したがって、核兵器の使用、または使用による威嚇は、核軍縮が達成されるまでの間、禁止されるべきである」。

ごくもっともな決議案なんです。これについて、日本政府は、昭和54（1979）年までは賛成していました。核兵器は使うべきではない、という立場をとっていました。

1980年に入って、この決議案に棄権しました。なんともいえないという見解です。昭和56（1981）年には、ついにこの決議案に反対しました。つまり、戦争で核兵器を使うことも、やむを得ないという立場をとりました。

これは本当のことなんです。政府はこの問題で、何回か国会で答弁しています。もっとも、新聞には大きな記事にはなっていません。非常に小さな記事です。とにかく、今日ではわれわれの国は、核兵器を使うことは、やむを得ないという観点に立っているんです。



原発から核兵器生産へ

核兵器というと、内容的に三つに分けて考える必要があります。

1つは核弾頭。日本は持っていないけれども、プルトニウムを持っていますから、いつでも作れます。原子力発電がありますから。

もう1つは運搬手段。ミサイル、潜水艦等。日本の海上自衛隊は、核弾頭を運ぶことができるものを、現実を持っている。

3つめは、3Cといわれる指揮・統制・通信（コンダクター・コントロール・コミュニケーション）。

弾頭だけあっても、運べないと核兵器にならない。あるいは、それをコントロールし、情報を与えるシステムが必要です。この3つが一緒になって、はじめて核兵器の体系がつくられる。

日本には、そういう意味で原理的には、全部そろっている。核弾頭は、原発をやっているから大丈夫。核の運搬手段は、ミサイル、核兵器搭載艦、潜水艦、戦略爆撃機なんでもある。3C関係は、日本は電子工学が発達していますから、十分です。

というわけで、私たちの国は、核クラブ入り



プルトニウムでつくられた長崎の原爆

を達成しようと思えば、いつでもできる。さらに、日本の構想は、とにかく今は核兵器がないとダメなんだという考え方なんです。しかし、日本が核兵器を持つとは、言えないから、`アメリカの核の力サ、と`いつているわけです。

したがって、核兵器不使用ということに、日本は賛成できない。「少くとも、核があつて世界の平和は保たれているんだ。したがって、核兵器を使うことは当然である。これが前提でないとダメなんだ」——と、日本政府は国際的には主張している。

そういう国際環境に、日本はいるわけです。現実の課題として、日本は核クラブ入りを果そうとしている。

資源戦争と死の商人

OPEC（石油輸出国機構）などの、資源ナショナリズム「オレとこ石油あるけど、渡してやらんぞ」というのに対抗するエネルギーとして、「石油を買わなくても、原子力があるから、やっていけるんだ」という言い方をしたい。

死の商人の原理といって、いま原子力開発をやったら、子孫が困ることはわかっているけれども、やむにやまれずやるんだ。

`死の商人、とは、武器（軍需品）を製造・販売して、巨利を得る商人のことで、売った武器で沢山の人が死傷するだろうが、当面の利潤を求めて、武器を売るわけです。

それと同じことが、原子力開発にもいえる。

景気刺激の目玉商品

いま、日本の経済を保つためには、かつての高度成長時代のように、経済を刺激するような新製品がない。

考えてごらんさい。ないです。かつて、冷蔵庫、洗濯機が出たトタン、どこの家でも欲しいと思った。だけど、いま、ビデオなりマイコンなり出ても、どうしても欲しいなんて、思っ

たことはない。つまり、景気を刺激するような、大きな材料がない。

その代りに、経済のけん引車として、原発を持ってくる。民間設備投資の中で、住宅が一番です。これが断然トップで、つぎは今日では、電力が占めている。昔は、鉄鋼だとか、自動車だった。

そういう経済の引っぱり役として、原発を位置づける。

高度な管理社会をめざす

原発をやることによって、高度な管理社会をつくりたい。原発の事故が起こったときに、皆が仲よく、この事故をどうしましょうと、相談してた日には、事故はどんどん進む。

そういう時には、専門家がテキパキ指示をする。そういう高度な管理社会、技術社会に原発が適していることは、明白です。今日の技術体系というのは、だんだんそうなりつつあります。

このほか、いろいろ考えられますが、大ざっぱに言ってそんなところが、安全性が確保されていない、経済的にもエネルギー収支としても合わないけれども、なおかつ（原発を）やりたい、という理由です。

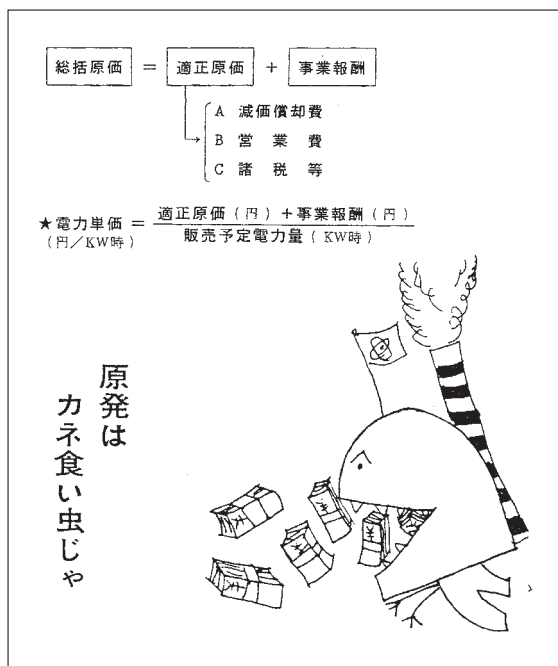
4. 原発は電気料金を引き上げる

電気料金のしくみ

簡単に言いますと、電力会社は、供給を促進するような送電線だとか、発電設備だとか、巨大な設備を、持っていれば持っているほど、有利になるように設計されている。

それは、正式にいいますと、`総括原価方式、`といいまして、電気料金の算定はつぎのようになっている。

「原価」といわれているもの。人件費、燃料費、修繕費、減価償却費、公租公課、購入電力料、その他の経費を全部足し算します。



それに、電力会社のもうけをいくらにするかという「事業報酬」を足します。それを、使用量で割算した結果が、「単価」です。

例えば、修繕費なんか、原発になりますと、1年で50億円ぐらい積み上げることができる。もっとも、出力や建ててから何年経ったかで、多少ちがってきますが。

そういうわけで、コストを計算します。

原発つくればもうかる理由

他方、「事業報酬」。利潤ですね。利益については、ちょっと言葉がむずかしいですが、「レート・ベース」といわれる資産の額かける8パーセントで、年々の報酬がきまります。

この「レート・ベース」といわれる部分を、大きく算定すれば、報酬がふえるということです。「レート・ベース」とは、電気事業固定資産、要するに、電気を供給するルート、発電して送電して配電するために、必要な発電所・送電所・変電所・配電設備等々の固定資産に、8パーセントかけたものが、年々の利潤という計算をしている。だから、この「レート・ベース」

が大きければ大きいほど、電力会社は有利だということになっている。

そのほか、建設途上の資産。普通、民間会社は、施設を建設している段階では、何の報酬も入ってこない。当たり前です。稼働してないんですから。ところが、電気事業だけは、動かなくてもかまわない。帳簿上金額が出てきますと、建設資産の場合は、2分の1の評価になるので4パーセントになります——その4パーセント分は、確実に電気料金に積み上げることができるになっている。ですから、電力会社は安泰なんです。

普通、計画をたてて、資金を投下して、何千億円の資金が十何年も動かないってことになると、どの会社だって破産しますよ。ところが、電力会社だけはその心配がない。動かなくても、その間ちゃんと4パーセントの利潤は、認めているんですから。

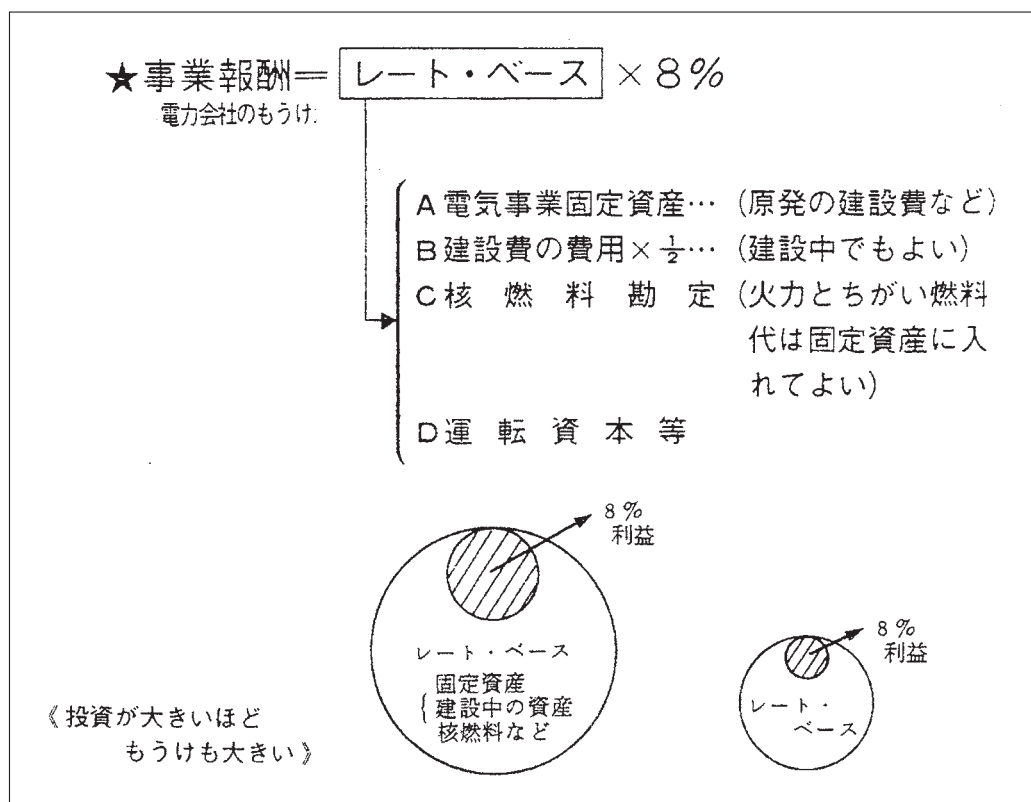
核燃料をため込む理由

それから、核燃料勘定というのがありまして、帳簿上買付け契約するだけで、これまた8パーセントの利潤を保障している。

極端な例をいいますと、北陸電力や東北電力、北海道電力は、まだ1基も原発は稼働していませんが、核燃料を何百億円か持っている。会社の中にはありません。買付け契約をして、手付け金だけ打っている。

そうすると、何百億かの核燃料を買った格好になって、帳簿につきます。その金額の8パーセントは年々の収入になる。北陸電力で400億円ですから、その金額の8パーセント、32億円がだまって転がりこんでくる。そういう事業になっているんです。ぬれ手に粟です。

それから、運転資本というのがあって、営業費や燃料費の1.5ヶ月分を見込みます。ですから、どれだけ「レート・ベース」を大きくするかによって、電力会社の利潤がきまります。



ばく大な原発の建設費

発電所の建設費は、どういう格好ではじきだすかという、建設費を出力で割ります。つまり、キロワット当たり、何万円で建設できるかというのが、1つの指標になるわけです。

九州電力の例でいえば、玄海1号と2号機がありますが、かつては1号機ときには、キロワット当たり83,200円だったのが、2号機では238,300円とハネ上がっている。年間上昇率21.48パーセント。フリー計算していますので平均にするともっと多い。

それから、3号機はいま玄海ヒアリングとって、問題になっていますけれども、これは現在の段階で、キロワット当たり508,500円。実際建てられる場合には、当初計画の絶対倍になります。キロワット当たり100万円は越えちゃうでしょう。

現在、豊北原発1号機は、立ち消えになって

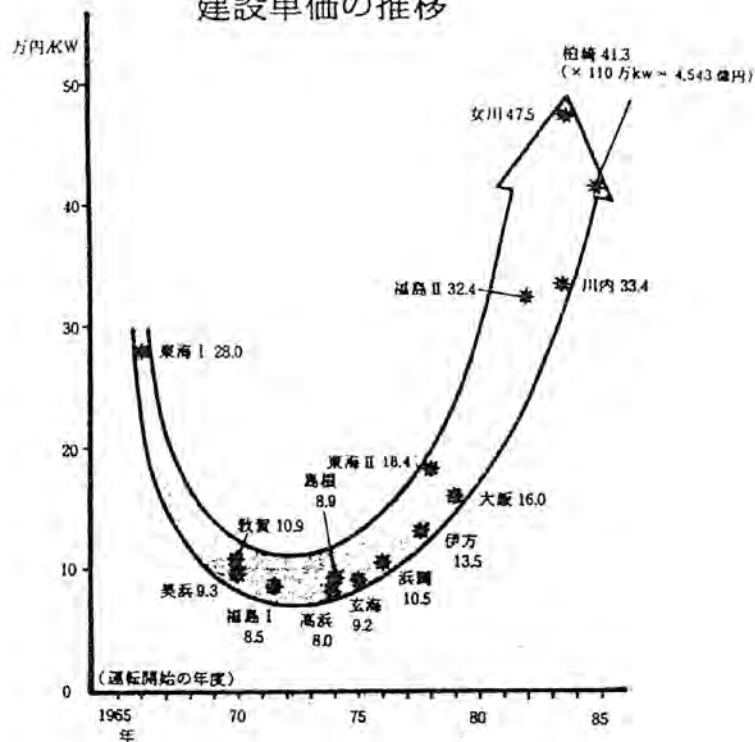
はいなくて、毎年建設費の洗い直しをしております。これが5,410億円もついています。5,000億円というのは、ものすごい金額なのです。普通、人口1万ぐらいの町の財政は、年間30から40億円。それが、原発1基で5,400億円。これは去年の見積りですから、たぶんことは6,000億円になるでしょう。玄海原発3、4号機は、もう6,000億円の見積りをしています。

そんなわけで、莫大な金を使う。また、その上昇率が非常に激しい。

しかも、その建設費の中には、例えば、漁業権を放棄した人に、補償金を払いますね。最近では、これも何十億円という金額ですが、それも、もちろん、皆さん方の電気料金から取るわけです。

まず補償金を払う。あるいは、地方自治体に協力金を払うでしょう。それは「総工事費」という名目になります。それを固定資産に計上し

建設単価の推移



て、減価償却するという格好で、いくら巨額な補償金を払っても、電気料金から、必ず取り戻せるようになっているわけです。だから、平気で何十億円（補償金を）出すことになる。

補償金をめぐる悲劇

ついでに、補償金の配られ方をお話しますと、これは各地で見られる現象なんですが、最近では、漁民1人当たり2,000万円とか3,000万円という金額になります。2～3,000万円も漁民に入りますと、沢山入っていいようですが、そのために、人格が破たんしていった例が一ぱいある。

つまり、漁業権を放棄した地域に、何十億補償金が入ってくると、配分をめぐって、血で血を洗うような争いが起こる。例えば、漁獲高で分けるのか、あるいは組合員になって何年経っているとか、それぞれ自分に有利になるような

基準を主張する。何百万円にかかわるのでから、それはもう、必死です。

その上で、入ってきた補償金を、どう使うかの問題。一ぱん賢明なのは、家や土地を買うという方法。これは、モノが残ります。私が関わっている玄海町では、いままで水揚げで細々と生活していた人が、何千万円も手にして、仕事をせずにバクチをする。けれども、その人たちはまだマシです。バクチですっちゃうと、また働き出すから。

一番悪いのは、何千万円かを頭金にして、大きな船を買った人です。大きな船を買えば、もうかるだろうと思えば、大間違い。普通、船を大きくするというのは、大きくするだけの資金をため込むわけです。その間に自分の力がつくわけで、生産高が増えているはずですが、

ところが、漁獲高が増えないまま、船だけが大きくなった。したがって、大きな船に見合う

だけの水揚げながい。燃料費だとか、維持費だとか、ローンだとか、方々に借金だけが増える。その結果、何千万円も抱え込んだ借金を返済するためには、どうするかということで、また、原発の増設をお願いしようということになり、電力会社から名目を作って金を引き出そうということになる。そうなりますと、あきらかに生活破たんということになってくる。人間、墮落してしまいます。

もともと、身につかない金というものが、人を減ぼすということが、よくありますね。

例えば、宝クジに当たった。人にとやかくいわれるので、会社にもおれないとか。宝クジはまだいいんですが、何千万円も補償金が入ったら、どうにもならない。人間関係がドンドン切れていく。これが遺産相続なら、親が持っていたんだから、まだ根拠がある。

ところが、これは電力会社がガバツと出したんだから、親、兄弟、親せき、黙っていない。「オレにもくれ」「俺とこ借金があるからなんとか立て替えてくれ」とか、当然そういう悪銭を、アテにすることになる。

ということは、一生懸命働いている人が、バカに見える。つまり、労働を軽んじることになる。そういう悲劇が原発立地点では起きている。

揚水発電所は原発の受け皿

原発には、水を揚げて発電するという余計な、発電設備がいる。

電気の1日の使われ方は、夜間の午前1時から5時頃までの間の使用量は一樣に低く、昼間の午後1時から5時頃までの間が、一番高い。原発なら原発で発電するのを、夜少くして昼多くできれば問題はないが、使用量のカーブに合わせて原発を発電すると、燃料棒が破損してしまうものですから、一定の出力を保つわけです。緊急時にはやむを得ず出力を落しますが。

そうすると、夜余ってきます。夜余った電力

で、水を汲み上げるわけです。そして、昼のピーク時の電力が必要なときに、これを降ろして水力発電をする。これを、揚水発電といいます。大体でいいますと、汲み上げるのに必要な電力を100とすると、下ろす時にできる電力は60ぐらいです。というわけで、原子力発電をやりますと、必ずこの揚水発電というのを、やらなければいけない。

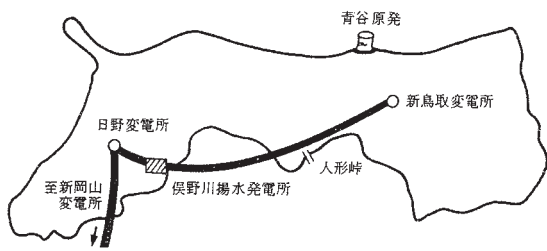
1959年、いまから20数年前、湯水で発電に困った時、国会でこういうことが、議論になった。ある先生がこういう提案をした。「水力発電をしてできた電気の一部で、水を汲み上げてそれで発電し、また汲み上げて発電すれば、エネルギー問題は、たちまちに解決する」。

これは、物理を学んだ人なら、アハハ……と笑うところです。*エネルギー保存則、というのがあって、こんなアホなことは、成り立たんです。つまり、下りてきた水を汲み上げようとすれば、それが生み出す電気以上に電気がかかる。だから、こんなアホなことは、誰もやらないんです。専門家にとって、思いもよらんです。だけど、揚水発電というのは、専門家である彼等が、それをやろうとしているのです。

ところが、原発というのは、いまいうようなシステムになっているものですから、巨大な揚水発電所が必要なのです。つまり、100万キロワットとか120万キロワットとか、巨大な揚水発電を要するんです。普通の水力発電で、100万キロワットといえは、大変なものなんです。乱開発につぐ乱開発をやらないと、そんな巨大な水力発電は、とてもできません。

俣野川揚水の3倍の原発が

中国電力の現在一番巨大な揚水発電所は、いま建設中の俣野川揚水発電120万キロワット。島根原発1号は、46万キロワットですから、大体3倍です。こんな巨大な揚水発電所をつくっています。



これは、昭和60年に営業運転開始。したがって、試運転が59年にあると考えています。総工事費1,632億円。これは、まったく莫大な事業です。全国各地の原発のあるところでは、必ず揚水発電をやっているわけです。

揚水発電の規模は、現在ある原発の大体3分の1ぐらいの出力になる。逆にいうと、揚水発電があると、その3倍ぐらいの出力を持った原発が（トータルで）あるはずだと考えていい。

そうすると、中国電力の場合、いま原発は46万キロワットの島根1号だけ。120万キロワットの揚水発電が必要だとは、一体何事か。言葉をかえていえば、その120万キロワットの3倍ぐらいの出力の原発を、近々建設したいんだ、ということになる。

これは、どこでもそうなんです。すぐ近くとは限りませんが、送電線で連れいされるようなところに、大体その3倍ぐらいの原発がある。だから、大ざっぱにいきますと、島根1号46万キロワットがありますね。それを除くと、100万キロワット・クラス最低3基ぐらいです。

で、どことどこになるだろうか、私には分かりません。皆さん方が、中国電力を問い詰めるしかない。そんな計画なら、やめろ、やめろと話をせざるを得ない。

とにかく、私どもは電力の需給関係を調べていまして、いつも同じパターンがあります。まず、揚水発電所を先につくっちゃうんです。どこでもそうなんです。それに見合う格好で、つまりその3倍ぐらいのクラスの原発が、その後を追いかけます。

大体、宍野川というのは、岡山、島根、鳥取の3県に源を発して、上のダムは岡山県、発電所は鳥取県にある。そのあたりは注目しなければいけませんし、建設中の揚水発電でも、電気料金には事業報酬をつみ上げることができる。

原発でハネ上がる電気料金

豊北1号機が、運転開始するようになれば、どのぐらいの電気料金の値上げになるか。

15年で償却するとして、減価償却費は、5,410億円かける14.23パーセントという計算になりまして、初年度は769億8,000万円。事業報酬は、8パーセントをかけて、432億8,000万円。つまり、巨大な設備をつくっておくと、これだけもうかる。

で、電気料金にハネ返るのは、足し算しまして、1年に1,200億円ぐらい。だから、1つの原発が動きだしますと、電気料金がパッとハネ上っちゃうから、たまりません。

このように、原発はいかに巨額であっても、減価償却を通じて費用は回収できる上に、それに上乗せして報酬を認められている。

5. `死に損、の原発災害

大事故起きても補償せず

原発が巨大な事故に出くわせば、損害賠償でとんでもないことになります。いまの原子力災害では、恐らく10兆円とかいうようなオーダーでの、補償をしなければいけないだろうといわれています。だから、いくらこんな格好で費用を回収しても、ひとたび巨大な事故を起せば、たちまちにして間に合わない。ところが、どんな大事故を起こしても、補償金に限度額を設けている。

建設費はもちろん高いし、修理費とか税金とか支払わされますから、原発は大変高くつくんです。

	アメリカ原子力委 ウォッシュ740報告 (1957年)	アメリカ原子力委 ウォッシュ740報告 (改訂) (1965年)	アメリカ原子力規制委 ラスムッセン報告 (最終) (1975年)	日 本 の 原子力産業会議 (1960年)
急 性 死 者	3,400人 (24キロ以内)	4万5,000人	3,300人 (その4倍)	720人
急 性 障 害	4万3,000人 (72キロ以内)	10万人	4万5,000人 (その4倍)	5,000人
ガ ン 死 者			4万5,000人 (その3倍)	
甲 状 腺 ガ ン			24万人 (その3倍)	
遺 伝 障 害			2万5,500人 (その6倍)	
要 観 察 者	380万人			130万人
永久立ちのき 人 口	46万人			3万人
永久立ちのき 面 積	2,000平方キロ (鳥取県の2/3)		750平方キロ (気高郡の5倍)	
農業制限面積	39万平方キロ (ほぼ日本の面積)	710万平方キロ (米国の面積の8割弱)	8,300平方キロ (鳥取県の2,4倍)	3万6,000平方キロ (中国地方の面積)
財 産 損 害	2兆1,000億円	5兆1,000億円	4兆2,000億円 (その2倍)	100億～10兆円
当時の日本の 国 家 予 算	1兆2,000億円	3兆7,000億円	21兆円	1兆7,000億円

〔備考1〕ラスムッセン報告の()は不確かな上限(最大被害)を示す。

〔備考2〕空白の部分は報告書中に評価がないことを示す。むろん、これらの被害がゼロであることを意味しない。

従来、電気料金の値上げのたびに、「電気代を安くするためには、原発をやらねばいかん」と、宣伝してきた。あれは、真赤なウソです。

私は、電気料金、需給関係、原価計算とかをずっとやってきて、電力会社がいかにウソを言っているかということを、いろんなところで、書きまくっています。しかし、これについては、電力会社から公式な反論は、一度もきません。

というわけで、事業報酬等々を含めまして、私たちの払う電気料金は、高くならざるを得な

い。つまり、サイクルは、原発をやれば、建設費だとか、核燃料費だとか、電気料金が上がります。そして、回収した費用で、また原発をつくる。そのおかげでまたもうかる。またつくる——というサイクルになっている。

私は、これをドル箱サイクルといっていますが、そんな仕掛けになっているということを、私は数年以前からあばいていることなんです。私たちは、このサイクルを断ち切らねばならない。

とりわけ、青谷・気高の人たちにとっては、

電気料金の問題だけではありませんね。経済性の面からも、科学的に安全性の面からも、ありとあらゆる意味で、原子力が問題にならない厄介なものであることを強調して、私の話を終わります。

1982年6月20日

気高郡連合婦人会学習会講演より

(記録 村上 小枝)

青谷も候補地だった!?

あす「原発を考える集い」

鳥 取

スリーマイル島の事故（アメリカ）を機に世界的な原子力発電所の安全問題が表面化している。県内でも「原子力発電の危険を正確に報告、知ってもらおう」という「原子力発電の公害を考える集い」が十八日午後一時から鳥取市の県立博物館で開かれる。同集いを主催する原子力発電の公害を考える会（吉田達朗会長、会員五百人）によると、「県内でも計画

中の開電、居住環境や検討中といわれる中電・青谷原発」など動きもみられ、県民に正確な実態認識を促したい」（吉田会長）という。集いの主催は、同会であるのは、か原水務局取県民会議（北尾才智代表委員）、県総評（北尾才智議長）が共催、県環境被害者協議会（河川重光会長）、県連合婦人会（近藤久子会長）などが後援している。当日は、一般市民ら約五百人の参

加を予定している。

日曜日は、午後二時の開会のおと映画「核」（四十分）を上映。その

あと京都大学原子炉実験所の小出裕章研究員が「スリーマイル島原発事故の真実」のテーマで講演す



る予定になっている。原子力発電の公害を考える会会長、吉田達朗（社会党）が「二百明らにしたところによると、県内に関係（建設）する原子力発電所は、現在同会の資料によると「計画中一カ所、検討中一カ所、所明らになっている」といふ。その一つは、去る四十五年十月に計画が明らかになった関西電力（株）・尾崎原子力発電所、鳥取県側の岩美郡岩美町東浜付近から兵庫県美方郡淡路町尾崎にかけて関西電力が計画しているというもので、兵庫県では開発計画にも計画が載っているといわれる。現在、計画は休止状態という。他の一カ所は、同会によると中国電力が広島県尾道市長尾島に建設を検討したことがある、というもの。同会の話では、中電としては「かつて候補地の一つとして検討したことがあるようだ」ということで、具体的には計画があったのかどうかも一般には明らかになっていないとみられている。今度の集いは、こうした県内への関連計画なども含めて、同会などを中心に原子力発電の現状と実態を知ってもらうための。

『日本海新聞』1979年6月15日

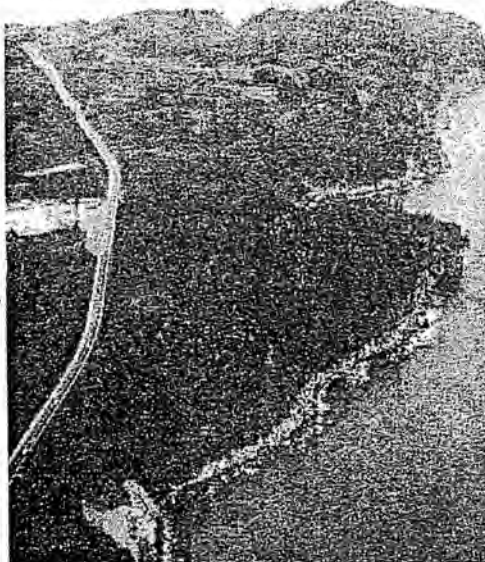


気高側から遠望した長尾鼻

「青谷町も有力候補地」

警戒強める革新団体

県総評、自治労が対策委



原発建設の候補地の声があがっている長尾鼻
(左側は国道9号線)

政府は石油代替エネルギー開発の増設計画に加え、最近京都府の原子力発電所の増設を強制的に進めようとしているが、山陰地方では中国電力による島根原発の増設が、このため危機感を深めた。

内の革新団体は、組織内に原発対策委員会を設立させたり、臨時大会で原発阻止の特別決議を決定する方針である。

「原発の公害を予える会」によって公表され、当時中電や青谷町関係者には否定したもの、中電の机上計画にあるらしい、という噂が根強く流れ続けた。

さきに行われた島根県知事選挙の公開ヒアリング阻止闘争に原内から六百人の支援者が出た。また、青谷町から講師を招いての学習会などによって「一人ごとではない、早く対応策をとらねば」という空気が強まった。

県総評の特別決議案や、自治労、電産関係の情報を総合すると、青谷原発の建設は百十兆の発電容量、計三百三十兆というものが、国最大規模のものらしい。現在建設中の日野郡日野町候補地の百二十万、日野町候補地、新岡山候補地、日野町候補地（日野郡日野町候補地）の新島取候補地（島取市松上）を結び、五十万、二十万、二十万の送電線、新山陰幹線と連絡する構想という。

自治労本部、藤田正行委員長、八千人は、この日開いた執行委員会で原発対策委員会を設けることを決議。青谷原発に関する情報を集めたり、反対運動のための学習会を始めた。十日に青谷市で臨時大会では同委員会の活動報告を予定している。一方、県総評（遠藤義典、三万八千人）は七日に青谷市の県福祉文化会館で開く臨時大会の席上、県内で画策されている原発計画をめぐって「阻止する」との特別決議を決定した。このあと対策委員会を設置する方針である。

の出力を県野瀬水発電所に送って水の位置のエネルギーとして大きく、民間の電力需要のピーク時に発電させようという考えだ。また、既設発電所だけでは県内の電力需要に満たないという事情が、青谷への立地を急がせていると観測している。

原発は冷却用に大量の海水を必要とし、また地震に対する心配の少ないことが立地の条件だが、県内では日本海に突き出した安山岩の隆起地である長尾鼻が候補地といわれている。

革新団体では、米スリーマイル島の原発事故などで、原発の安全性は崩壊し、死の灰や放射能によって県民は住めなくなることを強調。さらに県東部には島取大震災を起した巨震、鹿野という二つの活断層もあって危険極まりないことをあげ、原発計画はあくまで阻止する構えだ。

なお中電の原発は稼働中の島根一号炉、三月の電源開発調整委員会にかけられる同二号炉計画があり、山口県の東北原発計画は地元で反対で三年連続している。そのほか山口県の萩と島取県の青谷の構想が流れていた。



「次代に何を遺すべきか」

国際児童年を軸に気高郡婦人大会

広範囲な問題

を抱えて討議

をかかげて、国際児童年を軸にした大会を、十一月二十五日気高郡連合婦人会がひらいた。

(青谷町中央公民館)

午前は、原子力エネルギー」と題して京都大学原子

炉実験所、小出裕章氏の講演があり、あらかじめ用意された資料の図解を確かめながら、エネルギーとは何か、原子炉とは何か、その基本について学習。午後

は、次代に何を遺すべきか。資源、環境、文化、健康、平和など、いま私たちが直面している物心両面の課題のすべてを包含する、と言っても過言ではない厚い、広いこのメインテーマ

婦人新聞常任委員・小泉澄

子ら四人が、郡会長・村上小枝の司会で「次代に何を遺すべきか」についてシンポジウムを行ったのち、大会申し合せを読みあげ、全員一致で賛成した。

◇

「演題をみた時、こんな難しいことが私たちに解るだろうかと思ったが、平易でよく解った。いい講演だった」核エネルギーなんて私には縁遠い問題だと思っていたがそれは間違っていた。こんなに身近かなこんな大事な問題だとは

今の今まで知らなかった」「いろんな議論があっても心のどこかで私は原発はいいものだと思ってきた。死の灰のことまで知らなかったから。これからは反対する」「これほど恐いものとは思わなかった。こんなものを子供に絶対に遺してはならない。等々、昼食後の休けいの合間をぬって、或いは大会終了後に、みんなが代るがわる寄ってきて右のような感想を伝えていく。私たちにしてもこれは予想外の反響であった。

原発の恐怖を身近かに学ぶ

小出講師 内からの勇氣ある訴え

◇

小出氏講演の詳しくは本紙「窓」に連載中であるが以上、きわめてクールで平易な語り口と、都市の電力のために過疎地に危険を強

要し、または危険な修理事業はすべて下請けに廻すような、「弱い者を踏台にし

なければ成り立たぬもの」

には基本的に許せない、というその若くさわやかな倫理観が、かつてない反響と感銘をよんだ。

村上会長は

「私たちに平和な安全だという一方的な情報ばかり流れてくるが、何が真

実はやはりたくさんさんの情報の中から自分たちで学習して選んでいかねばならない」ことを強調し、八幡副

会長も閉会の辞の中で「原子力発電とは安全だと私も思っていたが、今日はつくづくその恐さがわかった。私たちは子孫のためにどう

しても反対しなければなら

ない。そのために組織の拡大をはかろう」と結ぶなど、これまでにない盛り上りをみた一日であった。

(小泉)

(講演要旨略)

(大会申し合わせNページに掲載)

『鳥取県婦人新聞』1979年12月9日

く強く警戒「原発青谷」噂まる広

会学習会婦連郡高気、し危土郷

員満で住民ら押し期繁農

青谷町に原発がくる、という噂を私たちはじめて耳にしたのは二年ほど前のことであつた。最近になって再びその内容に一層の真実味を増してひろがりつつある。先頃の敦賀日本原発の相次ぐ放射能もれと事故かくしが大きな社会問題として取沙汰されている折から気高郡連合婦人会では、郷土危うしの危機感をつよめ、五月三十一日、地元の青谷町中央公民館で会員ならびに住民一般に参加を呼びかけ学習会をひらいた。スライドを交えながら原子力発電の基本的な知識とその安全性について学んだあと、講師・小出裕章氏（京都大学原子炉実験所）と、土井淑平氏（共同通信社）を助言者にして、会場との質疑・意見や情報交換を主に話し合いを行なった。

◇ 小出氏の講演は淡々とした語り口ながら、原子力発電という一般には難解な内容を非常にわかり易く理解させることと、論旨が明快なこととでかねてから気高郡の婦人会の間では定評がある。当日の会場には、中学生の母娘づれや幼児を膝に

と命と里るふ

うろう守るし暮らし暮

またがり、距離的にはむしろ気高町に近い。
③ 原発の受け皿とみられる新しい送電線、変電所、揚水発電所等の施設計画が着々と先行、進められて散っている。
④ 長尾岬のつけ根を通っている現在の国道九号線を遠ざけ、トンネルでう迴させるつけ替え工事の計画が、最近急浮上している。

折しも農繁期の中、快えている気高郡の連合婦人晴に恵まれたこの日は参加者が出足が心配されたが、学習してみようというこ時が経つにつれて会場はほぼ満員となり、婦人会員に混って話し合いの最後まで熱心に耳を傾け、意見をのべる男性の姿も目立った。会に先立って村上会長は次のように挨拶。

「二年前の六月、この青谷町が原子力発電所の有力候補地として挙がっている候補地として挙がっている」ということを、私たちは地元紙の記事で読んだ。丁度スリーマイル島事故の直後でもあり、平素から、いのちと暮らしとふさふさをまもることを活動の基本に据

「二年前の六月、この青谷町が原子力発電所の有力候補地として挙がっている候補地として挙がっている」ということを、私たちは地元紙の記事で読んだ。丁度スリーマイル島事故の直後でもあり、平素から、いのちと暮らしとふさふさをまもることを活動の基本に据

「二年前の六月、この青谷町が原子力発電所の有力候補地として挙がっている候補地として挙がっている」ということを、私たちは地元紙の記事で読んだ。丁度スリーマイル島事故の直後でもあり、平素から、いのちと暮らしとふさふさをまもることを活動の基本に据

⑤すでに数年前から青谷、気高地区周辺で中国電力のさまざまな住民工作が行なわれ、最近特に動きが目立ってきた。（島根原発視察、電気教室などでの原発PR等）
⑥中国電力の最近の新規採用者が青谷町、岩美町に偏っている。（岩美町も候補地の一つ）等々が情報交換の中で出し合われた。

（講演要旨略）

『鳥取県婦人新聞』1981年6月14日

青谷・気高で原発学習

最近、長尾鼻峠が原発候補地に、の根強いうわさが再燃している。気高郡では、十一月十五日、大阪大学理学部講師、久米三四郎氏を講師に迎え、青谷町と気高町の二会場で一般住民を対象に、原発学習会を開催した。

青谷町の「原子力発電について話しあう会」は、住民組織「青谷原発を考える会」の主催で、九時半から十二時まで、原子力発電所がもし長尾鼻にできたら、と題する講演と質疑が時間いっぱい続いた。

気高町では婦人会と町連合青年団が共催して、いま子孫に何を遺すか、をテーマに、国や電力会社が宣伝するように、「原発」ははたして安全でバラ色の未来を約束するものかどうか私たちの暮しや未来につづく子ども達のために、青谷

気高原発のうわさを単なるデマとして見過してしまっていないか、を学習した。

講師、久米三四郎氏は柔

かな関西弁で、原発と、原爆の共通点からとき進み、原子の火、ウランを燃やして発電する原子炉の原理を非常にわかり易く解説し、更に、ドイレなきマン

ションと異名される、その廃棄物処理方法は、現在の科学の能力を以ってしても説明されてはいない。百万KWの原発一基から一年でヒロシマの千発分の死の灰が出来る。また、死の灰だ

けでなくプルトニウムというものが出来る。耳かき一ぱい一丁で、百万人の人を肺ガンで殺すことができる。放射線障害については

原発から平常時、排気筒（エントツ）からガス状の死の灰が排出され、排水溝から放射能物質が水でうすめて海に流されている。

周辺の住民は常時、放射線を浴びているわけで、電力を売ったり使ったりして儲ける人と、放射線を浴びて被害をうける人と分れてしまふことに問題がある。

許容量というのは、もと

原子力発電を考える

大阪大学理学部

久米 三四郎氏

（講演要旨略）



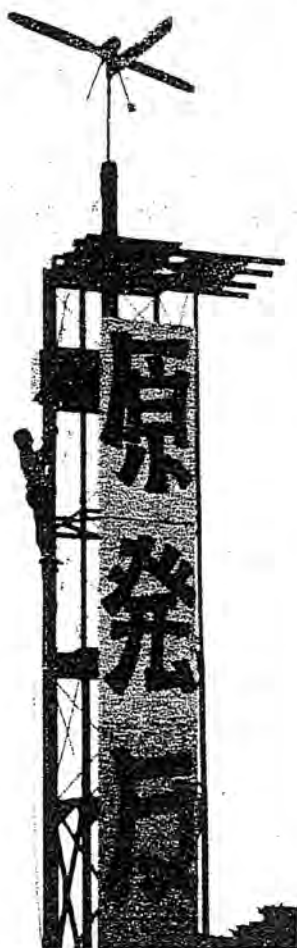
八束水から長尾鼻を望む

『鳥取県婦人新聞』1981年12月27日

偽まんだらけです 代替エネルギー論

この日、気高郡連合婦人会は午前、高会場で講師平井孝治先生（九州大学工学部）は午前中の疲れもみえず、原子力発電の虚像と実像のテーマでスライドやデータをまじえながら、一般に言われている、原発は石油の代替エネルギー、という宣伝がいかに虚構にみちたものかを経済性の面から一つひとつ説きあかしました。そのあらましをお伝えします。

（講演要旨略）



原発でなく、自然のエネルギーをもっと見直そう（川内の風車）

原発こそ完全な石油依存型

平井講師、虚構宣伝ひとつずつ崩す

電力会社 弱者犠牲に利潤ねらう

気高郡連婦学習会

六月二十日、気高郡連合婦人会は午前、青谷町の中央公民館、午後は気高町浜村の龍吟閣と二会場に分かれて、原発問題を話しあう会をひらきました。中田電力が第二の原発立地として決定している山口県豊北町の町長選挙で、四月二十五日、原発反対の町長が再選され、豊北原発は当分手がつけれなくなることから、代って長尾昇が狙われる公算はますます強まる状態の中で、気をゆるめず更に学習を積み、本気でこの問題を考えようという目的でひらいた勉強会で、青谷・気高両町の連合婦人会、酒津漁協婦人部などの共催や後援で住民全戸数のちらしを作制し、広く参加を呼びかけました。



平井講師

『鳥取県婦人新聞』
1982年7月18日

私達の住む町にあの恐ろ

原発学習会を終えて

地区会長 岩田 玲子

しい原子力発電所が来ようとは夢にも思っていないで、こんな恐ろしい原発は絶対に反対しなければ、とかわか本当に来るらしいという資料を頂いて、急拠地区婦人会の役員会を開きました。そして例年八月に計画している宝木地区婦人学級を今年各支部での原発学習会に変更し、宝木の小泉さんと私が各支部を訪問する事に決めました。

七月十七日の水尻をはじめとして八支部を訪問し終えたのは盆前の八月八日でした。その間、延百名以上の会員さんや熱心なおとしよりの方々とお会いしました。一日の疲れた体を休みよい町づくりのため、夜八時から十時すぎまで話し合いをし、始めはどんな事かいなという気持ちで来られた人も話し合いが進むうちにこんな恐ろしい原発は絶対に反対しなければ、とかわか本当に来るらしいという資料を頂いて、急拠地区婦人会の役員会を開きました。そして例年八月に計画している宝木地区婦人学級を今年各支部での原発学習会に変更し、宝木の小泉さんと私が各支部を訪問する事に決めました。

特に危ない 妊婦乳幼児

(富吉 吉村芳美)

夕方遅く、田の水あてから帰ると公民館が明るかった。なんだろう??中で人声も聞えた。家に帰ると二男が「お母さん婦人会の人は公民館に寄る様に放送が有ったでー」と言います。何の話だろう??私は夕食も食べず、とんで行きました。

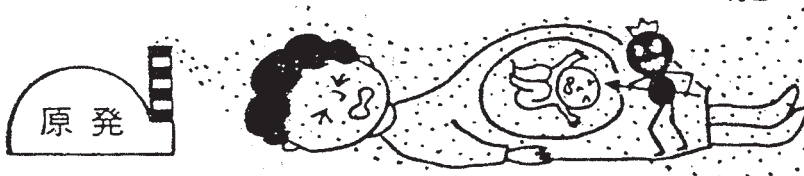
婦人会長さんと、小泉さんの二人が来ておられまして一生懸命に話しておられます。私は座るなり「何の話をしておられるのですか」と支部長さんに小声で聞きますと「これを見て」とコピーしたものを下さいました。

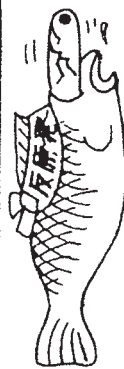
青谷、気高(長尾鼻)に原発計画!!私は初耳でした。これはまさに我が郷土、鳥取の危機です。死の灰のカサの下。大事故の恐れ。私達の町や村を放射能が通る。長尾鼻に山積される死の灰。百万キロワットの原発を一年間運転すると、原爆一千個分の死の灰がたまるそうです。原発で働く労働者の被爆。放射能は人間の細胞を破壊する、妊婦や幼児は特に危険。青谷、気高の娘は嫁にもうな。美しい海水浴場も汚される。以上の様な恐ろしい話を、こまかく話して聞かせて下さりました。

先日の新聞にも出ておりました。「大飯原発の3・4号機増設」福井県、地元は反発。この様に恐ろしい原発計画が綿密にねり上げられ用意周到に実施に移され様としているそうです。この危険な原発計画の、息の根を止めなければなりません。日本の原発なしで十分やっていけるそうです。二時間に渡って色々と聞かれ、話し合、又スライドも見せて頂きました。会長さん、小泉さん、二人の方は大変御苦勞様でしたが、腹のすいたのも忘れ良い勉強させて頂きました。

『宝木地区婦人会報』1981年9月

放射能





われわれの安全誰が保証

怯まず進む気構えを

(宝木 小泉澄子)

のには驚きました。

話し合いに各支部へ出か 危険なものを危険だとい けてみて、皆さんの声に太 うことが、なぜ思想的にお 交勇気づけられました。と かしいのでしょうか。みすみ り分け上光と夏谷の両支部 す自分の、子の、孫の、そ の反響は大きく、「すぐに しても反対運動を」とか「い のちがけで反対しよう」と ヤです」とはっきり言えな か積極的な意見が多く、連 い方がよほど交ではありま 日の疲れがふつと思いが せなか。

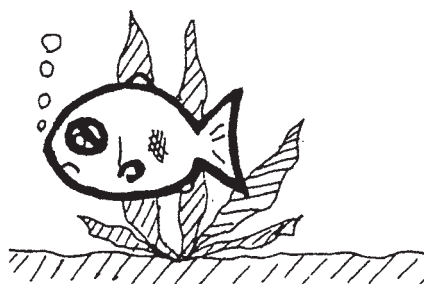
また、地域エゴというの

しかしある支部では、た なら、私達田舎の、僅かな またま話し合いに加わって 電力消費地に原発を押しつ 下さった数少ない男性から け、作った電力だけを持っ 「こういう問題に関わると てにける大消費地区(都市 思想的におかしいと言われ)はもつとエゴです。私達 る」「暮らしの中で電気の恩 恵は受けておきながら、原 ていても万一の場合、誰が 発を自分の所につくるのは 私たちの安全を保証してく 厭だというのは地域エゴ」 れるというのでしょうか。こ ーどんな企業でも公害はつ の地域にガンや乳幼児の死 きもの」などの意見が出た 亡が増えても誰が救って

れるというのでしょうか。 企業に公害はつきものー その通りかもしれません。 しかし原発から出る死の灰 というのは、他の公害とは

ケタ違いの怖さをもってい ます。その中の一つ、ブル トニウムというのは、別名 地獄の王といわれる位、猛 を批判するさまざまな声が 毒なのです。こんなものが 空や海や土を毎日々々汚す ばかりか、濃い死の灰がド ラム管に何本も毎日溜って いくのです。煮ても焼いて も、五十万年から百万年も の永い間毒性のなくなるな い死の灰がたまる一方にな るのです。

こうした危険と向き合っ て暮すのは、私にはまっ びらです。今後も、私たち を批判するさまざまな声が 出てくるかも知れませんが 皆さんと手を取り合ってひ るまず進みましょう。 安心して暮せる青い空、 安心して食物が食えるきれ いな海と土、安心して子供 が育てられる、汚染の少な いこの郷里をまもる力にな りましょう。



あまりにも 知らなさすぎる

(常松 山崎ス子)

私達の身近にせまっている 危機感を、ひしひしと感じ ます。

原子力発電所の事故、故 障は毎日の様に、新聞、テ レビ等で報道されているが その原発が私達地元にも、 建設が予定されているとい う。

勉強会で色々と、原発の おそろしさを聞くにつけ、 なおさら、これは決して、 思った。知らないことは本 当に恐しい。

釣り・海水浴 みんなだめ

(宝木 一 会員)

原発が青谷に予定されて いるのと聞いて、ただ漠然 ですべて汚染されるとなる と困ったものだ、けれど 本当だろうかと半信半疑で いたものです。

学習会において、詳しく 話しを聞いた、スライド を見せてもらうにつけ、一 瞬映画でも見ているような 錯覚を覚えました。

毎年、子供達が楽しみに している海水浴、お父さん の大好きな釣り、楽しみが

奪われるだけでなく、魚貝 類農作物等をして人体にま ずす汚染されるとなる とどうやって生活してい くのか？本当にこんな事が現 実に起こりうるんだらうか 頭の中は不安と恐怖でい っぱい。

子供達の将来のために、 そして私達みんなの生活を 守るために、断古として原 発には反対しなければなら ない。

町民こぞつて

反対運動を！

(夏谷 居川そめ子)

私は婦人新聞を読んで、二六日の、新潟の巻町の住民が反対デモをするニュースに原子力発電所ができるらしいと知らされました。

それ以前に、私は旅行して、教習発電所附近を通ったことがありました。バスと、婦人新聞も会長さんのガイドさんの説明をきいた時、原発とは恐いものだ、と感じたのです。

その後に婦人新聞をよみNHKの特別番組を視て、原発の怖さがますますはつきりしてきました。フラン

かりです。

この夏、私の家を改築しました。電気工事の配線はこちらが注文するのですが、何Wをつける事まで言わなかったのです。電気屋さんにまかせてしまったのです。灯を点けると明る過ぎる位、明るいのです。仕方がなく、これは私が節約を心がけなければ、と思います。

こんな具合に、世の中全体が家庭電力を少しでも多く使うように仕向けながら、原発でも作らなければ全国の電気がまに合わないような形にするのではないかと、忙しい毎日ではありますが、何と知らずうかうか暮

喜んでいては大変！

(奥見沢 一会員)

私達の部落では、七月の最後の土曜日の夜、小泉さん岩田さんのお二人をお迎えして学習会を開きました。お二人をはじめ、参加して

な大切な問題を東部公民館で通り一べん開かれたとしても、なかなか部落のすみずみまでも浸透なかったと思います。御苦労様でした。

この頃よく聞く言葉に、「これからの政治は男性ばかりに任せられない。」私達婦人も政治の動きを目をひらき、す早く情報をキ

「怖い」の一語 積極的に反対を

(夏谷 一会員)

先日、原発のスライドを見せて頂き、人体への影響が何とぞろろい事を、まさまざと知りびっくりしました。原発とは、一言で表現するならば、「こわい」。ただこの、一言です。あの原発で働く人々の実態を見れば

誰もが感じる事だと思

今日の高度成長した世の中人間の頭脳は素晴らしいもので、合理化、機械化、便利化されている反面、また人間の体に、危険な事物も多くある事を忘れてはならないと思います。原発とはまさにそのとおりだと思います。人間にとって、体の健康が最大の望みであり最大の幸福だと思います。その大切な人体に大なる悪影響を及ぼす原発、今こそ皆で考えねばならない大問題ではないでしょうか。

長いものにはまかれろ、時代の流れを放っておいてよいものでしょうか。我々の生活を不安から守るために、原発を作らないように個人個人の問題とし、一致団結して、声を大にして叫びたいと思います。

一人でも多くの人々に、原発のことをよく知ってもらい、手をとり合って、積極的に原発反対に立ち上がりたいたいと思います。





河合中電鳥取支店長に青谷原発反対を申し入れる村上会長ら

気高郡連合婦人会

青谷原発は ゴメンだ！

中電・県に申入れ

九千三百人の反対署名提出

中国電力の青谷・気高（長尾鼻）原子力発電所建設計画は、三年程前から取りざたされてきたが、最近、それがたんなる噂でないことを裏付ける数々の情報により、にわかに現実性がつよまってきた。

気高郡連合婦人会は、二月下旬から青谷・気高原発電計画に反対する署名運動に取り組んできたが、四月二十日、会長村上小枝ら代表八人が中国電力鳥取支店を訪れ、九千二百九十八人の署名簿を提出して、「原発計画を断念」するよう強く申し入れた。

引き続き一行は鳥取県庁へ行き、上京中の平林知事に代って榎谷商工労働部長に会い、署名簿の複写を提出、「中電の原発計画を受けられないよう」陳情した。

『鳥取県婦人新聞』 1982年5月2日

青谷・気高（長尾鼻）原子力発電所設置計画に反対する署名をお願いします！！

私たちの郷土が原発候補地に狙われています！
中国電力は私たち住民が知らない間に、青谷町長尾鼻（青谷・気高町境）に原発設置計画を着々進めています。

原発は郷土の自然を永遠に奪い去り、恐ろしい人体破壊をもたらします。

最近の日刊紙（一月十四日付山陰中央新報・中国新聞）は、いよいよ五十七年度が重要な段階になると報じています。

原発計画は公表されてからでは遅いのです。

「いのちとくらしとふるさとを守る」を、一貫した活動目標に掲げてきた私たち気高郡連合婦人会が、今ここで何もしないのは、子孫に対し大罪を犯すことになるのではないのでしょうか。

皆さん、いまこそ一緒に、長尾鼻原発設置反対運動に立ち上りましょう！！

一九八二年二月

取り扱い団体 気高郡連合婦人会

長尾鼻原発問題 気高郡連合婦会の取 りくみと経緯

（一）

青谷の長尾鼻が原子力発電所の候補地に、日本海新聞に「ショッキングな記事を見たのは、三年前の六月のことでした。

丁度、その三月にスリーマイル島で、世界を震撼させた原発事故が起った直後でした。私たちは、それまで電力会社の人から何べんも聞かされていた、原発には、二重三重に安全装置があつて、事故は絶対起らない。起るとすれば、宇宙から落下する隕石にあつて死者が出る程度、一万七千年に一回の確率に過ぎない（ラスムッセン報告）が、全く神話でしかなかったことを、この事件で学んだのでした。

青谷原発のウワサに対応して54・6・14日、県立博物館で「私たちは原子力発

電と共存できるのか」を、テーマに映画と講演会が開かれ、副会長ら役員を誘い四人で出席しました。

講師京都大学原子炉実験所、小出裕章氏はまず「原発は人類と共存し得ない」と結論を述べてから、原子力発電の本質的な危険性を説明し「いくら優秀な技術者でも、人為ミスは本質的には防止できないし、事故が起きた場合の被害が、あまりにも大き過ぎる。出力百万ワットの原発一基が一日動けば、三万の死の灰―広島島の原爆の五発分―ができその処理方法の解決もついていない。また死の灰と同じ時にできるブルトニウムは耳かき一杯で、百万人を肺ガンで殺せるという地球上で最大の猛毒物質であり、長崎の原爆はこれが原料であつた。平時でも、排気筒や温排水から放射能が出て環境を汚染する」とその恐ろしさを強調。

さらに原子力開発体制の差別構造について「原発の燃料ウランはオーストラリアやナミビアの原住民から奪い取ったものであり、ウラン鉱石の鉱滓は、野づみされ周辺の住民に白血病やガンが多発している。また原発内部の下請け、孫請けひ孫請けの労働体制の差別構造。さらには、私たちが二十年程の繁栄のために、何十万年間も廃棄物の管理を押しつけられる子孫は、いま何んの発言力も持たぬ最も弱い者ではないか」と弱者へしわ寄せする。原発は許せないと訴えた氏の、技術者としてだけでなく、深い倫理観に根ざした講演は、聴く者の胸をうつものでした。

生命とくらしとふるさとを守る、を、一貫した活動目標に掲げてきた気高郡連合婦人会が、この問題を避けて通つたなら、後日後悔をする時が来るかもしれない。

今年の郡大会には、会員全部でこの問題を考えるため、この講師を青谷に迎えて学習会をしようと、仲間と相談しながら帰途についたものでした。



松谷健一郎社長殿

申し入れ書

私たち気高郡連合婦人会は、「青谷町長尾鼻が原発候補地に」のウワサが出た三年前から、原発について学習を重ねてきました。この問題がたんなる噂でないことを立証する数々の情報により、青谷・気高原発計画が事実であることを確信し、つぎの理由で青谷・気高原発設置反対運動に立ち上る決意をしました。

- ① 原発の事故は想像を絶する大事故につながる危険性をはらんでいる。
- ② 原発から環境にもれる放射性物質による環境および人体破壊の問題。
- ③ 原発労働者の被ばくの問題。
- ④ 放射性廃棄物（死の灰）の処理方法が解明されていない。
- ⑤ 原発は遺伝障害や何十万、何千万年間の死の灰の管理など子孫に恐ろしいツケを遺す。

以上は日本をふくめ世界中で起っている幾多の事例で証明されています。私たちの郷土に計りしれぬ災いをもたらすおそれのある青谷・気高原発の設置を断念していただくよう署名をそえて申し入れます。

一九八二年四月二〇日

鳥取県気高郡連合婦人会

取り組みと経緯

(2)

役員会で協議を重ねた結果、昭和54年十一月、青谷町中央公民館に、小出氏を迎えて開いた郡大会は「私たちは次代に何を遺すべきか」をテーマにし、「私たちはきれいな農水産物がとれるゆたかな自然を子孫に遺そう。自分たちの繁栄のために、地球上の資源やエネルギーを使い切って、何十万年も毒性の消えない原発廃棄物や、荒廃した環境をのこしてはならないのだ」と申し合わせました。

題の輪を広げるため、小出氏の講演要旨を婦人新聞に掲載するなど、学習・広報活動を続けながら、心の底では、どうかこれが、たんなる噂であってほしい、と願いつづけてきたのでした。しかし、不幸なことにこの不気味なうわさは、昨年初め再び輪郭を鮮明にして浮揚してきたのです。それまで、長尾鼻原発計画の最大のネックといわれていた、そのそばを走る国道九号線を、山際につけるバイパス工事が急速に具休化してきました。

一方中電側は、原発の受け皿三点セット、といわれる工事を着々進めている。五〇万ボルトの送電線、二〇〇万瓩の巨大な容量の日野変電所、一二〇万瓩の俣野川揚水発電所の三つの工事が、昭和六十年完成の計画で建設中である。

▼すでに長尾鼻の地形、地質は調査済みである。等々、私共住民の心も凍るような情報の数々でした。高知県では、窪川町長リコールが成立した頃でした。三月末の郡連婦代議員総会では、青谷原発の問題に議論が集中、空を海を土を汚してはならないのだ、と皆で確認し合いました。五十六年度、郡連婦は積極的に啓発活動を進めました。

・学習会 京都大学小出裕章氏（5月）郡連婦主催
立教大学服部学氏（5月）
大阪大学久米三四郎氏（11月）他団体と共催

・原発関係書の共同購入
・パネル展示
・スライド上映と懇談会
・郡連婦役員による原発問題座談会記録、窪川町反原発運動の坂本三郎氏の講演会記録を婦人新聞に掲載した、原発特集、を、郡内全会員に配布する等々。





青谷の海岸から長尾鼻を望む

取り組みと経緯

(3)

その間、県議会における平林知事の答弁は「原発の県内立地については、要請あれば積極的に取り入れるべきだ」(56・7・3読売)。

「原発は必要(10・1毎日、山陰中央)」と県内誘致に積極的を受けとれる県の姿勢がうかがえる上、今年に入って一月十四日付、山陰中央、中国新聞が掲載した、中電山根会長の発言「57年度中に新規立地のメドをたてたい、その候補地としては、人口が少く、心理的に住民に受け入れられ易いという条件で、日本海側に選ばれるを得ない」まさに郷土の危機、青谷原発は、現実性を帯びて重くのしかかってくるのです。

二月十四日、郡連婦役員研修会の全体討議で、青谷原発をめぐる問題が提起され、署名運動を、の動議が満場一致で成立しました。いま、一刻の猶予もゆる

せぬ段階に当面し、私たちは、長尾鼻に原発はごめんだ、という強い住民の意志を表明するために、署名運動に立ち上ったのです。

私たちは、運動中、原発はいらん、と異口同音に言いながら、進んで署名して下さった住民の人びとの強い郷土愛と連帯意識をじかに感じながら、この運動に対する厚い支持と理解、協力にはげまされ、四月二十日まで、九二九八人の署名を集めることができました。

私達が当日中電鳥取支店長と会談したところでは、中電側は、青谷原発計画はない、と終始否定をし続ける姿勢でした。

もとより、原発立地計画は、公表されるまでは陰謀裡にことが運ばれて、推進側にとって極秘中の極秘なのですから、われわれ一介の主婦がかけ合ったところで真相の片鱗もつかみ得ぬであろうことは、兼ねてから予想していたことでした。原発計画は、一たん公表されてしまっただけでは、いくら反対しても、もはや

手遅れなのだということがかの公開ヒアリングなるものが、反対住民をしめだしで行うセミナーに過ぎないこと、全国各地で訴訟に持ち込まれている裁判の経過等の例がはっきり示すところでありました。

私たちは今回の中電側の言い分にまどわされて、警戒をゆるめることがあってはならないのは言うまでもありません。

青谷・気高(長尾鼻)原子力発電所設置反対運動は緒についたばかりであり、今後何年も続くであろう運動を、私たち住民一人ひとりが、しっかり肚を据え心を合わせてがんばっていきたいと思います。

(村上)



以上、『鳥取県婦人新聞』1982年5月2日

「原発」はいりません！ 住民こそって署名協力

反原発に火と燃えた

家族ぐるみ署名も

あれはいつ頃の事だったでしょうか。何ということなく買って帰った岩波新書の「原子力発電」を読んでその危険性のあまりの大きさに驚いたのは、

しかしその頃はまた、私たちの郷土が原発に狙われるようななどは、ましてこの様に反対のための署名運動にはん走しようなどとは、夢想だになかったことでした。

それが一昨年あたりから建設予定地として、青谷長尾鼻という具体的な地名がしばしば耳に入るようになり、私たちの危機感は一日に二日のつり続けました。学習会も何回かひらき、学習会に集まらなかった人たちのためには、二、三人が組になって毎晩のようにスライドを持ってあちこちの部落へ出かけ、子孫のためにも原発を絶対につくらせない運動をとよびかけたり話

し合ったりしました。さすがにこの時は相当疲れましたが、いま何かしなければという火のような思いで頑張り続けました。

そして今年の二月、気高郡の婦人会が役員研修会をひらいた時、遂に会員のひとりから「署名運動を」という積極的な意見が出て、にわかに運動が燃え上りました。障害はいろいろあるかも知れないけれど、とにかくやれる事は何でもやるんだという思いが私たちの心を固めさせました。

署名用紙の届くのを待ちうけて隣近所は言うに及ばず、思いつく限りの場所へ一軒一軒の家へ、しらみ潰しに足をこびました。一人でも多く、一人でも多くと思いはただそれだけです。「あっ、その事はきいています。原発なんか絶対に来てもらっては困ります」と言いながら、家族みんな

で署名に応じて下さる家が多くあります。しばらく考えている人でも、持参した資料を広げて「暴走事故なんかの場合、このあたりは全員即死の範囲に入るのですよ」と説明すると「そんな危険があるとは知らなかった」と驚きながら書いて下さる人もたくさんありました。

中には男の人で「原発ができたからそこで働けると思っているのに」という人もあって、私は原発の下請け労働者の被曝の状況やその怖さについて時間をかけて説明しました。聞か消される原発被曝者や、原発ジブシーで読んだ内容も心をこめて話しました。「島根を見学した時は原発ってリモコン操作の様な仕事かほとんどに思えたのにそれですか。そんな事でいいか」その人も家族中の署名をしてくれました。

私たちだけでは範囲は限られていたので、日頃からこの問題について話し合っている人にも協力をたのみました。大抵は「手伝える事は何でもする」ととびつく様に応えてくれました。

みんな、事の重大さを肌で感じていたようでした。そして必ず「用紙が足りない」と追加を言ってきました。ある人の如きは最初届けた二十枚は「あっという間に終わった」と言い、更に自分のツテを辿って方々の部落へ頼んだから、と二百五十枚もの追加を申し立てきて、こちらが大あわてする一幕もありました。

署名期間中、国はいよいよ放射性廃棄物の処理に困ったとみえて科技庁が、低レベルの廃棄物は家庭のゴミなみに埋め立てや焼却処理ができるよう、法改正を考えているという事が新聞に出ました。何と恐ろし

いことを！原発が出来ればこの先どんな事ははじまるか解ったものではありません。

この原稿を書いている日にも、あのスリーマイルの二号炉がまたまた冷却水流出事故をおこして、異常事態宣言が出されたニュースが報ぜられました。まさにそれは、今日はひとの身、明日はわが身、と身の毛がよだつ気がするのです。

(永尾華子)



激励で成果予想以上

安全処理できぬ代物

青谷、気高に原発設置のうわさが流れて久しいが、私たち婦人会は何回も原発の安全性について勉強してきた。その結果、推進する側は、石油に代るエネルギーだとか、原発はきれいで安全だとか、石油は三十年もすればなくなるとか言うが、石油埋蔵量三十年云々は二十数年も前から言われていることであり、電力はオイルショック以来のびなやんでいるという。勉強すればするほど原発の恐ろしさがわかってきた。

事故がなくても、目にみえなくても、危険さわまりない放射能を、私たちの頭上や、この美しい海や田畑にまき散らす。

また、ウランを燃やした後に残る物質は、何万年たってても害は消滅しないし、いまの科学ではどうにも安全に処理できる代物ではないという。

この様に危険この上ない原発を設置して、私たちや孫子の末まで、安心して住むことのできない郷土にすることは、何が何でも絶対にしてはならないと、郡の役員研修会で署名運動をすることが決議された。

すぐ署名用紙が届けられた。小さい部落に対し、割に多い枚数であり、関係のない人、何も知らない人も多い中で、これだけの署名が集まるだろうかと不安もあったが、幾度か夜、家々をまわって原発の恐ろしさを説明し、部落みんなの署名をもらったし、婦人会のな

い他の町村の人々にも説明して、署名ばかりか「しっかりやってよ」とはげまされた時は、大そう力強くうれしかった。

はじめ案じたより沢山の署名が集まり、用紙がまだ

まだ足りない感じがした。昨年は各部落で、夜、勉強会をして原発のおそろしさを皆で話し合ったこと、今まで聞いてきたことを、少しづつでも口コミで話していたこと等で、署名運動は予想以上のより上りであった。

反核の運動もいま、野火の如く全国的に広がっている。反核の決議をする市町村もぼつぼつ増えている現在、反核も原発も、同じ視点で、危険なことは危険だとはっきり言えて行動できる社会にしなければならぬし、その世論をつくりたいく主役は私たちである

青谷町が原発予定地にとの話を聞いて以来、私達は色々と先生方のお話も聞き研究も進めてきました。それは今迄以上に原発の恐ろしさと不安を身にしみて感じることばかりでした。

今年二月の婦人会の研修会では会員の中から、原発候補地である事をやめて頂くよう署名を、との声があり、郡婦人会として決議し実行に移りました。

さて、かかってみると中々大変でした。昼間は殆ど留守で少し私達も出掛けることも多いので、夜な夜な署名簿を持って歩き回るのですが折も折、知事選の最中のことです。

「今日の政見放送で、平林知事さんは原発について

の項で、そんな話は聞いていない。といっておられたから、一部の人達が騒いでいるだけだ。そんな事に婦人会が踊らされてどうなるのか。デマを流して何も知らない人達を巻きこまないでほしい」等ときついお叱りを受けたこともありまして、またある支部長さんからは「今日の知事さんの放送で署名をして貰うことが困難だし、家の主人も歩くのを厭がりますので用紙を返します」等と情ない電話もかかってきました。丁度テレビに写っていた、いつも何事もなげにおだやかなその顔を恨めしく眺めた事でした。

でも心から賛成して下さり、喜んで迎えて下さった人達も沢山ありました。応援しますからがんばって、の声に励まされて、また毎日夜歩きをしています。

女のくせそんな事を、とか婦人会がそんな片寄ったことをするから会員が減るとか、皆が婦人会を支持しないのだとかいう人もあります。危い事を嫌い、悪いことを悪いといって平和な日々を願うことが片寄ったというもののなのでしょう。女だからこそ、愛する子供達や次の世の人々の平和を願い、美しいこの土地と安全な環境を残したいと思うのではないでしょう。婦人会だからこそ、すべての人達の安全なくらしを守りたいと願うのではないでしょう。右も左も、何色も私達には関係ないのです。命とくらしを守る婦人会の合言葉のもとに、おそいからろうとする危険や、押し寄せてくる荒波を喰い止めたいと一心なのです。

美しいふる里の自然と、愛する私達の家庭の平和を守りつづける、ほんの一握りのささやかな願い。明るい希望と、たゆみない努力をもって大きく輪を広げてゆきたいと思っています。

(H・Y)

(F・N)

命と暮らしは女の願い

こわさ知らぬ人もいた

真実求める目もとう

かねがね私も気になって
いた所でしたから郡の連合
婦人会が原発反対の署名運
動を始められたと聞いた時
これは私も一つお役に立た
なければ、と思いました。
一番の地元が誰も力を入れ
ずにいる事は許されない事
だと思っただけでした。
各部落に入って見て感じ
た事が二つありました。第
一は意外に原発のこわさを
知らない人達が多かったと
いう事でした。純農村でも
旅館街でもそういう人達に
何人か出会いました。最も
驚いたのは、町に大きい金
がおりるさあながな、とい
ったり、ぬくい水が湧き出
る、など電力会社が聞い
たら喜んで涙を流しそうな
科白を吐いた人がいた事で
した。年とった人だから知
らない、若い人だから知っ
ている、という事ではなか

ったのです。その人個人の
本當の事を見分けようとい
う心の持ち方だと思いまし
た。それにくわしい事を知
らない人がいても仕方な
い所もあります。県や町が
原発のこわさを知らせる機
会を持とうとしない事です
本當の事を知られたら困る
と思っただけの事も知れま
せん。

第二は、国や県がする事
なら悪い事ではない、と思
っている人がいた事でした
それに、大会社のする事や
公けのする事には何の疑問
も持たず、何でも彼でも反
対するのは、ブカ、と同じ
だ、という空気がありまし
た。これは全く無知がさせ
る事だと思いましたが、知
らないという事程こわいもの
はない、と今度程つくづく
感じた事はあります。い
え知ろうとする気持ちを持
たない人達という替えた方
間のする事なのです。人間

のする事にはあやまちはつ
いて廻るのです。これまでの
各地の原発の事故がいい
例でした。
賛成した人達の上だけに
放射能が降って来るならい
いのです。しかし子や孫の
為にも金輪際こんなおそろ
しい物はご免だといひ続け
る人の上にも平等に降って
来ますし、死の海になりま
す。先々週にもどなたかが
書いておられました。私が
全く同感でした。お金で私
達の命は売られてはたまり
ません。誰にもそんな権利
は無い筈です。
青谷町と気高町の境に京
阪神の産業廃棄物を埋めた
谷があります。そこへ降っ
た雨水が海に流れ出してわ
かめや貝が枯れたりしてい
ると聞きました。これもそ
んな事の為にその土地を売
った県を地元の者は非常に
腹を立てております。もう
あとの祭りです。原発はこ
れどころでは無いのです。
永久に人の住めない所にし
てしまふ。どこまで地球を
よこせば気が済むのでしょ
う。神様の大きなおいか
り。を畏れるものです。(K・M)

以上、『鳥取県婦人新聞』1982年4月4日



夏泊から青谷方面を望む

つくろう！！

厚い世論の力

中国電力が、気高郡の青谷町と気高町にまたがる長尾鼻岬に、原子力発電所立地を計画していることが表面化してから、四年以上経過しました。

この間、中電は長尾鼻への原発立地に向けた住民工作を、水面下で着々と進めてきています。

島根原発見学に、住民を招待したり、電力懇談会、対話週間などに名を借りた県内の各界代表者への接近小・中・高校の生徒や先生への、訓読本、や、教師用教材、の無償配布、地元新聞やテレビを利用した活版原発PRなど、数え上げればキリがありません。

盛り上がる住民運動

こうした中電の動きに對抗して、いのちとくらし

とふるさとを守る、を一貫した活動目標に掲げてきた「気高郡連合婦人会」は、

いち早く昭和54年11月、郡婦人大会で講演会を開催し京都大学原子炉実験所、小出裕章氏から、原子力は人類と共存し得ない、ことを学んだのでした。

一部の人たちの、デマにウワサに過ぎぬ、というもみ消し工作とはウラハラに二年後の昭和56年、県議会でのヤリトリ、中電幹部の言動など、問題は再浮上してきました。

気高郡連合では、この年五月に主催した学習会に再び小出氏を迎え、十一月には他団体と共催して大阪大学久米三四郎氏を迎える学習会、スライドを担いで支部や組織のない地区で小集会をもつ等、必死で啓発活動に取り組みました。

そして、昭和56年度中には、新しい立地点を、という中電幹部の言明に照準をあわせて、「青谷・気高原発設置計画に反対する署名運動」を、昨年二月から四月にかけて展開したのでした。

原発は要らん、私たちの運動は、地元住民の熱い支持と共感に支えられ、協力を申し出る人達も続出し短期間に集った署名は、九、二九八人。私たち郡連合代表八人は、四月二十、中電と県庁に署名簿を提出し郷土に原発を設置しないよう陳情したのでした。

同じ時期、青谷町に「青谷原発設置反対の会」(57年三月)が発足。また、それより早く、鳥取に「反原発市民交流会・鳥取」が、倉吉に「反原発市民交流会・倉吉」が、昨年七月には

米子に「鳥取県西部原発反対の会」が結成される等、県下に市民運動が盛り上がっています。

そうした市民団体の連携により、四月二十八日には長尾鼻原発計画に反対する県内各界の「共同アピール」が発表されるなど、「原発はお断りだ」という反原発の世論が、県内に浸透しつつあります。

次期原発をめぐる情勢

こうした県内住民運動の盛り上がりで、中電側は今すぐ長尾鼻の計画を進めることは、ちょっと難しい状況になってきました。

最近の新聞報道などによると、中電の次期原発候補地として、山口県上関(かみのせき)町や、萩市の名が上っており、特に上関町が有力候補地として、今春にも中電の立地決定、公表の段取りになるのでは、との観測も流れています。

もし、今回長尾鼻への原発立地が回避されたとした

ら、それは地元を中心とした県内の住民運動による、先制攻撃の成果、と判断してよいでしょう。

しかし、私たちはこれで安心してはならないのです。かりに今回、上関町が次期原発の候補地に指名されたとしても、中電の長尾鼻原発計画が消えることにはならず、二番バッテリーがとりあえず三番以下に回されるだけのことです。

何れにせよ、長尾鼻は中電の原発立地計画の青写真に入っており、深く静かに潜航した水面下の住民工作が相変わらず続けられているからです。

昨春秋、鳥取市での電力懇談会で中電副社長が「鳥取県にも原発をつくりたい」と明言したように、中電は長尾鼻に原発を建設する大方針を崩していません。

「原発お断り」世論の壁を

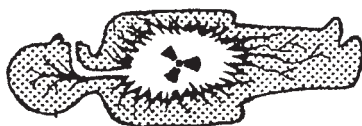
私たちは、今後長期にわたって、地元をはじめ全県下で、原発反対の運動を

息長く続け、中電に原発立地のスキを与えない態勢を強固につくり上げていかねばなりません。

原発は、立地決定までが「勝負」なのです。カネやモノに目がくらんで、われわれの郷土を原発に売り渡すようなことが絶対にないよう、全県下に「原発はお断り」の世論で厚い防波堤を張りめぐらすうではありませんか！

(名賀 華)

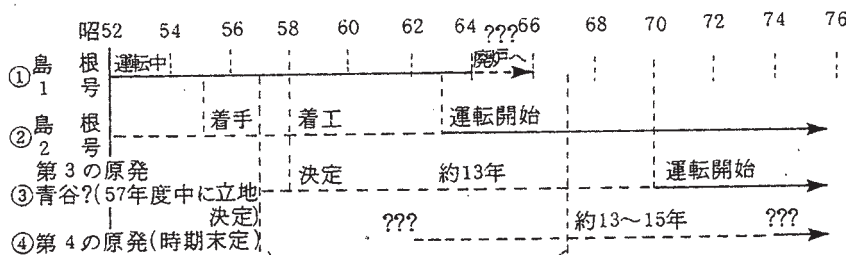
『鳥取県婦人新聞』1982年4月10日



中電の煙幕

十年間は……にゴマ化されまい

中国電力の原発計画



「10年間は長尾鼻に原発はありません」

「長尾鼻に原発はゴメンだ」住民の強い訴えを集めて、気高郡連合婦人会が「青谷・気高(長尾鼻)原発設置計画に反対」する九二九八八分の署名簿を、県と中国電力に提出し、設置計画を断念するよう申し入れをしたことは、本紙五月二日号一、三面に掲載したとおりである。

当日は、中電鳥取支店に赴く私たちを、十数人の報道陣のカメラが待ちかまえていて、面くらったのであるが、このことは、長尾鼻原発問題が、如何にこの地方の社会の重要関心事であるかを示すものであろう。

マスコミが中電のお先棒を

ところが、当日のテレビや翌日の新聞がそろってこれを報道し、「中電側は、長尾鼻に原発建設計画はない」と否定し、中には「十年間の施設整備計画にもない」とも述べている。中電への申し入れ、県への陳情は、それら取材陣が所狭しと詰めかける中での会談であった。前回でも述べたように、私たちが、長尾鼻原発立地計画の有無をそのまま、まことしやかに

に掲載した。これでは、読者は「十年間はないと言っているのに、何で騒ぐのか」とこの問題から意識をそらせることになる。結果的に中電側の陽動作戦のお先棒を、マスコミがつかうことになった。

十年間……の真相

青谷・気高原発計画の有無について、中電側の答えは、今のところ長尾鼻に計画はありません。今後十年間は、絶対原発は作りません。とくり返す。

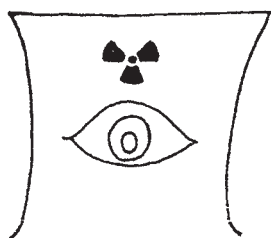
しかし、私たちはこうして発言を真実に信用して、安心して油断してしまっただけで、大へんなことになる。①、今のところ、というが、今、とは、あくまでもその時であり、一週間先、一ヶ月先、は、今、ではないのである。

②、十年間は長尾鼻に原発計画はありません。の真相について解説すると、原発は、①立地決定②着手(着手は運転開始)の手順で、建設・運転の運びとなる。

その間、①の立地決定から④の運転開始まで、順調にいった十三・十五年はかかる。つまり、原子力発電所は、立地決定から電力をつくるまでには非常に長い期間かかるのである。

当日、中電鳥取支店長の「十年間長尾鼻に原発計画なし」という発言は、例えば、ことし中に長尾鼻に立地決定されたとしても、原発が稼働するのは十年以上も先のことになるわけである。しかし、マスコミを通じて、十年間長尾鼻に原発計画なしと報道されると

読者はあたかも、十年の間に、立地の計画や決定もない、と誤解し、安心してしまふ。これは、そういう誤解を故意に与え、県民を油断させるために、計算されたデマ宣伝の一種であると考えられる。



『鳥取県婦人新聞』1982年6月6日



豊北町では、 反原発町長再選

私たちが行動した日から五日後の四月二十五日、中国電力の原子力発電所建設予定地になっている、山口

県豊北町の町長選で、反原発であることを、立証する発の町長が再選された。「ものであろう。」

豊北原発」が当日の目を見れなくなった現段階で、中電は、青谷、をあきらめるところか、豊北町の代りは地元民ばかり、になりに浮上してくることは、時間の問題だといわれている。

現に、野草社（出版社・東京）がこのたび初めて「日本列島の原発立地点」として「青谷」を掲載したことは、青谷・気高原発が、決してたんなる噂ではなく、中央でも注目されている間

豊北町では、反原発であることを、立証する発の町長が再選された。「ものであろう。」

豊北原発」が当日の目を見れなくなった現段階で、中電は、青谷、をあきらめるところか、豊北町の代りは地元民ばかり、になりに浮上してくることは、時間の問題だといわれている。

現に、野草社（出版社・東京）がこのたび初めて「日本列島の原発立地点」として「青谷」を掲載したことは、青谷・気高原発が、決してたんなる噂ではなく、中央でも注目されている間

山口県豊北町長選で敗れた中国電力、山口支店長の談に「豊北では受け入れ体制ができていないのに、出で行って失敗した。この教

一層の監視と警戒を：

計画が公表されたときには、すでに手遅れであるという全国各地の例を無にせぬよう、私たちの郷土に原発を寄せつけないために、長期にわたって監視と警戒

んに行なわれているという事実④一昨年（55年）六月、県議会以来、県知事の答弁は原発必要論、原発推進論をくり返している事実などから、中電の候補地であることは疑う余地がない。

訓を生かし、次は失敗できない」と、日本海新聞（4・27）に出ている。

今後、電力会社の工作は一段と巧妙に深く、私たちの眼の届かないところで進められることだろう。

（写真上） 船磯の海岸で遊ぶ子供たち

（写真下） 長尾鼻の境界に立てられた標識

青谷原発

反対の会結成

学習会など運動強化へ

地元で大会



「原発・反対」に立ち上がった青谷原発設置反対の会結成大会

「長尾島に原発はコメンだ」。中国電力の原子力発電所建設計画のうわさに揺れる青谷町で二十日夜、青谷原発設置反対の会（の結成大会が開かれた。会場には気高郡三町をはじめ島根や倉吉市などから約百三十人が出席。原発反対団体の代表者らが「原発の危険性」を強調するなか、出席者たちは真

剣な表情で講演に聞き入っていた。この日午後七時半から開かれた結成大会では規約を設けたあと、▽原発学習会を「週間に一回の割合で開く▽当面はスライド、原発一ねらわれ長尾島」の上級を中心に、各地区ごとで学習会活動を展開▽原子力発電について正

しい知識と情報を、チラシ、パンフレットなどを制作することで町民に広くPRしていくなどの具体的な活動を決めた。このあと、反原発市民交流会・島根の長谷川修代表や、このほど「反原発」四千人の署名をまとめた村上小枝気高郡連合婦人会長らが、原発の怖さを次々と紹介。「青谷原発設置に一致団結して反対しよう」と呼びかけた。出席者たちからは「もっと幅広い情報交換を積極的に行いたい」「な、厳しい指摘が出された。ある主婦は「国の内外でいろんな原発事故のニュースを見るたびに、不安が募る。先祖から受け継いだ、財産をきいりなまでに残したいもの。便利だけでは済まされな問題だ」と意気盛んに話していた。

青谷原発構想は五十四年六月、「原発の公害を考へる会」によって明らかにされ、当時、中電や青谷町関係者は否定したものの、中

電の机上計画にあるらしい」といいうわさが流れ続けた。この長尾島に自羽の矢が立ったのは、冷却用に大量の海水が必要で地盤に対する心配が少ないという原発の立地条件が、県内では日本海に突き出し安山岩の海岩台地である長尾島に一致するため。その後、県総務（選挙管理）が中電に公開質問状を送ったほか、青谷原発について県内三地区に「反原発市民交流会」ができ、ビラの配布や署名の運動が活発に行われている。中電の山根寛作会長が「五十七年度中に新規立地の目途を立てたい」と発言、候補として「数地点で折衝している」ことを明らかにしている。地元住民はこの発言を重視し、とくに同会長が「人口が少なく、心理的に住民が受け入れやすいという条件で、日本側側を過半数を得まい」と言っていることに対し危

一方、ことし三月の気高町議会で青谷竹雄町長が青谷原発設置に反対の意向を表明、地元・青谷町の山根健町長も反対の意向を表明しており、町議会、青谷原発設置反対の会を含めた今後の動向が注目される。なお、この日決まった同会の役員は次の通り。

- 【代表】吉田通（婦科医）【代表代行】大谷義夫（島大名誉教授）
- 石田勝也（医師）【幹事】中原昭則（薬剤師）高橋哲巳（青谷いそづり組合長）石井正（前青谷郵便局長）池田的子（青谷地区婦人会長）小谷正美（青谷町連合青年団長）【事務局長】石井克

『日本海新聞』1982年3月22日



原発が来れば磯釣りもできなくなる（夏泊で）

長尾鼻原発計画

青谷町議会も反対決議

知事、国に意見書送る

「長尾鼻に原発はダメだ」。このほど開かれた気高郡青谷町議会は、全員一致で青谷原発反対意見書を決議、青田寮議長が二十七日に西尾副知事を通じて平林知事に手渡し、三十日には総理大臣、通産大臣、科技庁長官など国の主要機関に郵送した。

青谷原発に関する意見書はまず「原発建設が国の発展につながる重要課題として取り組まれていることは認識している」と断ったうえで、長尾鼻原発のいわく「町民の不安が日増しに高まっている」「ことをあげている。次いで昨年同議会が行った長尾鼻の方向に関する決議にもあらずに「町民の強い場として開発するものが町産業発展につながる最善の施策である」と再確認し、最後に「かかる事情を十分に考慮し、長尾鼻への原発建設計画を推進しないよう強く要望する」という内容だ。

この意見書は来る二十四日の町議会に山田始、滝茂穂、関安富雄、見生康徳の四議員が提出。三月定例議会冒頭に山根健町

長も施設方針として「現段階における一つの光として原子力を認識するが、青谷への立地は歴史的にも極端的にも町民にとって安全であるという確証のない現在、全く考慮する余地はない」と述べている。

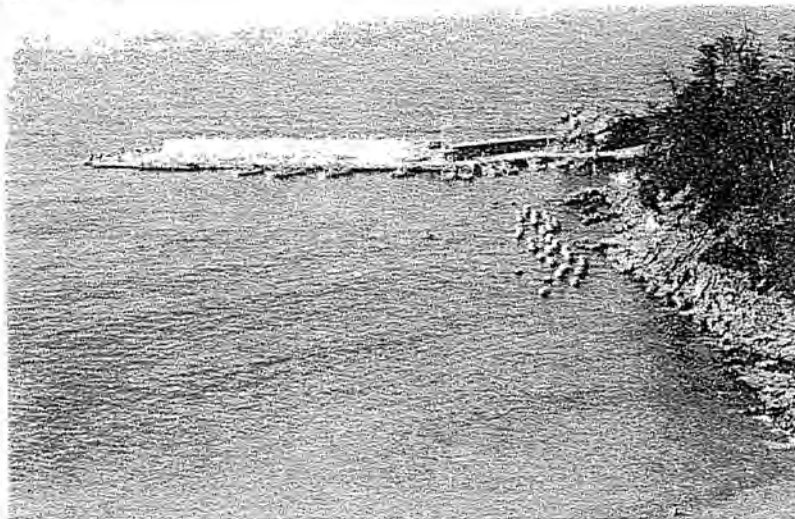
長尾鼻一帯は、風光明媚で、磯（いそ）釣り場としても有名であり、同町は、中規模観光レクリエーション基地の建設を目指し、昨年日本観光開発財団（本社・東京）に四百万円を拠出を依頼した。同町は、同財団を依頼し、同町に四百万円を拠出を依頼した。同町は、同財団を依頼し、同町に四百万円を拠出を依頼した。

日に、住民百三十人が集まり、青谷原発建設反対の会（青田通代表）が結成されたほか、気高郡連（婦人会・村上小枝会長）も原発建設に反対する署名運動を展開中で、最終的には気高郡内から八千人の署名を集めることになっている。

住民運動の盛り上がり、町議会の決議など、長尾鼻原発をめぐる動きは、一層熾々たるようになってきた。青田寮議長は「町としては現在、長尾鼻にレクリエーション施設を計画している。同計画の署名はもはや出来ていないとして原発建設に反対の意向を表明している。

『日本海新聞』1982年3月30日

夏 泊 港



遺伝障害など日常的な危険の代償として、協力金・補助金などの名目で、多額の金銭がばらまかれますが、「親にはカネ、子孫には放射能」といわれているように、危険性だけは次の世代に引きつがれていくのです。

私たちは、私たちの世代のみならず子や孫の世代、さらに続く悠久の世代にまで深い傷あとを残してよいのでしょうか。全国でも有数の美しい自然と住みよい環境を持つ、私たちのふるさと鳥取県を危険な原発の「死の灰」で汚してよいのでしょうか。

私たちは、中国電力の青谷・気高原発建設計画をとうてい認めることができません。青谷・気高への新規立地に反対することをごに表明します。

一九八二年四月二八日

共同アピール署名人名

青谷 秀 郎 (米子市/米子高等学校教員)
青山 征 洋 (鳥取市/元鳥取市会議員)
赤木 三 郎 (鳥取市/鳥取大学教員)
森 近 勉 (大東町/新鳥取高等学校教員)
足 藤 寛 (米子市/無職)
芦 谷 みすず (川部町/鳥取本の会会長)
足 羽 精 (西伯町/無職)
足 立 節 雄 (米子市/教育研究家)
足 立 光 正 (鳥取市/鳥取県教育委員)
有 田 みち子 (鳥取市/元鳥取大学教員)
安 藤 隆 (川本町/西伯町教育委員)
生 田 正 嗣 (日野町/日野町立高等学校教員)
池 沢 源 一 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
池 田 清 子 (鳥取市/鳥取地区婦人会会長)
池 田 徳 (鳥取市/前町十三会会長)
石 井 正 (鳥取市/前町十三会会長)
石 井 秀 (鳥取市/鳥取中央病院医師)
石 賀 徳 (鳥取市/鳥取市農業委員)
石 田 勝 也 (日野町/医師)

石 田 繁 幸 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
石 田 正 義 (鳥取市/鳥取女子短期大学教員)
石 田 弥 夫 (鳥取市/鳥取大学教員)
石 田 勲 次 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
石 田 茂 (米子市/無職)
石 田 誠 一 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
井 岡 とよ子 (鳥取市/前鳥取市連合婦人会)
井 谷 周 一 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
伊 谷 ます子 (鳥取市/教員)
市 川 長 一 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
市 川 修 (米子市/鳥取大学教員)
一 橋 義 則 (米子市/米子東高等学校教員)
伊 東 理 (鳥取市/鳥取大学教員)
伊 藤 武 彦 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
井 上 英 徳 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
今 石 元 久 (鳥取市/鳥取大学教員)
井 元 敏 明 (米子市/鳥取大学教員)
入 江 浩 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
岩 田 武 彦 (米子市/鳥取県立鳥取地区庁)
岩 田 博 (鳥取市/鳥取大学教員)
岩 見 久 子 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)
上 田 源 雄 (鳥取市/鳥取大学教員)
植 田 丞 (鳥取市/鳥取県立鳥取地区庁)



中国電力に共同アピールを提供

中国電力の青谷・気高原子力発電所 建設計画に反対する共同アピール

すでに昨年三月、一部のマスコミで報道された、中国電力の青谷・気高原発電建設計画の公表が現実のものになるおそれ強まっています。

スリーマイル島原発の重大事故につづいて、日本原電敦賀発電所の一連の事故隠して一時停滞をしていた原発増設の動きが、最近急に活発になってきています。

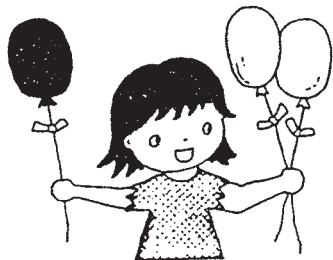
中国電力もこの例外ではなく、今年一月の年頭記者会見で、会長自ら「原子力発電には特に力を入れ、島根2号炉はもちろん、新規立地についても出来れば年内にメドをつけたい」「今は一基でも二基でも早く作るのが先決。立地条件よりは、人口が少なく、心理的に住民に受け入れられやすいという条件で日本海側しかない」となどと発言しています。また、広島県で行なわれた「電力懇談会」で中国電力の幹部は、「長尾鼻も候補地の一つ」と明言しています。私たちは、この原子力発電所建設計画について、またこの計画を推進する電力会社に対し、多くの疑問と大きな危険を感じざるを得ません。

スリーマイル島のような、あるいはそれ以上の重大事故が再び起らない保証はあるのでしょうか。また、原発からは通常運転中でも放射能が大気や海水に吐き出されていることは、電力会社もまた認めるところです。近年、多くの人によって、原子力発電が、石油の代替にならず経済的に割りのあわないものであることが明らかにされてきています。燃料となるウラン資源も、二〇年後には枯渇するともいわれています。

わが鳥取県は、農業や水産業が産業の大きな位置を占めています。原発と農業・水産業は両立しません。原発から吐き出される放射能は農産物に大きな影響を与えます。過去、原発事故で広い範囲において牛乳が汚染され、大量に廃棄された例もあり、米・野菜・果樹などに放射能が蓄積されるおそれがあります。水産業においても原発から吐き出される温排水で、沿岸の魚介類が汚染され、放射能が周辺海域の生物に蓄積するなどの危険もあります。

また、海岸線は一部国立公園に指定されているように美しい景観をもっています。巨大で不気味な原発施設は、この景観を台なしにするなど、観光への影響も見がせません。観光客は敏感に汚染地を避けるからです。さらに何よりも周辺住民の健康を日常的におびやかすことが重大です。住民は絶えず事故と放射能の危険にさらされ、十五年の寿命といわれる原発が大量の放射能を内部に残したまま廃炉となり、周辺地域が荒廃してゆくのは明らかです。

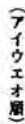
廃炉を処分する技術のメドも立たず、放射性廃棄物にいたっては捨て場に困り、高レベルのものはアメリカの政府機関の報告でも最低一〇〇〇年間管理しつづける必要があるといわれております。放射能のなかには猛毒のプルトニウムのように半減期が二万四千年の長さに及ぶものもあります。周辺地域には急性障害、晩発性障害（ガン、白血病など）、



324 資料1 原発のないふるさとを

横山 隆雄	前伯町 / 由良育英高等學校教員
横山 寿男	鳥取市 / 鳥取県保護青少年協議会事務局長
横山 充	青谷町 / 大木教育会会長
芳尾 力	久美町 / 船越他協理
吉谷 昭彦	鳥取市 / 鳥取大学教員
吉田 甲	鳥取市 / 全林野大板地方鳥取交流
吉田 達	青谷町 / 樹井庄
吉田 達男	岩美町 / 瀬道反古鳥取県共闘連青谷町支部長
吉田 通	青谷町 / 園村庄
吉田 肇	青谷町 / 青谷町連任連長
吉田 真実	智頭町 / 元青谷町商工組合長
米原 徳太郎	鳥取市 / 鳥取市鳥取市連任連任
萬屋 秀雄	鳥取市 / 日本大学助教
ロバート・タビュン	鳥取市 / 日本キリスト教団青谷教会牧師
浦谷 清	日吉津村 / 医師
渡辺 兼直	米子市 / 詩人

(アイウエオ順)



「原発風船」を上げます。ご協力下さい。

風船の届く所必ず「死の灰」も届く

鳥取県内の反原発住民4団体は、10月24日(日)、長尾鼻岬の入口で、風船五〇〇個を一斉にあげることにしています。

風船を拾った方は、風船につけてあるハガキに、拾った場所、日時など印刷してある質問項目(四つ程)にご記入の上、最寄りのポストに投函して下さい。ようご協力をおねがいいたします。

風船の届くところには、必ず死の灰が届きます。

原発は放射能(死の灰)を周辺にまき散らし、処理のできない放射性廃棄物のツケを子孫に押しつけるばかりか、経済的にも引きあわない危険で短命なエネルギーです。



原発がなければ私たちの生活が成り立たないような宣伝をし、札束を使って人心をまどわせっつ、原発推進を強行する電力会社等のやり方に、強い憤りを覚えます。

この風船あげは、広く県内外の人びとに、中電の長尾鼻原発計画を認識してもらい同時に、万一長尾鼻原発が建設された場合の、

周辺への影響調査の意味を持っています。

今回を手はじめとして、この風船あげは中電が長尾鼻原発計画を断念するまで10年かろうが20年かろうが、やり続けられます。

この反原発風船あげを成功させるために、住民団体では、当日行動への参加を呼びかけるとともに、資金カンパも要請しています。

『鳥取県婦人新聞』1982年10月17日



1982年10月24日、長尾鼻で第1回反原発風船上げ

第1回 反原発・風船あげの報告

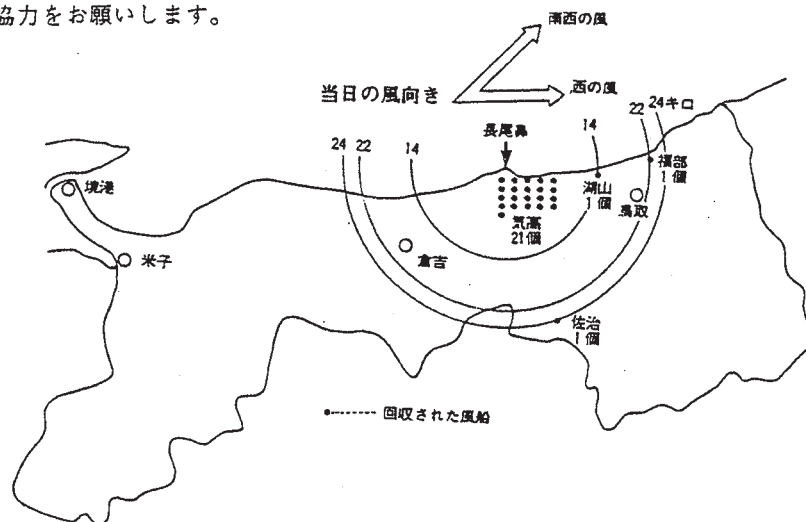
中国電力が長尾鼻に計画している原発立地を断念させるため、私たち県内の反原発住民4団体は、昨年10月24日、気高郡青谷町の松ヶ谷付近（国道9号線駐車場）からハガキ付き風船500個をあげました。

当日は、低気圧が日本海を東進し、長尾鼻から海の方に強い風が吹き抜けるという悪条件でしたが、青谷町との町境の気高町松ヶ谷の松林で21個、鳥取市湖山町で1個、岩美郡福部村で1個、八頭郡佐治村で1個、の計24個の風船が回収されました。

風船が届く所には確実に“死の灰”（放射能）が届きます。原発からは平常運転中でも微量の“死の灰”が環境にもれ続けていますし、ひとたび大事故が起きたら大量の“死の灰”が一挙に周辺にまき散らされます。

今回の風船あげで、南西ないし西の風の場合、①気高町に大量の“死の灰”が降り注ぎ、②さらに1時間以内に鳥取市もスッポリと“死の灰”のカサの下に入り、③“死の灰”の影響は岩美郡や八頭郡にも及ぶ——ということがわかります。

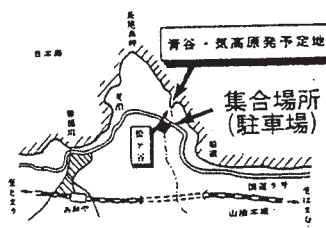
私たちは、中電が長尾鼻への原発計画を完全にあきらめるまで、10年かろうが20年かろうが、この風船あげを毎年1回のペースで続けていきたいと思います。今後とも皆様のご協力をお願いします。



風船あげの日時・場所・条件

日時＝1982年10月24日 午前10時半～11時半
場所＝鳥取県気高郡青谷町松ヶ谷付近（国道9号駐車場）
天気＝うすぐもり（気温16.9度）
風向＝南西ないし西の風
風速＝5.7～9.0 m/秒

（以上、鳥取地方気象台の観測）



風船の回収場所と日時

- ① 岩美郡福部村浜湯山（1982年10月24日 午前11時27分）
- ② 八頭郡佐治村加茂（1982年10月26日）
- ③ 鳥取市湖山町の鳥取空港付近松林（1982年10月29日 午後3時15分）
- ④ 気高郡気高町松ヶ谷の松林（1983年3月20日 午前10時～11時半）

1983年4月

青谷原発設置反対の会
反原発市民交流会・鳥取
反原発市民交流会・中部
鳥取県西部原発反対の会

地元町議会も反対決議

こうした地元とその周辺での原発立地阻止の運動の高まりを背景に、青谷町議会は三月二十四日、長尾鼻への原発立地に反対する意見書を全会一致で議決し、二十七日、県知事と県会議長に、また、三十日には総理大臣、通産大臣、科学技術庁長官に提出した。この意見書提出に先立ち、青谷町の山根町長、氣高町の谷口町長も三月定例町議会で、地元への原発設置に反対する意向を、それぞれ公式に表明している。

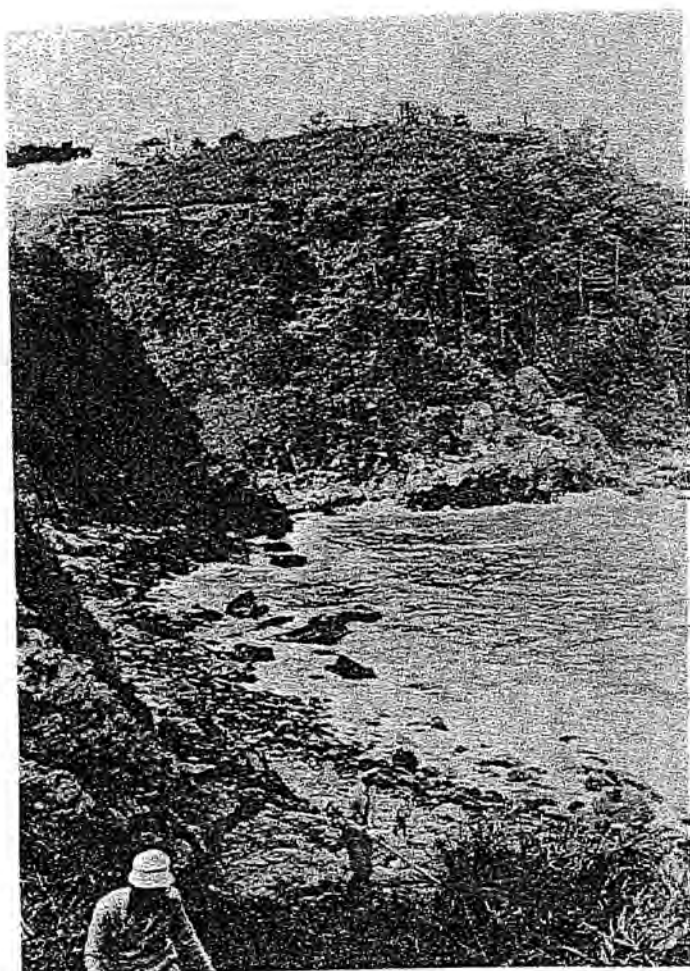
原発立地のカギを握る地元の夏泊漁協(青谷)や船磯漁協(氣高)は、中電の計画が潜伏段階にあるため、公式の態度決定や言動は慎重に避けているが、原発への警戒と反対の意思は強く、船磯漁協は組合長はじめ全理事が前述の共同アピールに名前をつらねて反対の態度を明らかにした。

中電は、長尾鼻原発の受け皿の揚水発電所・新変電所・送電線の建設に膨大な先行投資を行ない、地元住民を、休むひまなく島根原発や敦賀原発に招待し、潜航して住民工作と原発PRをすすめている。これに呼応して平林県知事は、二年前から「原発必要論」原

発誘致論」を公然とぶち上げている。だが、私たちは、この美しい郷土に原発が死の灰にまみれた土足で踏み込むことを決して許さない。

(鳥取支局 Y)

『反原発新聞』1982年6月20



原発建設予定地の長尾鼻・松ヶ谷

中国電力の原発計画を封じ込める 鳥取県で広がり深まる住民運動

鳥取県気高(けたか)郡青谷町と気高町の境界に位置する長尾鼻岬が中国電力の原発候補地として狙われていることは、本紙第二十九号、三十号で簡単に報告済みだが、昨年初め、私たちは、さまざまな経路で中電の原発計画の青写真や住民工作の全容をつかみ、急ぎ、立地阻止の運動を構築した。そして、ことし年頭、中電幹部が記者会見で、「新規原発立地のメドは年内につけたい」と立地点は人口が少なく、心理的に住民に受け入れられやすい日本海側」と発言したことが報道され、私たちの郷土危うしの危機感は、いっそう深まった。だが、いまや鳥取の原発立地阻止の運動は地元と県下全域に波及定着し、その力を押しとどめることはもはやできない勢いである。

原発設置反対の会の結成

天から降ってわいたような原発立地の話に最初は半信半疑だった地元青谷町の住民が、ついに立ち上がった。昨年十

一月、町民有志による「青谷原発を考える会」が主催して、久米三四郎氏(阪大)の講演会を開き、ことし三月二十一日には、考える会を発展させた「青谷原発設置反対の会」を結成。これは、町民有志が、政党や労組に頼らず独自につくった個人参加の住民組織で、その正式な旗上げは長尾鼻原発を阻止する最強有力な橋頭堡ができたことを意味する。

中央公民館で開かれた右の結成大会には八百人以上の地元住民が参加。歯科医の吉田通氏を代表に十一人の役員を選び、月二回の定例学習会、地区ごとの学習会、町民への情宣活動、資料の整理と紹介、署名活動など、青谷町に原発を建設させないための諸活動をすすめていくことを確認した。

地元婦人会の署名運動

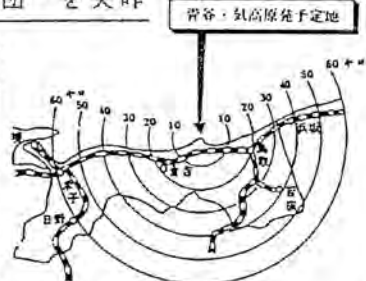
長尾鼻をはさむ青谷・気高両町の六婦人会八百人で組織している気高郡連合婦人会は、原発立地の噂の出た三年前の七九年十一月と、中電の具体

的な動きが明らかとなった昨年六月の二回、青谷町の中央公民館に小出裕章氏(京大)を招いて独自に講演会を開催。昨年十一月には、連合青年団と共催して、気高町の老人福祉センターで久米三四郎氏の講演会を持ったほか、婦人会員自らが講師となって、スライドを使い、地区ごとの学習会を行なっている。

その気高郡連合婦人会は、草の根の住民運動の一環として、ことし二月下旬から原発設置反対の署名運動を展開。わずか二カ月間で、郡内三町の有権者の半数を超える九千二百九十八人の署名を集めた。四月二十日、この署名を中電と県に提出して、原発設置の断念を訴えている。連合婦人会長の村上小枝さんらの話では、署名運動の手応えは予想以上に、住民の圧倒的多数が原発設置に反対との確信を深めたという。

県内各界の共同アピール

地元婦人会の署名提出に続



いて、四月二十八日には、県内各界各層の代表者ら三百十一人の「青谷・気高原子力発電所建設計画に反対する共同アピール」が発表された。アピール署名人代表らは、中国電力、県知事、県会議長、青谷・気高両町の町長と町会議長にアピールを提出し、それぞれとの交渉のなかで、美しい自然環境と農林漁業を重要な産業基盤とする県内への原発立地は絶対に認められないことを強調した。

この共同アピールは、県内の農業、漁業、労働、教育、医療、福祉、宗教、文化など各方面の第一線で活躍している人物を幅広く網羅しており、県内への原発立地に反対するとの一点において、イデオロギーや政治的立場を超えて結集した郷土を守る統一戦線ないしは反原発の県民運動的性格を持つ。



県政記者クラブでのアピール発表

つ。中電の動き次第では、いつでも再結集し、広範で強力な運動体を構築する母体となりうることは、いうまでもない。

県下全域の市民運動

地元青谷・気高両町の住民運動と連帯すべく、すでに昨年から、鳥取市と倉吉市を中心に、市民運動組織「反原発市民交流会」が、それぞれ独自に活動を始めていた。この六月には米子市でも結成大会が行なわれ、これで県下の東部、中部、西部に市民運動の母体がそろったことになる。労組関係では、自治労が昨春、いち早く県下の東部、中部、西部に原発対策委員を配置した。県評は昨年九月の定期大会で、青谷・気高原発設置反対を運動方針の主要な柱とすることを決定。各地評、地区労、単組や、民間共闘などで原発学習会に積極的に関わり組んでいる。

原発を許さない長期の態勢を

長尾鼻の再浮上と北条町への立地を警戒し

長尾鼻が中国電力の原発候補地になっている
—との情報をキャッチし、この計画を封じ込めるべく、県内の広汎な世論に訴えつつ、原発立地阻止の闘いに立ちあがってから早くも四年目の新年を迎えました。

さいわい、地元青谷・気高両町の住民運動とこれに連携する市民運動の力によって、とりあえず、長尾鼻への立地を未然に食いとめることができました。私たちは過去の経験を振り返り、気をゆるめることなく引き続き、今後長期にわたって、長尾鼻の再浮上を含む県内への原発立地に警戒と監視の眼を光らせていきたいと思えます。

◎田万川↓豊北↓青谷↓上関

中電の当初の原発立地の青写真によると、現在稼動・建設準備中の島根1、2号の他に、日本海側の田万川、豊北（以上山口県）、島根半島（島根県）、長尾鼻（鳥取県）の四ヶ所が候補地としてとりあげられています。

中電がまずねらったのは山口県・田万川町で

すが、地元漁民を中心に隣接の島根県・益田市なども巻き込む住民運動で、未然に止め出した。そこで、中電は一九七七年六月、同じ山口県・豊北町を指名し計画を公表しましたが、ここでも漁民を中心に強力な住民運動が起き、反対派から町長が立ち、つけ入る余地を与えませんでした。

「豊北町がダムなら青谷」というわけで、一九八〇年から八一年にかけて私たちの郷土の長尾鼻が有力候補地として浮上してきたことは周知の通りです。山口県・萩市も候補地の一つとして、同時に名前が出ており、中電は長尾鼻と萩を両てんびんにかけていたようです。

青谷原発設置反対の会の結成、気高郡連合婦人会の署名運動、県内各界の共同アピール、東・中・西の市民運動—と盛り上がる反原発運動に押されて、中電は一昨年以降、長尾鼻を保留、山口県・萩市と上関町にホコ先を向け、誘置のおぜん立てが早く整ったとみた上関町に集中攻撃を仕かけて現在に至っています。

◎運動を持続し警戒と監視を!!

私たちは、とりあえず、長尾鼻への指名を阻止できたことを、この間の県内世論の盛り上がり活動の成果として確認し、住民・市民運動の力に自信を持っていきたいと思います。原発は県民がその気になれば阻止できます。

と同時に、国と中電の原発推進の大方針が変らぬ限り、また、県民が油断しつけ入るスキを与えるならば、いつでも、また、長尾鼻が再浮上してくる可能性があります。

長尾鼻だけではなく、中電はもともと東伯郡北条町にも火電立地の青写真を持っており、現在の状況では今後もし同町に発電所立地があれば、火電ではなく原発と判断されます。

また私たちは、島根原発への核燃料輸送、さらには、岡山県境の人形峠の動燃のウラン濃縮工場にも眼をむけてゆかねばなりません。

電力会社は一度原発の候補地としてねらった所は簡単にはあきらめません。三重県・熊野市などでは、十余年にもわたって住民運動が続き、電力会社はいまなお原発立地工作をしつように行っています。私たちもこれを教訓にし、長期戦の態勢で、県内への立地を断じて封じていく決意です。

一九八四年一月

『原発おことわり』（反原発市民交流会・鳥取発行）第7号 1984年1月25日

原発反対の歩み

	気高郡連合婦人会の取り組み	県内外のおもな動き
1979年 (昭和54年)	6月16日 原子力発電の公害を考える会など主催 映画と講演会 「私たちは原子力発電と共存できるのか」 講師：京都大学原子炉実験所 小出 裕章 氏（県立博物館にて） 会長(村上) 副会長(中嶋、八幡) 新聞委員(小泉) 出席。 11月18日～12月16日 小出氏の講演記録を3回にわけて鳥取県婦人新聞に掲載。上の部を郡大会資料に配布。 11月25日 気高郡連合婦人会大会で「原発」問題を共同学習 講演とスライド 「私たちは次代に何を遺すべきか」 講師：京都大学原子炉実験所 小出 裕章 氏 (青谷町中央公民館にて) 「私たちは次の世代にきれいな環境をのこすため、原子力発電所建設に反対しよう」と申し合わせる。 11月～ ・『原発ジプシー』『原子炉被曝日記』『原発死』『働かない安全装置——スリーマイル島事故と日本の原発』『核燃料再処理工場——その危険性のすべて』など、原発関係書物を役員有志回し読みして学習。	3月28日 スリーマイル島原発事故発生 「原発安全神話」崩壊 6月15日 日本海新聞に 「青谷も候補地だった?! あす原発を考える集い」の記事
1980年 (昭和55年)	・『死にすぎた赤ん坊』『核文明の恐怖』『原子力発電』『プルトニウム』『原子力を考える』など関係書物を、役員有志情報交換しながら購読学習。 2月28日 広島通産局主催「電気料金値上げ問題公聴会」に、県連合婦人会を代表して、村上（郡連婦会長）が出席。電気料金大巾値上げ反対と、原子力に頼るエネルギー政策に反対する意見を陳述。 11月16日 気高郡連合婦人会大会で申し合わせ 「いのちと環境を守るため、安全性に問題のある原子力発電所の建設に反対しよう」	7月1日 6月定例県議会で自民党代表質問 「本県は東西に長い海岸線を持ち、原発の立地が可能な場所もあるかと思う」 平林知事答弁 「今日石油にかわる代替エネルギーとして身近にあるのは原子力だ。（原発は）関係者から相談があれば、県として積極的に考える」 7月25日 第4次鳥取県総合開発計画の審議会 原発問題に論議が集中、理事者側は原発の検討を主張。

	気高郡連合婦人会の取り組み	県内外のおもな動き
1981年 (昭和56年)	3月30日 気高郡連合婦人会の代議員総会 青谷原発問題に議論が集中、「空を海を土を汚してはならないのだ」と一同確認する。	1月28日 島根原発2号炉ヒアリング 機動隊厳戒の中で決行、反対派は徹夜で阻止闘争。
	4月27日 鳥取県反原発交流会主催 講演会 「町長をリコールした窪川町の反原発運動」 講師：高知県自然保護連合 坂本 三郎 氏 (鳥取市福祉文化会館にて) に気高郡連婦役員5人出席。	3月7日 日本海新聞「原発建設、青谷町も有力候補地」中国新聞「中電第3原発、候補地に長尾鼻(鳥取)も浮上」
	5月～6月 県婦人新聞に、原発問題座談会「見過すまいいのちと郷土の危機」および「窪川町長リコール」 講演記録を掲載した「原発特集」を編集し、気高郡連合婦人会全会員に配布。	3月7日 鳥取県総評が青谷原発反対を特別決議
	5月24日 6人の実行委員会主催 「原子力発電問題についての学習会」 講師：立教大学助教授 服部 学 氏 (青谷町中央公民館にて) の実行委員に近藤県婦連会長、村上郡婦連会長ら参加。	3月8日 窪川町長解職投票、リコール成立 解職賛成 6,332票 解職反対 5,848票
	5月31日 気高郡連合婦人会主催 講演とスライド 「原子力発電の安全性について」 講師：京都大学原子炉実験所 小出 裕章 氏 (青谷町中央公民館にて) 青年団、区会にも呼びかける	3月19日 島根原発2号炉に恒松知事同意
	6月～ ・『原発はなぜこわいか』『東京に原発を!』『原子力発電とはなにか』を回し読み。 スライド(原発——労働問題)を購入貸出し。	3月～4月 鳥取に反原発の市民グループ誕生、浜坂の岡田一衛氏を招いて学習会。 のちに「反原発市民交流会・鳥取」として正式に旗上げ。
	6月26日 気高町瑞穂校区で草の根原発学習会(スライドと話し合い)	4月18日 日本原電の敦賀発電所で放射能もれ発覚、汚染騒ぎ
	7月～8月 宝木校区婦人会の主催により各支部と酒津地区で草の根原発学習会(スライドと話し合い)	4月19日 窪川町長選 原発推進派の藤戸進氏返り咲く 藤戸氏 6,764票 野坂氏 5,865票
	7月5日～8月2日 県婦人新聞に、郡連婦主催学習会の小出氏の講演記録を3回にわけて掲載。	7月2日 6月定例県議会で平林知事答弁 「原発の県内立地については、要請あれば積極的に取り入れるべきだ」
		8月19日～20日 反原発市民交流会主催 講演会 「くらしとエネルギー」 講師：鹿児島大学理学部 橋爪 健郎 氏(鳥取と倉吉で) この講演会を契機に「反原発市民交流会・中部」も旗上げ。
		9月22日 鳥取県総評定期大会で「青谷・気高原発計画阻止」を運動方針の主要な柱に

	気高郡連合婦人会の取り組み	県内外のおもな動き
1981年 (昭和56年)	11月1日～3日 青谷町連合婦人会が青谷町文化祭に原発パネルを展示。 11月15日 気高郡連合婦人会と気高町合青年団の共催講演会 「いま子孫に何を遺すかー原子力発電を考える」 講師：大阪大学理学部 久米 三四郎 氏 (気高町老人福祉センターにて) 11月29日 気高郡連合婦人会大会で スライド『原発一ねらわれる長尾鼻』を上映、 原発パネルを展示。昨年に続き、原発建設反対を再度申し合わせ。 12月6日 鳥取県連合婦人会大会で 原発パネルを会場ロビーに展示。	9月30日 9月定例県議会で平林知事答弁 「石油に代わる代替エネルギーとして原発は必要だ。安全性や地元の同意が前提だが、(原発は)忌避しがたい」
1982年 (昭和57年)	2月1日 気高郡連合婦人会の新旧役員会 ・『原発ジブシー』『原発死』『原子力発電とはなにか』など原発問題学習書籍を共同購入し役員にあっせん。 2月14日 気高郡連合婦人会の役員研修会 スライド『原発一ねらわれる長尾鼻』を上映。 午後の全体会で長尾鼻原発をめぐる情勢が話し合われ、「青谷・気高原発設置に反対する署名運動を」の動議が出て満場一致で決議。 2月～4月 気高郡連合婦人会が署名運動を展開。 3月～4月 県内各界代表の共同アピール集約に協力。 3月7日～6月6日 久米三四郎氏の講演記録「原子力発電を考える」を県婦人新聞に9回シリーズで連載。 4月20日 「青谷・気高原子力発電所設置計画に反対する署名」9,298人の署名簿を作成し、会長村上小枝ら代表8人中国電力鳥取支店を訪れ、支店長に署名簿を提出、「青谷・気高原発計画を断念するよう」申し入れる。 ついで鳥取県庁に行き、上京中の平林知事に代って植谷商工労働部長に会い、署名簿の複写を提出、「中電の原発計画を受け入れないよう」陳情。	1月14日 山陰中央新報、中国新聞に中国電力山根会長談として 「57年度中に新規立地のメドを立てたい。その候補地としては日本海側を選ばざるを得ない」 3月20日 青谷町で「青谷原発設置反対の会」結成大会。 3月24日 青谷町議会が「青谷原発に関する意見書」を全会一致で決議。 同意見書は3・27平林知事と広田県会議長に提出。3・30総理大臣、通産大臣、科学技術庁長官あて郵送。 4月25日 山口県豊北町長選。 反原発派の藤井町長再選。 5月24日 県議会の自民党代表質問「原発を誘致せよ」と知事に迫る。 6月19日 鳥取県西部原発反対の会結成、平井孝治氏が講演。 6月21日 読売新聞に「中国電、萩に原発計画」 豊北町長選を境に、中電の次の原発立地工作の重点は山口県(萩と上関)に移る。

	気高郡連合婦人会の取り組み	県内外のおもな動き
1982年 (昭和57年)	4月27日 気高郡連合婦人会の代議員総会で署名運動の経過および中電への申し入れ、県に陳情した4・20の行動を報告。今後とも原発を郷土に寄せつけない運動を続けようと申し合わせ、原発関係費用を予算化する。 4月28日 県内各界代表が「中国電力の青谷・気高原子力発電所建設計画に反対する」共同アピールを発表。署名を添えて県、県議会、中電鳥取支店、気高・青谷両町役場に申し入れる。近藤県連婦会長、村上郡連婦会長参加。 6月20日 気高郡連合婦人会主催（気高町連合婦人会共催、酒津漁協婦人部後援） 講演会 「原子力発電の虚像と実像」 講師：九州大学工学部 平井 孝治 氏 （気高町浜村たつもと旅館にて） 開催に先立ち郡内全戸にちらしを配布し、参加をよびかける。 9月19日～10月17日 県婦人新聞に平井孝治氏の講演記録を4回シリーズで掲載。 10月24日 原子力発電を考える気高町民の会（準） 気高町中央公民館にて、会員多数参加。 11月28日 気高郡連合婦人会大会で申し合わせ 「子孫に禍いをのこす長尾鼻原発建設計画に反対する運動を根気よく続けよう」 12月2日 省資源県民運動県大会の「天然資源を汚染から守る」の分科会で、「原発」を問題提起（気高・山崎）。 ・『原子力の経済力』『核よ驕るなかれ』『ルポ原発列島』『われわれは原発と共存できるか』などの書物を役員有志情報交換しながら各自購読、学習。	6月25日 東部地評『誇りの海』上演。 7月24日～26日 県内反原発市民グループ 青谷で第1回反原発合同合宿。 10月21日 日本海新聞に 「地元の理解得られれば鳥取県にも原発、電力懇談会で中電副社長ら表明」 10月24日 県内反原発市民グループ 長尾鼻で第1回反原発風船あげ。 10月25日 中国新聞に「中電第二原発、上関町（山口）が最有力に」 上関での立地工作強まり、反対運動も起きる。 10月26日 県内反原発市民グループ 「反原発の日」の統一ビラまき
1983年 (昭和58年)	2月20日 気高郡連合婦人会の役員研修会 講義 「ふるさとを守るために」 講師：浜坂火力原子力発電所設置反対町民協議会 岡田 一衛 氏	2月26日～27日 映画『原発はいま』上映。 4月24日 上関町長選 反原発派の向井氏惜敗。

	気高郡連合婦人会の取り組み	県内外のおもな動き
1983年 (昭和58年)	・『経済評論別冊市民のエネルギー白書』『ウラルの核惨事』『ジョン・ウェインはなぜ死んだか』『反原発マップ』などの書籍を役員有志情報交換しながら各自購読学習。 3月26日 気高郡連合婦人会の代議員総会 原発設置に反対する運動を推進することを確認し、運動費用を予算に計上。 4月29日 県内反原発市民グループ 第2回反原発風船あげに郡婦連の会員参加。 10月22日 講演・記録集『原発のないふるさとを』(第1版)を出版。 10月23日 気高郡連合婦人会主催 講演会 「生命をおびやかす原子力発電」 講師：埼玉大学教授 市川 定夫 氏 (気高町中央公民館にて) 気高町連合婦人会が共催。青谷では青谷原発設置反対の会の主催で青谷町連合婦人会が後援。	4月29日 第2回反原発風船あげ。 5月13日～14日 島根原発2号炉2次ヒアリング 反対派初参加の「島根方式」論議呼ぶ。 7月23日～25日 第2回反原発合同合宿。 8月21日～22日 広島で中国地方反原発・反火電等住民運動市民運動連絡会議結成大会 鳥取からも反原発市民グループ参加。 8月27日～28日 京都で反原発全国集会 県内の反原発市民グループ多数参加。
1984年 (昭和59年)	・『遺伝学と核時代』『恐怖の2時間18分』などの書物を役員有志情報交換しながら購読学習。 4月5日 講演・記録集『原発のないふるさとを』(第2版)を出版。 5月26日 婦人の10年推進鳥取県協議会主催 講演会 「核はここまで来ている」 講師：プルトニウム研究会 高木 仁三郎 氏 (農協中央会倉吉事務所にて) に郡婦連会員も参加。 5月27日 第3回反原発風船あげに、郡婦連も実行委メンバーとして参加。 10月24日 和光大学教授生越忠氏の長尾鼻の地盤調査に関する記者会見に、村上郡婦連会長も同席。	3月25日 青谷原発設置反対の会が結成3周年を記念して講演会 「地震にもろい現代」 講師：鳥取大学助教授 西田 良平 氏 (青谷町中央公民館にて) 4月29日～30日 岡山県・奥津町で中国地方反原発・反火電等住民運動市民運動連絡会議。 5月27日 第3回反原発風船あげ。 6月29日 上関町議会が原発立地事前調査の請願を採択。 7月28日～29日 第3回反原発合同合宿。 8月18日～19日 高教組主催、講演会 「いのちをおびやかす原子力発電」 講師：埼玉大学教授 市川 定夫 氏(倉吉と鳥取で)

	気高郡連合婦人会の取り組み	県内外のおもな動き
1984年 (昭和59年)	10月28日 郡婦連主催 講演会 「積木細工の上の原発計画」 講師：生越 忠 氏 (気高町老人福祉センターにて) 12月 4 日 日本海テレビに科学技術庁企画の原発推進番組「見城美枝子のエネルギー・フューチャー」の放送中止申し入れ。抗議の9団体に郡婦連も参加。	8月25日 ベルギー沖でウランを積んだ仏貨物船沈ぼつ。 10月3日～5日 和光大学教授生越忠氏が長尾鼻で地盤調査。 10・25～28県下5会場で連続講演。 10月15日 上関町長が原発立地事前調査を中電に申し入れ。 12月初旬 上関町で中電がボーリング調査開始。
1985年 (昭和60年)	1月11日 日本海テレビに「ケント・ギルバード」の放送中止を再度申し入れ。抗議の11団体に郡婦連も参加。 日本海テレビは1・12放映強行、直ちに抗議声明。	1月26日～27日 上関町で中国地方反原発・反火電等住民運動市民運動連絡会議が反原発集中行動と交流会。 鳥取からも反原発市民グループ参加。

参考資料一覧

- ・緑の会『原子力発電とはなにか』『東京に原発を』（野草社＝新泉社発売）
- ・小野周監修『原発はなぜこわいか』（高文研）
- ・久米三四郎『原子力発電は安全か』（日本消費者連盟）
- ・市川定夫『放射能は微量でもあぶない』（日本消費者連盟）
- ・槌田敦『石油と原子力に未来はあるか』（亜紀書房）『石油文明の次は何か』（農文協）
『資源物理学』（NHK ブックス）
- ・室田武『原子力の経済力』（日本評論社）「原子力発電の経済性を問う」（『原子力工業』1981年9月）
- ・中尾ハジメ『スリーマイル島』（野草社＝新泉社発売）
- ・西尾漠編『反原発マップ』（五月社）
- ・西尾漠『原発・最後の賭け』（アンヴィエル）
- ・安齋育郎編『図説・原子力読本』（合同出版）
- ・安齋育郎『原発と環境』（ダイヤモンド社）
- ・飯島宗一『広島・長崎でなにが起ったのか』（岩波ブックレット）
- ・荒畑寒村『谷中村滅亡史』（新泉社）
- ・宇宙はてない社『げんぱつのえほん③てんごくのおきやくさま』『おひさまの会』No.1
- ・自主講座原子力グループ『原子力発電ここが問題だ』『太平洋を核のゴミ捨て場にするな』
『再処理工場ここが問題だ』『つくるな！第2再処理工場』
- ・反公害輸出通報センター『公害を逃すな！』（1982年10月号）
- ・原子力資料情報室『原発黒書』
- ・現代の差別と汚染を考える教育労働者の会『反核だから反原発』
- ・新潟県高教組『悪魔の火を消そう！』
- ・あげな原発いらんばい！福岡の会『原発と電気料金』
- ・原子力はごめんだ！関西連絡会『熊取原子炉を許さない府民の会』
- ・島根原発公害対策会議他『原発』
- ・鳥取県総評『原子力発電反対闘争のために』（第3版）
- ・反原発新聞鳥取支局『もし長尾鼻に原発が来たら・・・』
- ・日本はこれでいいのか市民連合『私達はどのような危険な状態にいるのか』

この講演・記録集に挿入した写真の一部は新日本海新聞社、山陰中央新報社、反原発新聞鳥取支局から提供を受けました。また、他の写真・カット・図表は、以下の単行本・論文・パンフレットから勝手ながらコピーにて利用させていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

新 版 編 集 後 記

1983年10月22日、気高郡連合婦人会が講義・記録集『原発のないふるさとを』を、出版しましたところ、県内の新聞はもとより、全国の新聞に紹介されて、その反響の大きさに、私たち自身面喰らう思いでした。

北海道・青森・新潟・石川・福井・兵庫・山口などの各県の、いずれも原発に狙われている所から、本の注文が殺到しました。また、10年・15年の歳月をたたかっている人たちから、資料や手記も寄せられてきました。

経済大国の繁栄の蔭にしわよせられた、全国各地の過疎地の住民が、さらに「原発」という重い課題を背負わせられている現実を、改めて実感し、強い衝撃を覚えました。

「これ以上、日本の何処にも原発を建てさせないために、ガンバッテ下さい。私たちもガンバります」——各地の反原発運動の人たちと、メッセージを交しながら、私たちのところの運動が、まだ序の口であることを、痛感しています。
(村上 小枝)

講演とか討議とかを聴いてそれを原稿にしていく過程の中で、いちばん労力を使うのは何といっても、テープ起こし、です。講師の「話し言葉」をそのまま録音したものを、一言一句、間違いなくノートに聴き写していく丹念な作業です。これがきっちり出来てはじめて、スペースにあわせて、どこをどう省き、どこをどう詳しく原稿に書きこむかがまします。

幾度も幾度も、テープを巻いたり戻したりしながら書き進んでいく孤独なその作業は、毎晩、深夜に及びます。1時間半の講義を「起こす」のに、一介の主婦に過ぎない私では7日～10日もかかります。時として、どんなにしても聴き取れない言葉があったり、そうした場合に限って自分のメモも取れていなかったりして、この苦しさは経験した者でなければ分って頂けないでしょう。

しかし今回の『原発のないふるさとを』を出版するに当って、私にはそうしたテープ起こしの作業が全然、負担に思えないばかりか、むしろ愉しささえありました。反原発運動の小さな力の一つになり得たら——という思いが、私をそうさせたのだと思います。

(小泉 澄子)

原発のないふるさとを

発 行 1983年10月22日 (第1版)
1984年4月5日 (第2版)
1985年2月15日 (第3版)
編集・発行 鳥取県気高郡連合婦人会